

金沢大学

FD 活動報告書



令和5年度

<目次>

1	令和5年度 全学FD活動概要	1
1-1	本学FD活動の概要	2
1-2	各部局等からの回答をもとにした点検	4
1-3	FD委員会の活動	13
1-4	<ピックアップ>特色あるFD活動	20
1-5	教学マネジメントセンターの活動	27
2	各部局等のFD活動	40
3	各部局等のBSD活動	109
4	資料編	129
4-1	令和5年度授業評価アンケート	130
4-2	令和5年度卒業・修了者アンケート	132
4-3	令和5年度卒業・修了後アンケート	134
4-4	金沢大学FD委員会規程	137
4-5	金沢大学におけるFD活動指針	139
4-6	金沢大学における教育の内部質保証に関する指針	142
4-7	金沢大学履修規程	145
4-8	金沢大学シラバス様式	150
4-9	令和5年度金沢大学FD委員会名簿	151

1 令和5年度 全学FD活動概要

1-1 本学 FD 活動の概要

本学では平成 20 年度、「金沢大学 FD 委員会規程」（後掲：4 資料編）に基づき、教育企画会議に全学の FD 委員会を設置した。

FD (ファカルティ・ディベロップメント) とは、
 授業の内容・方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取り組みをいう。(金沢大学における FD 活動指針第 2)

FD 委員会は、平成 20 年度に「金沢大学における FD 活動指針」（後掲：4 資料編）をまとめた。同指針は FD 活動が継続的かつ実質的に改善するために、FD 活動をいわゆる PDCA サイクルの中に位置づけている（図 1）。その一環として FD 委員会は各部局等が毎年度作成する報告書に基づき、当該年度の全学における FD 活動に関する報告書（「年度報告書」）を作成することとした。この規定に基づいて作成したものが本報告書である。

本報告書では、各部局等が令和 5 年度の活動に対して行った自己評価のみならず、令和 6 年度における改善に向けての取り組み予定についてもまとめている。これらの点について他部局等の状況を相互に確認し、FD 活動を相互に促進しあうことで、本学全体の FD 活動が継続的かつ実質的に改善することが期待できる。

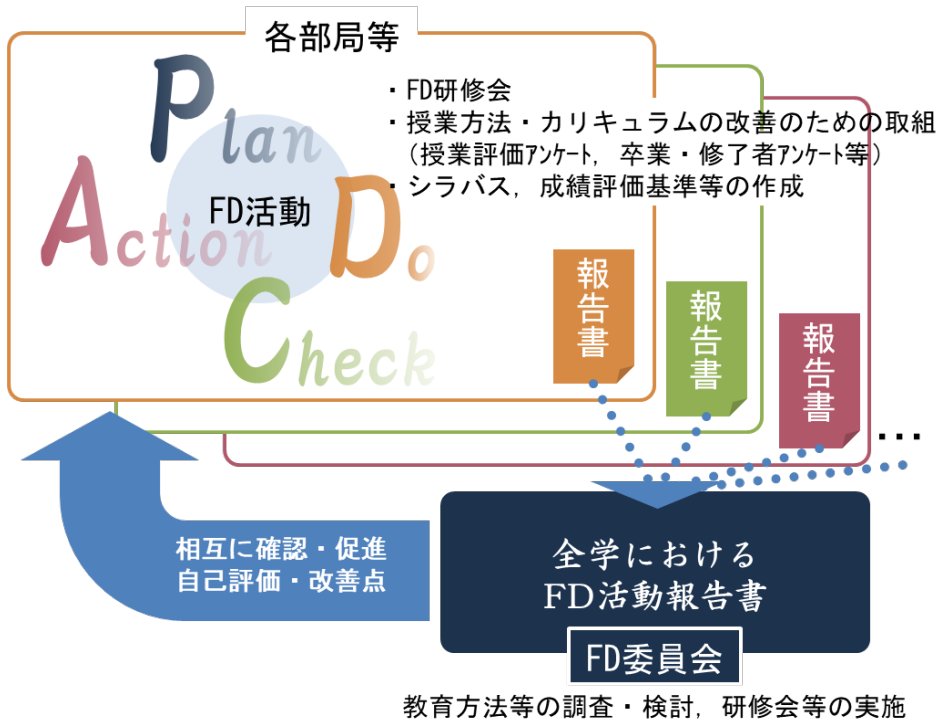


図 1 金沢大学における FD 活動

1-1 本学 FD 活動の概要

なお、同指針の特徴の1つとして、授業の内容や方法の改善に関することにとどまらず、学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等、学生支援に関する活動をもFD活動の中を含めている点が挙げられる。この点に関連して、本学では教育企画会議学生生活委員会を中心に「学生支援・学修支援」に資する目的で『教職員必携 学生サポートガイドブック』を毎年度、見直しを行い、アカンサスポータルに掲載するとともに、関係教職員にエッセンシャル版パンフレットを配布している（図2）。その内容は学生相談、留学生支援、キャリア支援、障がい学生支援等、多岐にわたっており、教職員は本冊子を有効に活用することにより、学生が抱えた問題を早期に解決し、すべての学生が「充実した学生生活」が送れるように、学生支援に努めている。

また、教員のFD活動支援や学生支援の分野で、職員の果たすべき役割はより一層大きくなりつつある。こうした現状に鑑み、職員のSD（スタッフ・ディベロップメント）及びBSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）活動についての指針を盛り込んでいることも同指針の特徴の1つである。

ところで、同指針では、教学マネジメントセンターがFD及びBSD活動に対して必要な支援を行うことを定めている（「金沢大学におけるFD活動指針」第8）。教学マネジメントセンターが令和5年度に行ったFD・BSD活動及び他部局等のFD・BSD活動に対して行った支援の内容については「1-5 教学マネジメントセンターの活動」において述べる。

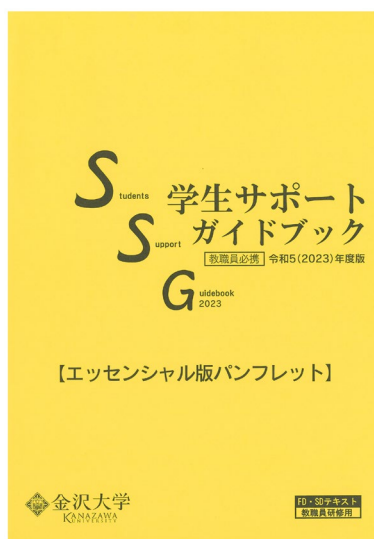


図2 教職員必携 学生サポートガイドブック

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

本学は、学則第3条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価（以下「自己点検評価」という。）並びに授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う」と定めている。また、「金沢大学におけるFD活動指針」（以下、FD活動指針）においては、研修及び研究につけ加えて、「改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げて」いくとしている。この指針を受けて、全学および各部局は、これら学則、「FD活動指針」等に基づきFD活動を推進している。

計画・実践・評価・改善のサイクルとは、学類、専攻ごとに、①学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、卒業・修了時における到達目標を明確にする、②ディプロマ・ポリシーに沿ってカリキュラムを体系化し、各授業科目の役割をマップ及びツリーという形で可視化する、③各授業科目のカリキュラム上の位置付け、教育内容・方法・到達基準をシラバスで学生に伝達する、④授業科目および教育プログラムの達成状況を、成績分布・授業評価アンケート・学修ポートフォリオ・卒業・修了者アンケートで確認する、⑤それらの分析結果に基づいて、各授業科目の教育内容・方法の改善、教育プログラムの改善を行い、部局におけるカリキュラム（マップ及びツリー）を再検証するというものである。

令和5年度は、FD活動報告書の効率のかつ効果的な構成の観点から、各部局への照会事項を厳選することとした。併せて、各部局等のFD活動の掲載について、照会事項単位での掲載を改め、各部局単位での「FD活動計画」➡「諸活動チェック」➡「自己評価」という改善向上サイクルを重視する観点から部局単位での掲載とした。

各部局のFD活動を事実に基づき確認するため、「令和4年度FD活動報告書」に記載した当該年度の自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画に沿いながら、「照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況」、「照会事項2 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況」、「照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況」、「照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)」、「照会事項5 令和5年度FD活動の自己点検及び総評」の5項目について照会した。以下に、それらについての回答を点検した結果について述べる。なお、項目によって回答母数が異なる場合もある。

照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

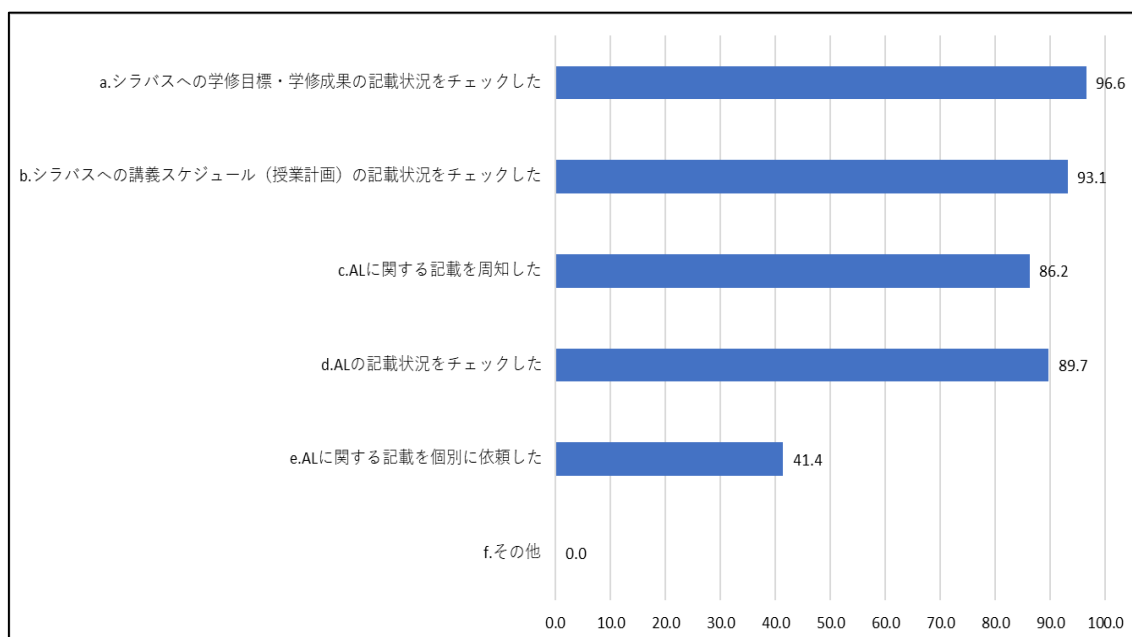
【検証事項1】令和5年度の実施状況

1) シラバスの点検①（教学マネジメント関連）

シラバスの点検については、大きく教学マネジメント関連とSGU関連の2つに分けた設問を設定した。教学マネジメント関連としては、「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」、「AL（アクティブ・ラーニング）に関する記載を周知した」、「ALの記載状況をチェックした」、「ALに関する記載を個別に依頼した」、「その他」のチェック欄を設けた上で、その具体的な内容について記述する形としている。

各項目のチェック率は図表1-2-1のとおりであるが、シラバス作成における基本項目である「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」については、前年度より改善が見られるが、法学類がチェックしていない。また、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」については、前年度同様に、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科がチェックしていない。シラバスのチェック体制は改善されつつあるが、引き続き、改善に努める必要がある。

図表1-2-1 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）



2) シラバスの点検②（SGU関連）

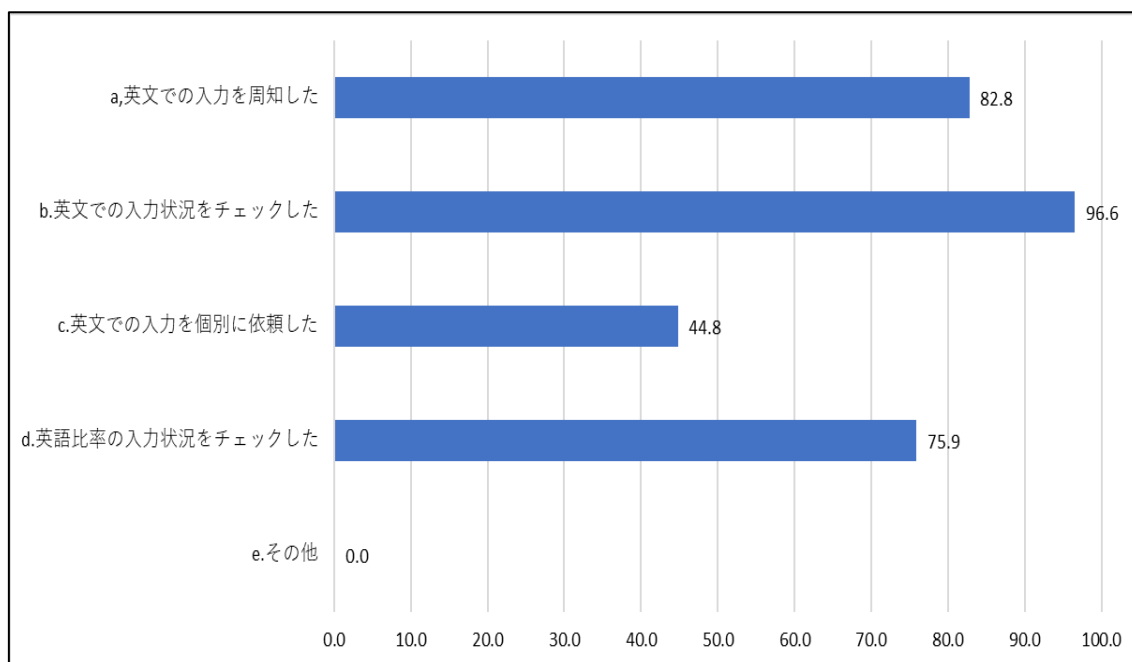
次に、SGU関連で求められている授業英語化に関する設問として、「英文での入力を周知した」、「英文での入力状況をチェックした」、「英文での入力を個別に依頼した」、「英語化率の入力状況をチェックした」、「その他」についてのチェック欄および具体的内容について回答する形としている。

各項目のチェック率は図表1-2-2のとおりであるが、「英文での入力を周知した」につい

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

ではフロンティア工学類・フロンティア工学専攻，地球社会基盤学類・地球社会基盤学専攻，国際基幹教育院外国語教育部門，医薬保健学総合研究科，先進予防医学研究科，「英文での入力状況をチェックした」については法学類，機械工学類・機械科学専攻，教職実践研究科がチェックしておらず，引き続き，改善に努める必要がある。

図表 1-2-2 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）



通常のシラバス点検および授業英語化シラバス点検については，毎年度の定期的な作業として定着する傾向にあるが，各種ヒアリング調査等を通して明らかとなる実態は，入力されているかどうかのチェックに留まっていて，シラバスの記載内容に踏み込んだチェックについては，依然として改善の余地が感じられる。また，多くの学類でシラバス点検について，学類会議，教務・学生委員会などを中心に組織的に確認している一方で，個人レベルでの点検実施や，誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られたことは今後の課題であると考えられる。

照会事項2 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

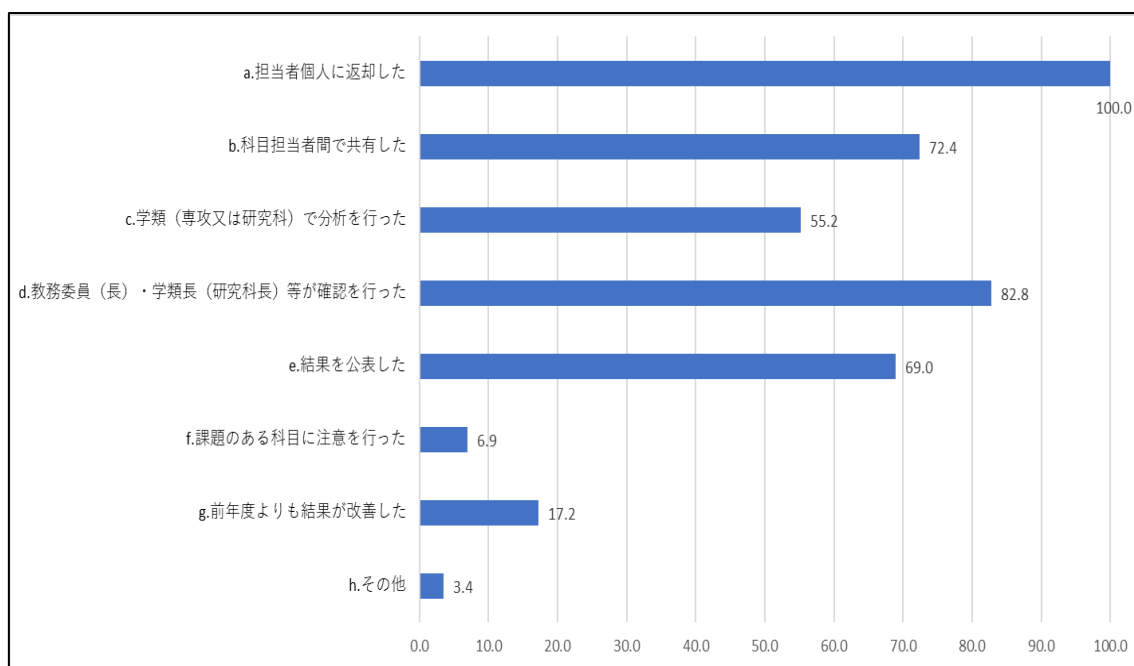
【検証事項1】授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用したか。

1) 授業評価アンケート

授業評価アンケートの結果をどのように授業改善に活用したかでは、「担当者個人に返却した」、「科目担当者間で共有した」、「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」、「結果を公表した」、「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-3 のとおりであるが、「担当者個人に返却した」が 100% となっているほか、多くの部局において「教務委員（長）、学類長（研究科長）等が確認を行った」にチェックが入っている。今後、さらに、授業評価アンケート結果の利活用を促していく必要がある。

図表 1-2-3 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）



「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「結果を公表した」で半数前後、「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」においては、少数の教育担当部局でしか実施されておらず、さらなる改善を行う必要がある。

2) 卒業・修了者に対するアンケート

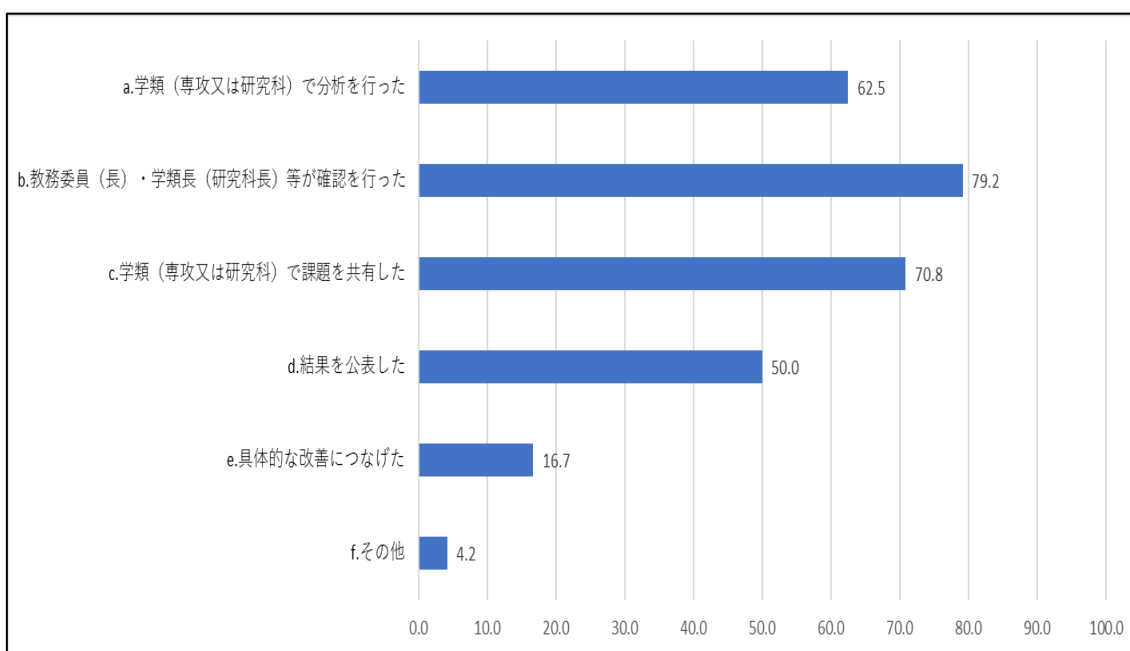
卒業・修了者に対するアンケートに関しては、「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」、「学類（専攻又は研究科）で課題を共有した」、「結果を公表した」、「具体的な改善につなげた」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-4 のとおりであるが、人文学類、法学類ですべての項目にチェックが入っているほか、多くの部局において「教務委員（長）、学類長（研究科長）等が確認を行った」「学類（専攻又は研究科）で課題を共有した」にチェックが入っている。全般的に、前年度と比較して、卒業・修了者アンケート結果の利活用が促進されている。

図表 1-2-4 各項目のチェック率（回答母数：24，単位：％）



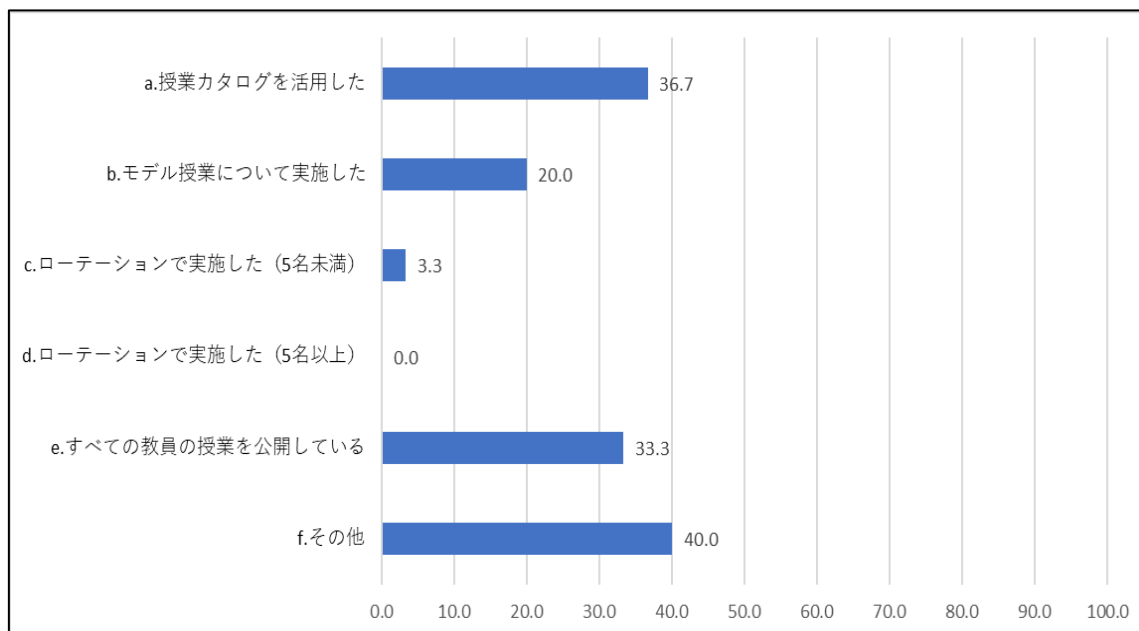
卒業・修了者に対するアンケート結果の確認、共有は一定程度行われているが、具体的な分析や改善につなげることについて課題を残している。

【検証事項2】教員相互の授業参観（遠隔授業の参観を含む）

遠隔授業の参観を含む教員相互の授業参観に関しては、「授業カタログを活用した」、「モデル授業について実施した」、「ローテーションで実施した（5名未満）」、「ローテーションで実施した（5名以上）」、「すべての教員の授業を公開している」、「その他」について回答を求めた。

「授業カタログを活用した」「モデル授業について実施した」「すべての教員の授業を公開している」について、一定程度の取組が見られるが、授業参観という形態でのFDには改善が必要である。一方で、ほかの設問への回答とは大きく異なり、4割の教育担当部局が「その他」にチェックをつけ、各部局特有の工夫を施した多様な取組についての回答がなされている。

図表 1-2-5 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）



照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

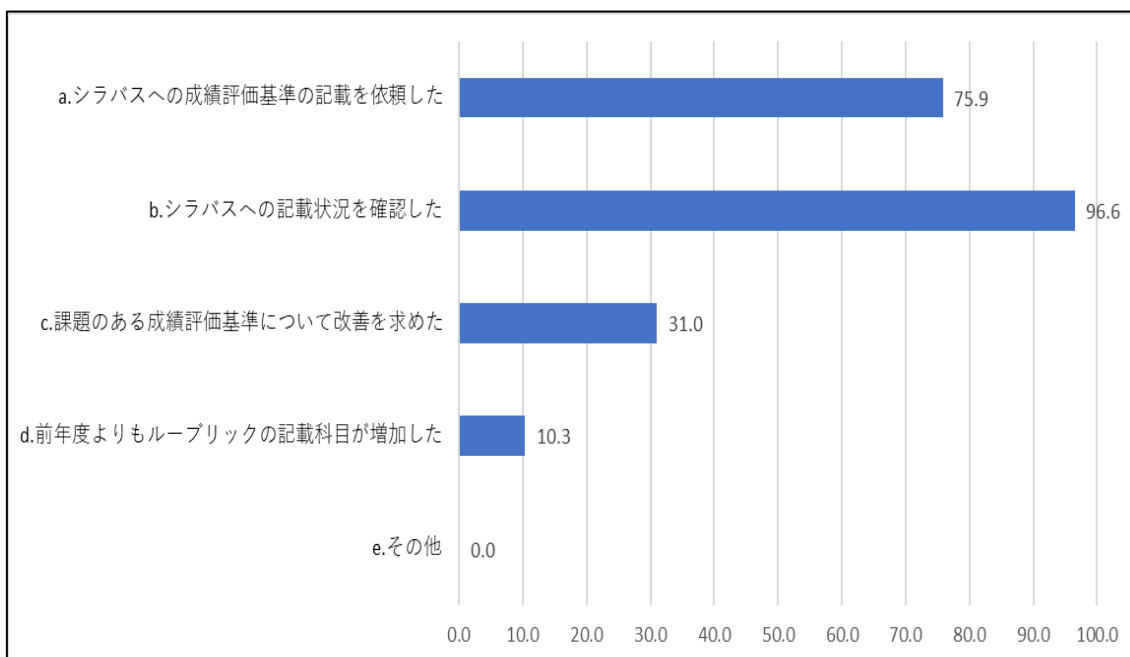
【検証事項1】令和5年度の実施状況

1) 成績評価基準等の作成・検証

成績評価基準等の作成・検証では、「シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した」、「シラバスへの記載状況を確認した」、「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもループリックの記載科目が増加した」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-6 のとおりであるが、人文学類、法学類、国際学類、薬学類、保健学類、国際基幹教育院外国語教育部門では、全ての項目にチェックがつけられており、成績評価基準に対する積極的な取り組みがうかがえる。前年度と比較して、「シラバスへの記載状況を確認した」について、大幅な改善が見られた。

図表 1-2-6 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）



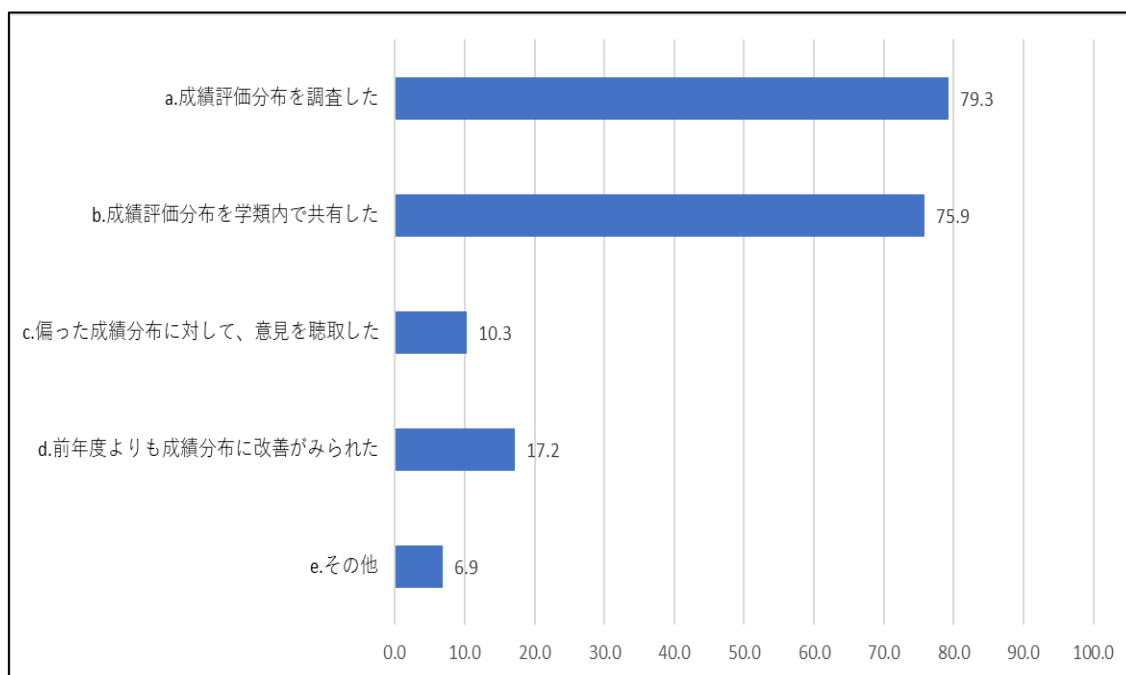
「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した」の数値が低い。ルーブリックについては科目特性の問題、既に多くの科目で記載されている可能性があるためある程度は仕方ないといえるが、課題のある成績評価基準については恒常的なシラバス点検体制の中で可及的速やかに改善されることが望ましく、FDとして課題である。

2) 成績評価方法の検証

成績評価方法の検証に関しては、「成績評価分布を調査した」、「成績評価分布を学類内で共有した」、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-7 のとおりであるが、法学類、生命理工学類・生命理工学専攻、法学研究科（修士課程・専門職学位課程）では、全ての項目にチェックが入っており、成績分布への関心が高いことがうかがえる。一方、1つしかチェックのない教育担当部局も少数ではあるが存在していることは課題である。成績をつけるのは教員の専権事項ではあるが、あまりに偏りのある成績分布は好ましくないという成績分布に関する認識共有を進める必要性が認められる。

図表 1-2-7 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）



「成績評価分布を調査した」「成績評価分布を学類内で共有した」が高い数値を示しており情報共有は浸透していることがわかる。しかし、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」は1割程度、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」は2割満たない程度と低い数値となっており、成績分布に関する組織的関与に課題を残している。「その他」では、回答選択肢とは異なるが成績分布への異なるアプローチの工夫が行われていると思われる。

照会事項4 FD研修会の実施状況（本学主催）

融合学域，医学類をはじめとして，部局独自のFD研修会について，近年，充実が見られる。この傾向は，分野ごとにおける教育・学生支援に関する新たなテーマや課題が多いことを表していると言えよう。組織改組やカリキュラム改善等を行った部局においては，直面する新しい課題について，FD研修会のテーマに掲げられている。対面及びオンラインを含めた教授法，学修支援ツールの使い方，研究指導，学生のこころのケア，留学生対応など，幅広いテーマが話題となっている。これらの部局主催FD研修会の中には，教育，研究に関して共有可能なテーマのFD研修会については全学に公開・広報されることが望まれることから，教学マネジメントセンターにおいて共催支援，学内広報支援を行うケースが徐々に増えてきている。

今後の課題

今回，教学マネジメントの観点から，シラバスにおける学修目標・学修成果の記載状況，講義スケジュール（授業計画）の記載状況を新たに点検することにしたこと，さらには，卒

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

業・修了者アンケート結果等を活用しながら、授業改善だけではなく、学位プログラムレベルのカリキュラム改善に着目するようにしたことから、照会事項の改善充実を図った。それらを踏まえて、照会事項1~5の回答を総括し課題について指摘したい。

シラバス改善のための取組みの実施状況に関して、学修目標・学修成果、講義スケジュール、AL 関連の記載および英文での入力状況については大半の教育担当部局で確認が行われていた。一方で、個人レベルでの点検実施や、誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られたことなど、シラバスの組織的・恒常的な点検体制が構築されていない教育担当部局があることも判明しており、今後の課題であると考えている。

次に、授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況では、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果を積極的に活用している教育担当部局があることが明らかになったが、授業評価アンケート結果で課題のある科目への対応が十分行われていないこと、および、それに関連するが、前年度よりも結果が改善しているケースが少ないこと、卒業・修了者アンケート結果の分析、それを反映した改善活動が不十分であること、授業参観が不活発であること、課題のある成績基準改善が十分進んでいないこと、偏った成績分布への対応が不十分であること、など、今後の課題も見えてきた。

教員相互の授業参観については、Web上で確認できる授業カタログの活用は一定程度進んでいることが確認できたが、具体的な授業参観についてはまだまだ低調であることも判明した。ただし、授業参観以外の多様な形態での教員間での情報共有、情報公開は実施されていることが「その他」への回答から見て取れるため、今後の改善充実に活かしていきたい。

成績評価基準等の作成・検証状況に関しては、成績評価分布の部局内での共有は進んでいるが、偏った成績分布への対応が不十分な点が明らかになっている。このことは、成績評価に関する組織的な関与について、更なる改善充実を進める必要がある。

学修目標・学修成果を明確にしたシラバス作成、それに基づく授業実施および成績評価、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果による改善がよりよい授業を作る上でのPDCAサイクルであり、今後の改善が一層必要であることが、今回の照会事項への回答から明らかになった。

令和5年度において、「金沢大学における教育の内部質保証に関する指針」（後掲：4 資料編）が策定され、各部局からのFD活動報告は学位プログラムレベルや授業科目レベルのモニタリング機能として重要な位置付けとなっている。3つのポリシーを念頭においてカリキュラム改善、授業改善が一層進むよう、当該年度の自己評価及び総評、さらには、翌年度に向けた改善計画を通して、学生のためにより良い教育を提供できるように努めていく必要がある。毎年のように新たな課題が出てくるが、教育担当部局として学修者重視の姿勢の下、教員間での認識を共有し、課題、解決方法を組織として検討するという体制を構築・維持していくことが、自己評価4（大いに評価出来る）につながると考えられる。

1-3 FD委員会の活動


1-3 FD委員会の活動

令和5年度における活動		
令和5年4月4日	(火)	令和5年度第1回全学FD研修会「新任教員説明会<教育・学生編>」開催
令和5年7月4日	(火)	第1回FD委員会開催
令和5年7月27日	(木)	第2回FD委員会開催（書面附議）
令和5年8月8日	(火)	第2回全学FD研修会「分野を超えた専門知の組み合わせとは ～Society 5.0における人材育成の姿～」開催
令和5年9月27日	(水)	第3回全学FD研修会「KU-DP アドバイザリーボード「実践インターンシップを通じた学びの成果発表と意見交換」」開催
令和5年10月27日	(金)	第4回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会」一学類等における組織的FDの取組事例－開催
令和5年11月28日	(火)	「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」共通テーマ4参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2023「文理横断・文理融合教育を通じた学修成果の可視化と学生の成長」開催 （金沢大学、東京都市大学、麻布大学、早稲田大学主催）
令和5年12月27日	(水)	第3回FD委員会開催
令和6年1月23日	(火)	「なぜ今、人文社会系大学院の改革・拡充なのか？」開催（人間社会研究域主催）
令和6年2月22日	(木)	第4回FD委員会開催（書面附議）
令和6年2月27日	(火)	令和5年度「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」成果発信シンポジウム「STEAM教育を通じた高大院接続による人材育成エコシステムの構築を目指して」開催 （「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画）
令和6年3月13日	(水)	未来創成教育環シンポジウム「教育現場のAI使用」開催（未来創成教育環主催）

- 各委員会の協議・報告事項及び議事要旨については下記にて公開している。
「アカンサスポータル」→「業務」→「業務マニュアル等リンク集」→「会議」→「学内会議の議事要旨等」
<https://manual.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.php/gakunaikaigi/>（学内限定）
- 各研修会（共催企画は除く。）の動画又は資料については本学ポータルサイト（アカンサスポータル）にて公開しているので、教職員は随時閲覧可能である。

1-3 FD委員会の活動

● 【研修会】

令和5年度第1回全学FD研修会 「新任教員説明会<教育・学生編>」	
主催	教育企画会議専門委員会 FD委員会及び教学マネジメントセンター
日時	令和5年4月4日(火) 10時00分～11時55分
会場	総合教育講義棟2階 A1 講義室
対象	前年度研修会(令和4年4月4日開催)以降に本学に採用された教員を主とし、関心のある教員や学務系職員の参加も可能
参加者	88名
概要	<p>新任の教員を主な対象とする全学の研修会は、平成20年度から毎年度開催している。従来は、「教養教育担当に関する初任者研修」(共通教育機構が実施、平成16～18年度)、「新任教員等研修会(兼共通教育担当に関する研修会(初任者対象))」(教育担当理事と共通教育機構長の連名で実施、平成19年度)として開催されてきた。</p> <p>本学における授業支援体制と学生支援の取組を把握することで、教育体制全般に対する理解を深めることを目的とする。</p>
プログラム	<p>(1) アカサポータル及び教務システムの活用 (森 祥寛 学術メディア創成センター 助教)</p> <p>(2) 学生指導と支援(片岡 邦重 学長補佐(教育改革・学修支援担当))</p> <p>(3) 学生の心のケア及び学生相談(足立 由美 保健管理センター 教授)</p> <p>(4) FD及びシラバス (林 透 教学マネジメントセンター 教授)</p>
	
アンケート結果抜粋	<p>・学生指導・授業に関してだが、着任後すぐに授業を持たない教員にとっては、おそらく実際に指導・授業を行うタイミングには忘れてしまい、もう一度資料をみる必要が出てくるなど手間が生じる。例えば、大学で初めて講義を持つタイミングで、時期初めに教員が参加することを要請するなど、柔軟に対応してはどうか。</p>

第2回全学FD研修会 「分野を超えた専門知の組み合わせとは～Society5.0における人材育成の姿～」(「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画)	
主催	「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」運営委員会
共催	教育企画会議専門委員会 FD委員会、教務委員会
日時	令和5年8月8日(火) 14時00分～16時00分
会場	Zoomによるオンライン開催
参加者	118名(他大学の参加者を含む)
概要	「分野を超えた専門知の組み合わせ」をテーマに、基調講演や事例紹介を通して参加者とともに考える機会となった。
プログラム	<p>・基調講演「分野を超えた専門知の組み合わせとは？」 (講師：深堀 聡子 九州大学 未来人材育成機構 教授)</p>

1-3 FD 委員会の活動

	<ul style="list-style-type: none"> 事例紹介 「融合学域における文理融合教育が目指すもの」 (中山 晶一郎 金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授) 「先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) を通した人材育成」 (山下 貴弘 金沢大学 教学マネジメントセンター 特任助教) (高木 亮太 TSK 株式会社 代表取締役社長) 意見交換・クロージング
アンケート 結果 抜 粹	・2時間という短い時間でしたが、コンパクトで中味の濃い FD 研修会であった。

第 3 回全学 FD 研修会 「KU-DP アドバイザリーボード「実践インターンシップを通した学びの成果発表と意見交換」

主 催	「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」運営委員会
共 催	金沢大学キャリア支援室, 教育企画会議専門委員会 FD 委員会, 教務委員会
日 時	令和 5 年 9 月 27 日 (水) 14 時 00 分~16 時 00 分
会 場	総合教育講義棟 2 階 A1 講義室への出席または Zoom によるオンライン参加
参 加 者	62 名
概 要	全学域学生対象に創設した「先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM)」では、協働実践科目 (300 番台) として「実践インターンシップ」を令和 4 年度より開講している。今年度 Q2 期に開講した「実践インターンシップ」の 3 つのプロジェクトについて、受講生 18 名による合同成果発表会を新たに企画し、受入先の企業や地域コミュニティはもとより、学内外の学生・教職員に広く公開し開催した。
プログラム	(1) アドバイザリーボードメンバーによる講演 「学生を変える産学協働・地域協働による学び」 (鹿島 我 京都光華女子大学短期大学部 ライフデザイン学科 教授) (2) 実践インターンシップ成果発表及び質疑応答 (3) 全体による意見交換 (アドバイザリーボード)



アンケート 結果 抜 粹	<ul style="list-style-type: none"> 「企業で働く社員紹介ムービーの制作」をはじめ、学生との協働活動を希望される企業の方も多いと思います。winwin な関係となりますよう、応援しています。 企業側として、どのようなテーマを出すのが生徒さんたちにとって学びになるのかがわかり、とても有意義な発表会でした。
-----------------	--

1-3 FD委員会の活動

第4回全学FD研修会 「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー	
主催	教育企画会議専門委員会FD委員会, 教学マネジメントセンター
日時	令和5年10月27日(金) 13時30分~15時30分
会場	Zoomによるオンライン開催
参加者	51名
概要	金沢大学では、毎年度部局ごとの組織的なファカルティ・ディベロップメント(FD)活動について「金沢大学FD活動報告書」としてまとめ、公開することで活動の共有と振り返りを図っている。令和4年度FD活動報告書においては、学問分野の特性に応じた活発な取組みを紹介しており、部局を越えて参考になる事例が多い。今回は、人文学類、国際学類、地域社会基盤学類、保健学類及び国際基幹教育院におけるFD活動を全学的に共有した。
	
プログラム	「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー (ファシリテーター: 林 透 教学マネジメントセンター 副センター長)
アンケート結果抜粋	<ul style="list-style-type: none"> ・全体討論でもあったように、FD研修会の他学類への開放やオンデマンド配信の取り組みを進め、教員の研修活動に役立ててほしい。 ・地球社会基盤学類での活動報告に驚きました。優秀教員を選出しているのですね。
「知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)」共通テーマ4 参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2023「文理横断・文理融合教育を通じた学修成果の可視化と学生の成長」	
主催	金沢大学, 東京都市大学, 麻布大学, 早稲田大学
日時	令和5年11月28日(火) 13時30分~17時00分
会場	早稲田大学早稲田キャンパス国際会議場への出席またはZoomによるオンライン参加
参加者	166名
概要	DPでは、令和4年度から、当該メニューⅠ・Ⅱ・Ⅲを横断した共通テーマを4つ設定し、採択校9大学が各メニューを越えて相互連携することにより、汎用性ある効果を蓄積・発信することを目指している。このうち、共通テーマ4「多様な学びの成果の測定及び社会通用性のあり方を情報交換・検討」をテーマに開催された。
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演①「九州大学共創学部における学生の学びと進路状況」 (鏑木 政彦 九州大学 副学長・共創学部長) ・基調講演②「文理融合系学部の現状と課題」 (村山 和生 株式会社ベネッセ i-キャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所 主席研究員)

1-3 FD委員会の活動

- ・採択校からの成果報告
 (林 透 金沢大学 教学マネジメントセンター副センター長 教授)
 (杉浦 正吾 東京都市大学 教育開発機構 特任教授)
 (菊水 健史 麻生大学 大学教育推進機構 教学 IR センター長 教授)
 (山田 寛邦 早稲田大学 大学総合研究センター 次席研究員)
- ・パネルディスカッション「文理横断・文理融合教育を通じた学生の成長」
 (ファシリテーター：山下 貴弘 金沢大学 教学マネジメントセンター 特任助教)



アンケート結果抜粋

・後半の各校の可視化の取り組み、学生さんの姿は非常に有意義だった。こちらに特化したセミナーを期待したい。テーマ・イシューに特化した教育と、文理横断・融合の教育は近接しているものの異なるもの。また、インターディシプリンであること（経済と文学といった組み合わせを含む）と、それが文理にまたがること、それぞれどのような成果が期待できるのか興味が惹かれる。

「なぜ今、人文社会系大学院の改革・拡充なのか？」

主催	金沢大学人間社会研究域
共催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会
日時	令和 6 年 1 月 23 日 (火) 15 時 00 分～16 時 30 分
会場	人間社会第 1 講義棟 102 講義室
参加者	51 名
概要	現在、文系の大学院の改革と拡充が大学教育における課題になっている。しかしながら疑問が湧き起こる。文系の大学院を拡充しても、社会は大学院で身につける能力を必要としているのか。大学院学生はどのようなキャリアパスを描けばいいのか。長くなった学生生活にかかる費用と労力は報われるのか。ひょっとするとこの状況は 1990 年代の大学院設置ラッシュの繰り返しではないのか。そもそも文部科学省の展望はいかなるものか、など。ならば直接、文部科学省の担当官に質問をしてみよう、というのが今回の企画である。理工転換や、中央教育審議会の大学院教育報告とりまとめの主担当をされていた池田宗太郎氏を講師に迎え、国の方向性、これからの社会における大学院の位置づけなどを伺った。
プログラム	「なぜ今、人文社会系大学院の改革・拡充なのか？」 (池田 宗太郎 文部科学省 研究開発局宇宙開発利用課 課長補佐 ((前) 高等教育局高等教育政策室大学院 係長))

1-3 FD 委員会の活動



令和 5 年度「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」成果発信シンポジウム「STEAM 教育を通じた高大院接続による人材育成エコシステムの構築を目指して」(「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画)	
主 催	金沢大学 (幹事校)・新潟大学・信州大学・大正大学・東京都市大学・麻布大学・千葉大学・早稲田大学・名古屋商科大学
日 時	令和 6 年 2 月 27 日 (火) 13 時 00 分～16 時 40 分
会 場	ナノ生命科学研究所棟 4 階 メインカンファレンスルーム (角間キャンパス南地区) への出席または Zoom によるオンライン参加
参 加 者	145 名
概 要	文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」では、これまでの教育や学修の枠組みにとらわれることなく、STEAM 教育などを通して新たな価値を創造し、実践できる人材の育成を目指している。新しい時代の人材育成には、学校教育や社会との接続によるエコシステムの構築が大きな礎となる。本シンポジウムは、大学・高校・企業の視点を交えながら、DP 事業による取組の意義や持続性について考える機会となった。
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演①「今なぜ、異分野融合・協働が必要なのか、そして、その価値とは？」 (岡部 徹 東京大学生産技術研究所 所長, 一般社団法人 学びのイノベーション・プラットフォーム (PLIJ) 理事) ・基調講演②「学域学類制の歩み 15 年の軌跡」 (森本 章治 金沢大学理事 (教育・高大院接続・大学院改革・情報担当) / 副学長) ・採択校からの成果報告 (福島 治 新潟大学 教育基盤機構副機構長・副学長, 教学マネジメント部門長) (上畠 洋佑 新潟大学 教育基盤機構 准教授) (坂本 泰宏 信州大学 先鋭領域融合研究群 社会基盤研究所 特任准教授) (前田 長子 大正大学 教学マネジメント推進機構 学修支援センター教授) (縣 拓充 千葉大学大学院 国際学術研究院 特任講師) (小野 裕二 名古屋商科大学 商学部 学部長) ・パネルディスカッション (ファシリテーター: 山下 貴弘 金沢大学 教学マネジメントセンター 特任助教)

1-3 FD 委員会の活動



アンケート結果 抜粋 ・今回は大学起点での DP 事業の成果が何え、有意義でした。とは言え、探究活動や STEAM 教育のもっと実のあるものとしていくには、初等教育、大学、社会とバラバラな施策を展開するだけではなく、連携した施策が重要だと思いました。

未来創成教育環シンポジウム「教育現場の AI 使用」

主催 未来創成教育環 基幹教育イニシアティブ部門 学術リテラシー企画部

日時 令和 6 年 3 月 13 日 (水) 15 時 00 分～17 時 00 分

会場 総合教育講義棟 A1 講義室への出席または Zoom によるオンライン参加

参加者 118 名

概要 昨今の生成 AI や機械翻訳の普及は、世界の教育現場に大きな影響を及ぼしており、教育のしかたや評価方法に大きな変化をおこしつつある。これまで金沢大学や北陸地区で AI と研究、AI とデジタル人材育成などに関するシンポジウムは、いくつかあったが、一般の学生や教員が授業内外で AI をどのように利用し、それが教育にどのような意義や影響をもたらすのか、ということに関するシンポジウムは、まだ開催されていない。そこで、未来創成教育環は標記シンポジウムの開催を計画した。

プログラム

- ・ 基調講演「生成 AI・機械翻訳で大学教育はどう変わるか——学術リテラシーの視点から——」
(トム・ガリー 東京大学 名誉教授・グローバル教育センター 特任教授)
- ・ 事例紹介：データサイエンス教育
(中澤 嵩 学術メディア創成センター 准教授)
- ・ 事例紹介：医療教育
(野村 章洋 融合学域 准教授)
- ・ 事例紹介：学生の AI 使用
(八柳 祐一 国際基幹教育院 教授)
- ・ ディスカッション



1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

令和5年度における全学及び各部局等のFD活動は種々実施され、全学のFD研修会（前掲：1-3）及び各部局等のFD研修会（後掲：2 各部局等のFD活動）も多数実施された。その中で、特色あるFD活動を各々1つピックアップし、紹介する。

【学域等及び研究科単位】

学域(人間社会学域, 理工学域, 医薬保健学域), 研究科(人間社会環境研究科, 自然科学研究科, 医薬保健学総合研究科), 国際基幹教育院で実施している特色あるFD活動は次のとおり。

部局名	FD活動
人間社会学域	<p>令和5年度は人間社会学域として3回のFD研修会を実施した。</p> <p>第1回目は, 令和5年6月15日に昼休み時間を利用したランチオンセミナーとして「人と自然の共生－恵みと災いの両面から－」と題し, 地域創造学類青木賢人准教授によるオンライン研修会を実施した(出席者数: 教員18名, 事務職員1名)。</p> <p>第2回目は, 令和5年9月28日に昨年度実施したCOIL型教育の研修に引き続き, 「COIL型教育を推進するために」と題して, 信州大学・仙石祐講師, 蒙埴准教授, 金沢大学・渡辺敦子准教授を講師に迎え, COIL型教育の事例紹介を通して具体的な進め方や問題点についての研修会を対面で実施した(出席者数: 教員17名, 事務職員1名)。</p> <p>第3回目は, 令和5年10月27日に「ハラスメントのない大学を目指して」と題し, 事前に本学総合相談室による人間社会学域の学生・教職員を対象とした簡易アンケートを実施して, その結果を踏まえて「人間社会学域でのハラスメント防止」について, 総合相談室室長補佐の吉川一義教授による研修を対面・オンライン併用で実施した(出席者数: 教員24名, 事務職員8名)。</p>
理工学域 自然科学研究科	<p>理工学域・自然科学研究科では, 3月25日(月)13時からオンラインにて第15回理工FDシンポジウムを開催した。新型コロナにより各教員は様々な授業形態のスキルを身に付けてきたため, 能登半島地震や大雪警報のときは急遽全学オンデマンド授業に変更して教育を続けることが可能となり, オンデマンド・オンライン・ハイブリッド・ハイフレックスを以前と比べて容易に対応できるようになってきた。しかし, それらの授業形態の学修効果(学生の理解度)に関しては, よく分かっていないところが多い。</p> <p>今後, 様々な授業形態の中でどの方法を活用するかを判断するには, 各授業形態の学修効果(学生の理解度)を把握することが重要だと考え, 昨年度に引き続き「皆さんのアンケート」と「特別講演」を組み合わせ「授業形態と学習効果2」について考えるシンポジウムとした。参加人数は79名であつ</p>

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	<p>た。</p> <p>まず事前に教員から自身の授業形態に関するアンケートを実施し、昨年度と同じ質問に対する回答の変化を示し、遠隔授業を経験した上で現在の対面授業で取り組んだことなどを教員間で共有した。その後、大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部 村上 正行教授に、「DX時代における授業デザインと学習成果を考える」という題目で特別講演をいただき、様々な授業形態の特性を活かした授業設計の例やオンデマンド授業に対する学生の評価などを紹介いただき、どのような授業形態を選択したとしても学生に疑問を抱かせ、興味を高めさせることの重要性をご教授いただいた。また、生成AIの利用に対する近年の他大学の方針やメリットやデメリットを紹介いただいた。講演後は活発な質疑応答が行われ、授業改善に向けて様々な知見を得ることができた。</p>
<p>医薬保健学域 医薬保健学総合 研究科</p>	<p>2023年度には学内外の講師を招き、計10回の医学系FD研修会を実施した。新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、FD研修会を久しぶりに対面で開催することができた。今年度より医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと連携することで、医学系だけでなく、薬学系や保健学系の教員も参加可能なFD研修会の実現を目指した。研修会の内容として多職種連携教育やテクニカルスタンダードなどを扱い、多くの教員が参加した。医学系および附属病院所属の教員がFD研修会の内容をいつでも確認できるように、FD研修会の資料や録画した動画をLMS「医学FD」上で共有してきた。また、FD研修会に年2回未満の参加であった医学系および附属病院所属の教員に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を例年通り課して、FD研修会への参加を促す取り組みを継続した。</p>
<p>人間社会環境研 究科</p>	<p>本研究科では、FD活動を通じて大学院担当教員に新たに求められる運営知識、問題や課題の意識向上を目指している。</p> <p>近年はアンケートを活用したFD研修会を企画してきた。令和2年度は大学院における遠隔授業と研究指導について、令和3年度はコロナ禍における留学生の経験と困難について、令和4年度は大学院進学に関する意識についてアンケートを実施したが、令和5年度は企業・各種団体が大学院修了者に期待することなどについてアンケートを実施し、FD研修会ではその結果と分析をめぐって討論を行った。これら調査により、従来は理系大学院修了者への期待と需要が高いと目されてきた分野でも人文社会系院生への潜在的需要が高いことが示され、それを現実化させるための方途について意見交換されたことは有意義であった。</p> <p>また、大学院改革に関しては、人文・社会科学系大学院に求められている変革について、文部科学省職員を講師に招いて講演会を開催し、我が国の大</p>

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	<p>学院政策の方向性について理解を深め問題意識を共有するとともに意見交換を行った。さらに、本年度は人間社会学域と共同で学士課程学生の大学院進学意識に関する調査を学内ならびに全国において1000人規模で行い、その調査結果を元に文系大学院進学者を増やすための方策について議論した。</p>
国際基幹教育院	<p>国際基幹教育院は、GS教育系と外国語教育系から成り立っており、共通教育という枠組みを共有しながら一般教養科目と言語科目という個別の枠組みを有している。国際基幹教育院FD委員会では、両系が共催する形でFDを実施しており、令和5年度は9回の研修会を実施した。国際基幹教育院は、一括入試で入学した学生が1年間所属する総合教育部を運営している。第1回の研修会では、総合教育部担任経験者が作成した総合教育部担任マニュアルの利用法について紹介がなされた。また、アクティブ・ラーニング手法、新外国語カリキュラム、性的マイノリティと教育、受講生によるレポートの相互評価法、生成AIを利用した革新的教育支援、フューチャー・デザインの教育導入といった広範なテーマについても取り上げた。学外や学内他部局から積極的に講師を招聘し、教育研究活動の改善に取り組んだ。研修会の動画をLMS上で公開することにより、当日不参加だった教員にも活動情報を提供している。</p>

【学類単位】

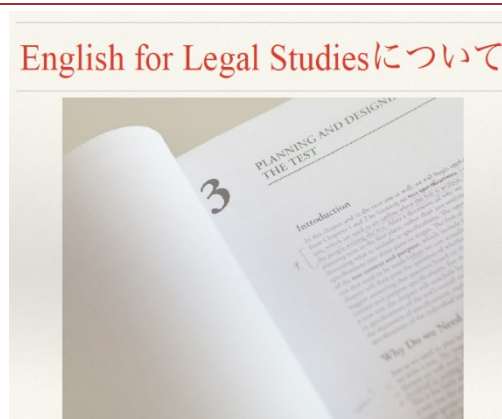
今回は、法学類、機械工学類、生命理工学類及び医薬科学類で実施している特色あるFD活動を紹介します。

○法学類

取組名称	法学類におけるEnglish for Legal Studies (EFLS) の現状と改善について
開催日	令和6年3月12日 (火)
参加人数 (概数)	20名

法学類では、学生に法学や政治学に関連する英語のテキスト読解や聴き取り・会話能力を身に付けることを支援するため、異なった分野の教員がそれぞれの分野における英語表現を紹介する、English for Legal Studies (必修科目) という授業を行っている。

同授業を中心的に担当している東川教員から、例えば下記の国会を紹介する動画の視聴後に英語の小テストに解答させる等、いくつかの具体的な教材活用例や、英語授業ならではのさまざまな工夫について紹介があり、それに基づき今後、英語を中心とした外国語の授業をどのように進めるべきか教員間で意見交換を行った。



衆議院事務局チャンネル「Special English Diet Tour」より

○機械工学類

取組名称	理工3学類合同FD研修会
開催日	令和6年3月21日（木）
参加人数 (概数)	48名

機械工学類は、フロンティア工学類及び電子情報通信学類と合同で、毎年度、FD研修会を実施している。令和5年度は、教育活動のためのソフトウェアについて、2件の講演がオンラインで行われた。

講演1：大規模授業から最先端の研究まで広く深く活用できる、DX化が進むMATLABの最新技術紹介（Mathworks Japan）

包括ライセンスとして導入しているMATLABは、数値計算、Live Scriptや、可視化ツール、オンラインでの利用環境等が充実しており教育・研究を加速するプラットフォームとして利用できる。

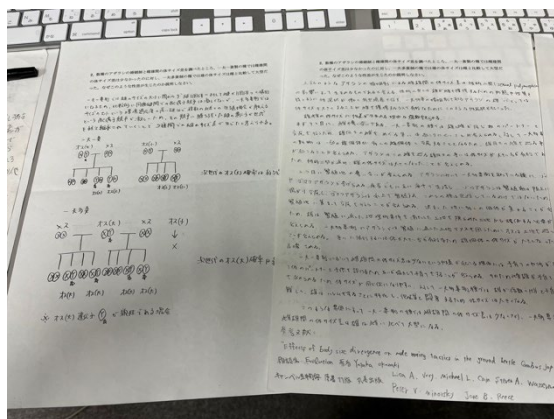
講演2：教育活動のためのソフトウェアツールの紹介（辻徳生准教授）

プログラミングと論文執筆に関係するクラウドを介したサービスを、実演を交えながら紹介。さらに、ChatGPTなどの機械学習を導入したサービスを使用する利点と注意点についても紹介。

○生命理工学類

取組名称	学生のレポート作成の改善と実習実施方法の取り組み
開催日	Q3からQ4
参加人数 (概数)	10名

本学類では学生のレポートの作成法について検討と試験的運用を行った。近年、ITやネット情報の発達により安易な情報ソースやそのコピーで学生がレポートを作成してしまうケースが多い。校閲ソフトもあるがAIによる文章作成も横行しているためチェックが難しいのが現状である。それらへの対策として直筆によるレポート作成の対策を試験的にいくつかの講義で行った。A4用紙2枚程度にレポート課題を載せ、学生に直筆でレポートを作成、図表等も全て直筆して、提出する試みを行った。ソースや文書の作成方法に関係なく、学生はレポート課題に関する知識を身に付けることができる。また一部で問題となっていたレポート同士のコピーの対策にもなる。学生はレポートを熱心に作成してきたので教育効果は高かったと考えられる。今後はこうしたレポート作成方法を学類内に普及していく予定である。また本学類の特色の1つである能登の臨海実験所、水産センターを利用した学生実習の実施方法、宿泊を伴うため学生のメンタル面についても配慮すべく、検討を行った。しかし能登の震災によって2つの施設の実習での利用が難しいため再度検討する予定である。



○医薬科学類

取組名称	医薬科学類学生の現状について
開催日	令和5年10月26日（木）
参加人数 （概数）	13名

令和5年度、医薬保健学域医薬科学類では、10月26日にオンラインでのFD研修会を実施した。医薬科学類は、次世代の医療分野の研究開発を担う医学と薬学にまたがる幅広い知識を習得した人材を養成するため、令和3年度から新たに設置された学類である。そのため、昨年度、一期生はまだ3年次であり、FD研修会では、医薬科学類学生の修学における状況を客観的に把握する目的で、「医薬科学類学生の現状について」と題してフリーディスカッションを行った。医学類との共同開講科目、もしくは薬学類との共同開講科目について、医薬科学類と対応する学類との成績状況の差や、GPAの分布状況の統計結果を評価しつつ、成績基準のありかたや学生間のコミュニケーションについて幅広く議論した。さらに、医薬科学類独自科目の充実や医薬科学類学生としての独自のアイデンティティを構築するための意見交換が行われた。

1-5 教学マネジメントセンターの活動

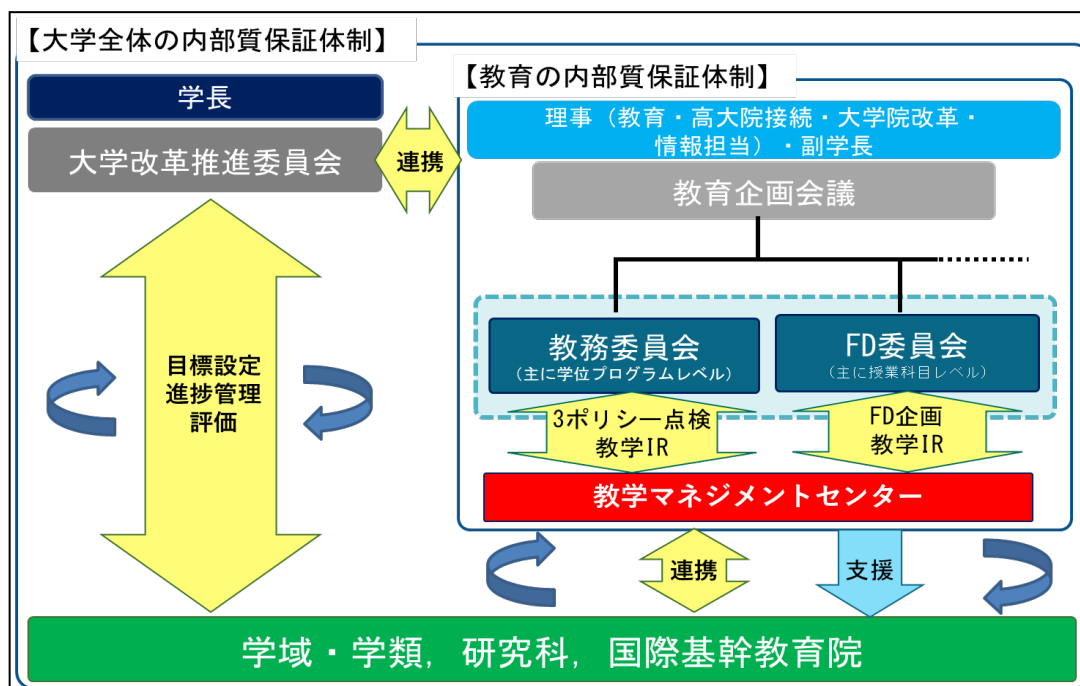
1-5-1 教学マネジメントセンターの業務概要

学長のリーダーシップの下、本学のFD支援、教学マネジメントを担ってきた国際基幹教育院高等教育開発・支援系及びICT教育支援を担ってきた総合メディア基盤センターを発展的に解消し、新たに令和3年4月に教学マネジメントセンター及び学術メディア創成センターを設置し、両センター連携によりFD、教学IR、教育DXを一体として推進する体制を構築した。

学内のマネジメント体制強化のため、教育担当理事・副学長の下に置く組織として位置付け、学内の連絡・調整を円滑にするため、全学の教務委員長・FD委員長を務める学長補佐をセンター長に据え、センターの業務を掌理する体制とした。教学マネジメントセンター設置以降、教育の内部質保証体制の明確化の観点から、各種検討や学内調整を重ねつつ、現在は、図表1に示す組織体制において、日々の活動を行っている。

教学マネジメントセンターの具体的な所掌業務は、以下のとおりである。

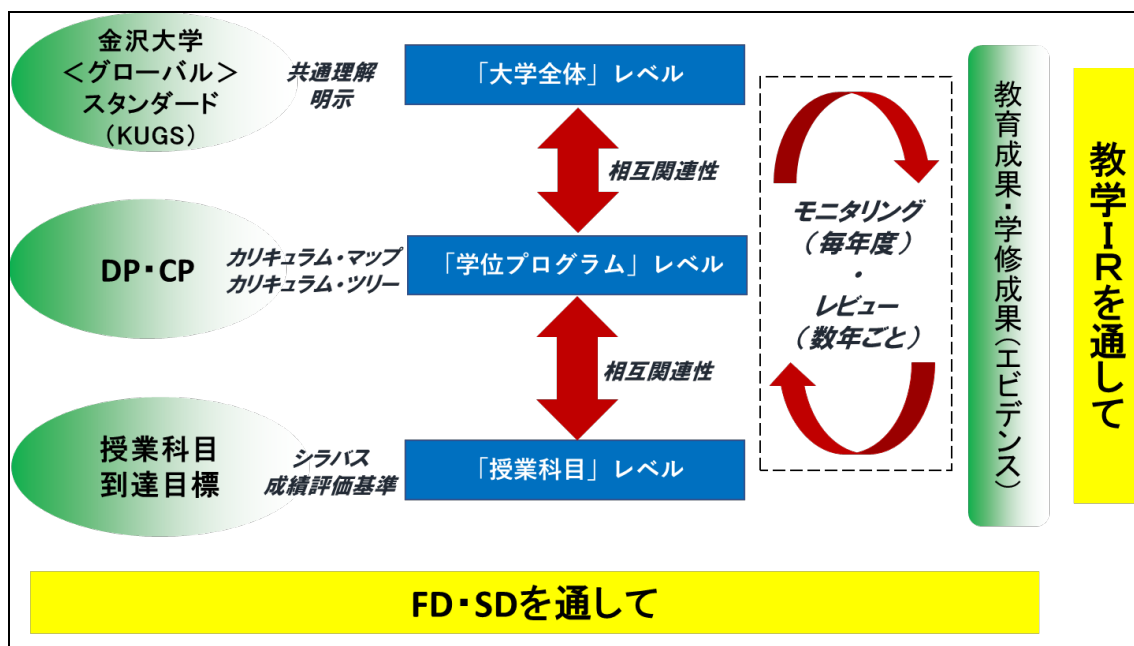
- ① 全学の教学マネジメントの確立、学位プログラム等における教育の質保証及び質向上に関すること。
- ② 教育方法、教育システム及び教育支援等に関する研究開発並びに教育に係る質保証システムの研究開発に関すること。
- ③ 全学的に取り組む教育事業及び分野横断的学位プログラムの企画立案、運営及び評価に関すること。
- ④ 教育スキルの向上に資する支援に関すること。
- ⑤ 全学のFD・SDの企画・実施及び学域・研究科等のFD・SD活動の支援に関すること。



図表1 教学マネジメントセンターの設置及び関係組織との連携体制

1-5 教学マネジメントセンターの活動

教学マネジメントセンターの諸活動を始めるにあたり、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会 2020）に示された「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」レベルに応じた教学マネジメントの枠組を図表2、図表3のとおり体系づけながら、各レベルに応じたFD・SD、教学IRの環境整備と具体的取組を進めている。



図表2 教学マネジメントセンターが支援する教学マネジメントの枠組の概要図

項目 レベル	教育・学修目標	改善充実のための機会 (FD・SD)	アセスメントツール (教学IR)
大学全体レベル (マクロ)	金沢大学 <グローバル>スタンダード (KUGS)	全学FD 新任教員説明会	学生生活実態調査 卒業・修了後アンケート
学位プログラムレベル (ミドル)	(各学類、専攻で定めた) ディプロマ・ポリシー (DP)	全学FD 学域・学類、研究科FD	卒業・修了者アンケート DP達成度自己評価
授業科目レベル (ミクロ)	(シラバスに明記された) 学修目標	全学FD 学域・学類、研究科FD 新任教員説明会 CLA研修	授業評価アンケート 成績評価分布

図表3 アセスメントプランの枠組の概要図

1-5 教学マネジメントセンターの活動

1-5-2 FD・SD 活動の枠組と実績

令和3年度の教学マネジメントセンター設置以降、教育担当理事・副学長及び学長補佐（教育改革・学修支援担当）の指示のもと、全学的視点に立ったFD・SD活動を行いながら、部局FDとの協働・連携・支援を行っていく必要があるため、「全学FD・SD」と「部局FD」の関係性について事項整理しながら、「全学FD・SD」で担うべきこと、「部局FD」で担うべきことを明確化した。

【「全学FD・SD」の役割と基本メニュー】

①「全学FD・SD」の役割

- ◆大学の理念や基本方針の理解と共有
- ◆教職員として知っておくべき事項，遵守すべき事項の理解と共有
- ◆各年度における教学関連の全学的課題の理解と共有
- ◆教職協働，教職学協働のための場づくり

②「全学FD・SD」の年間メニュー（基本セット）

図表4 全学FD・SDの年間メニュー（基本セット）

時期	内容
4月	新任教員説明会
4月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）研修会，高度TA研修会
9月	全学FD研修会
10月	FD活動報告書成果発表会
12月	教学マネジメントセミナー（全学FD・SD）
2月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）実施報告会
2月または3月	教員向け英語研修会
3月	全学FD研修会（当該年度成果報告会）

【「部局FD」の役割と基本メニュー】

①「部局FD」の役割

- ◆各部局における主要事項の理解と共有
- ◆各部局における各年度での諸課題の理解と共有
- ◆各部局における授業・カリキュラム，学修状況・成果の把握・検証
- ◆各部局における全学的課題の理解と共有

1-5 教学マネジメントセンターの活動

②「部局FD」の基本メニュー

各部局に応じた組織単位での実施を尊重しつつ、部局主催でのFD活動について、以下の二つの区分に整理した。

- ア) 個別テーマ型FD・・・部局における主要事項の理解と共有、部局における各年度での諸課題の理解と共有を目的として、当該部局が独自のテーマ設定により実施するFD
- イ) 統一テーマ型FD・・・全学的課題の理解と共有などを目的とし、教学マネジメントセンター等が連携・支援しながら実施するFD
(授業評価アンケートや卒業・修了者アンケート等の結果報告、機関別認証評価で求められる学位プログラム単位のDP・CP、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーに関する点検・見直しなど)

令和5年度においては、FD委員会及び教学マネジメントセンターが企画実施する定例的な全学FD研修会に加え、先導STEAM人材育成プログラム(KU-STEAM)の周知を主な目的とした、教職学協働型のKU-STEAMランチョンセミナーを昨年度に続き企画実施した。また、高大接続コア・センターと共同主催した「探究・STEAMフェスタ」についても昨年度に続き企画実施し、高校生・高校教員と大学生・大学院学生・大学教員が集う対話の場づくりを設けることができた。

本学では、各種セミナー・シンポジウム等を「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画として学外に広く公開するとともに、録画データ及び配布資料を学内ポータルサイトに公開・配信している。なお、令和5年度に入り対面での実施が主となっているが、対面とオンラインそれぞれのメリットを活かした効果的なFD機会を提供していきたい。令和5年度全体のFD・SD実績は以下のとおりである。

図表5 令和5年度FD・SD実績の概要

内 容	開催月日	参加者数
新任教員説明会	4月4日(火) 午前の部 4月4日(火) 午後の部	53名 83名
KU-STEAMランチョンセミナー	4月下旬～11月上旬 計9回開催	323名
全学FD研修会 「分野を超えた専門知の組み合わせとは～Society5.0における人材育成の姿～」	8月8日(火)	118名 (学外公開)
全学FD研修会及びKU-DPアドバイザーボード 「実践インターンシップを通じた学びの成果発表と意見交換」	9月27日(水)	62名 (学外公開)
全学FD研修会 FD活動報告書成果発表会	10月27日(金)	51名
「知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)」共通テーマ4参加校合同主催 教学マネジメントセミナー2023 「文理横断・文理融合教育を通じた学修成果の可視化と学生の成長」	11月28日(火)	166名 (学外公開)
高大接続ラウンドテーブル特別企画 「探究・STEAMフェスタ2023 ～高校生の探究心に火を灯す～」	12月10日(日)	114名 (学外公開)
令和5年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」 採択校合同シンポジウム	2月27日(火)	145名 (学外公開)

1-5 教学マネジメントセンターの活動

1-5-3 学位プログラムレベル・授業科目レベルを中心とした教学マネジメント環境整備

教学マネジメントセンターでは、昨年度に続き、学位プログラムレベル、授業科目レベルを中心とした教学マネジメントに関する基本的な環境整備を進めた。

具体的には、令和4年度再整備した3つのポリシーの一貫性のある見直しを受けて、教育の内部質保証に関する指針の策定、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの体系的再整備を行うとともに、学類長ヒアリングの実施、さらには、大学院学生版トランスファラブルスキルの策定に向けた検討を行った。

1-5-3-1 「金沢大学における教育の内部質保証に関する指針」の策定

未来ビジョン『志』milestoneにおいて、下表のとおり目標設定した「学位プログラム評価の仕組みの構築」を目的に、教育の内部質保証の規定化に取り組んだ。この規定化の作業は、いわゆる「アセスメントプラン」の策定作業に該当するものであり、茨城大学『教育の内部質保証マニュアル』等の他大学の事例を参照しながら、取りまとめを行った。

図表6 金沢大学未来ビジョン『志』milestone 抜粋

教育-1-③-2	学位プログラムレベルの教学マネジメントの強化		担当理事等 (担当部局)	教育・高大院接続・大学院改革・ 情報担当理事(学務部)
行程(時期及び具体的な事項を簡潔に記載すること)				
2022年度	2023年度	2024~2025年度	2026~2027年度	
<ul style="list-style-type: none"> 3つのポリシーの策定内容の把握・改善 カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーの改善充実 				
<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム評価の仕組み化についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム評価の仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム評価の実施 大学全体レベル及び部局レベルの内部質保証体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム評価の完了 大学全体レベル及び部局レベルの内部質保証体制の検証 	
<ul style="list-style-type: none"> 機関別認証評価での是正勧告、改善課題等に係る課題解決の実施 学修成果ポートフォリオの活用とその分析の開始 IR 卒業生の追跡調査 IR 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム評価を支えるFD・SD、教学IRの学内環境の整備 機関別認証評価での是正勧告、改善課題等に係る課題解決の実施・大学基準協会への報告 学修成果ポートフォリオの活用とその分析の継続 前年度の継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムレベルの教育成果及び学修成果の情報公表 学修成果ポートフォリオの活用とその分析に基づくカリキュラム改革の検討 前年度の継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムレベルの教育成果及び学修成果を情報公表・検証 学修成果ポートフォリオの活用とその分析に基づくカリキュラム改革の実施 前年度の継続実施 	

教育の内部質保証については、「教学マネジメント指針」(中央教育審議会大学分科会(令和2年1月22日))に沿って、「大学全体レベル」「学位プログラムレベル」「授業科目レベル」の3つのレベルに分けて捉え、各レベルに応じた日常的な点検(モニタリング)及び総合的な点検・評価(レビュー)の方法を明記。

各学位プログラムの責任者は、毎年度1回の日常的な点検(モニタリング)及び7年に1回の総合的な点検・評価(レビュー)の結果について、教育担当理事・副学長に報告。教育の内部質保証の推進責任者である教育担当理事・副学長は、教育企画会議の議を経て、内部質保証の統括責任者(学長)に報告。

1-5 教学マネジメントセンターの活動

日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）において参照すべき各種調査データ提供及び分析等について、各学位プログラムの責任者からの依頼の下、教学マネジメントセンターが支援。

1-5-3-2 カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの体系的再整備

令和3年度機関別認証評価における指摘事項を踏まえ、令和4年度には学士課程・大学院課程全般にわたり、ディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）を中心とした3つのポリシーの体系的整理を行い、大学Webサイトで公開した。これを受けて、令和5年度には、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの体系的整理を行うとともに、学修成果可視化システム（仮称）運用のための環境を整えた。

なお、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーについては、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会2020）において言及があるとおり、学位プログラムレベルの教学マネジメントにおいて、カリキュラム上の各授業科目の位置付けの明確化や授業科目間の相互関連性や順序性を明確化するツールとして重要不可欠なものであり、教育の内部質保証に関する点検項目として認証評価でも重視されている。

（1）カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの再整備

カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーについて、従来、学士課程のみ対象として、作成依頼を行ってきたが、新たに、大学院修士課程・博士前期課程も作成対象に追加し、再整備を行った。なお、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの作成依頼にあたり、教学マネジメントセンターにおいて、作成マニュアル及びテンプレートを提示するなどの支援を行った。

（2）学修成果可視化システム（仮称）運用のための環境整備

カリキュラム・マップを活用し、学生個人毎の学修度を可視化する仕組みを新たに導入することとしている。融合学域では、同学域が開発した「学びの計画書」を通して先行実施しているが、各学位プログラムのDPに関係する授業科目の単位修得に応じて、学修度をカウントする学修成果可視化システム（仮称）を全学的に運用予定である。このシステムにより、学生自身の学修目標設定と振り返りを通じた主体的な学びの実現が期待される。

このため、（1）で作成依頼するカリキュラム・マップにおける授業科目ごとの関係するDPへのマーク付けを従来のような「◎」「○」「△」といった重み付けをなくし、「○」のみのマーク付けに簡素化を図った。

1-5-3-3 学類長ヒアリングの実施

近年、ディプロマ・ポリシー（DP）やカリキュラム・ポリシー（CP）を軸とした3つのポリシーに基づく学位プログラムレベル及び全学レベルの教学マネジメントが重視されている。教学マネジメントセンターでは、各学類における教育・学修の実態について把握し、教学マネジメントの更なる充実に資することを目的に、学類長及び教務担当教員を対象としたヒアリング調査を実施することとした。

1-5 教学マネジメントセンターの活動

併せて、令和4年度の「知識集約型社会を支える人材育成事業」中間評価結果を踏まえ、全学で進める文理融合教育について専門教育の観点から更なる充実を図る必要性があることから、各学類における文理融合・分野横断教育の実態を把握することも目的とした。

【調査対象・実施時期】

調査対象：人間社会学域・理工学域・医薬保健学域の全17学類

(※融合学域は、別途、「知識集約型社会を支える人材育成事業」中間評価対応で個別調査)

対応者：学類長及び教務担当教員

実施時期：令和5年4月28日(金)～6月15日(木)1時間～1時間半程度

【調査項目】

以下の項目を事前に送付し、半構造化インタビュー形式で行った。なお、以下の項目以外に、「学類における教学関係会議」「全学委員会から依頼事項に対する学類内での作業系統」「各年次における学生支援(アドバイザー教員、指導教員等)」のほか、「カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの活用度合」「卒業・修了者アンケート結果の活用度合」を聴取した。

- ①学類におけるDP・CPの認知度及び学生への説明機会について
- ②学類におけるカリキュラム・シラバス・成績評価分布・授業評価アンケートの定期的点検について
- ③専門教育の特徴・強み及び現在、学類が抱える教育上の課題について
- ④学類における学生の学修行動・学修成果の把握について
- ⑤学類における文理融合・分野横断教育について
- ⑥卒業論文・卒業研究の評価方法や評価基準について
- ⑦学類学生に対する研究指導体制について
- ⑧学類におけるFD活動について
- ⑨学類におけるキャリア支援や留学支援について
- ⑩その他

【ヒアリング調査結果概要】

<教学マネジメント関係>

- (1) 3つのポリシーの認知度、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの活用度合について、一層の改善充実が必要である。履修案内(学生の手引き)において、3つのポリシー、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを掲載している部局が少なく、今後、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを掲載することが推奨される。
- (2) 卒業・修了者アンケート結果の部局内共有が不十分な部局が見られた。今後、卒業・修了者アンケート結果の有効活用について、全学FD委員会等を通して周知徹底していく必要がある。
- (3) 授業科目レベルにおけるシラバス作成の徹底や授業評価アンケート結果の確認は、どの部局においても行われている。なお、学校教育学類において、人間社会学域での授業評価アンケート実施クラス要件が「受講者数20名以上」となっていることについて

て改善の必要性が指摘された。

<専門教育カリキュラムの工夫>

(4) 今回の学類長ヒアリング調査を通して、コースやプログラム単位で閉じることがないように、カリキュラム上の工夫を施している学類が相当数見られた。この傾向は、学域・学類制の本来の趣旨を押さえながら、分野横断型の教育を提供しようとする意図が感じられる。具体的には、学校教育学類共同教員養成課程、地域創造学類（プログラム移行後）、薬学類、医薬科学類では、年次を超えた学生交流機会（先輩の発表を後輩が聴講するなど）や複数の研究室体験・取材を授業科目化しているケースが見られる。

<専門教育における学修成果の把握>

(5) 学位プログラムとしての学修成果の把握の好事例として、薬学類「薬学研究」「実務実習」におけるルーブリック活用や保健学類看護学専攻における卒業時の看護分野知識・技能に関するチェックリスト活用が挙げられる。また、法学類では、専門教育科目における筆記試験の模範解答を学内限定で学生に開示しており、専門教育科目の質保証を図っている好事例として挙げられる。このほか、国際学類では、卒業論文に求められる観点を履修案内において明示している。

<TA等の研修の再整理の必要性>

(6) 授業補助、実験補助を行うTAを対象とした研修やマニュアルが不十分な印象を受けた。今後、設置基準改正に伴う「指導補助者」の扱いが重要視される中で、CLA研修、高度TA研修を含めた体系的再整備が必要と思われる。

<教学IRに関する案件>

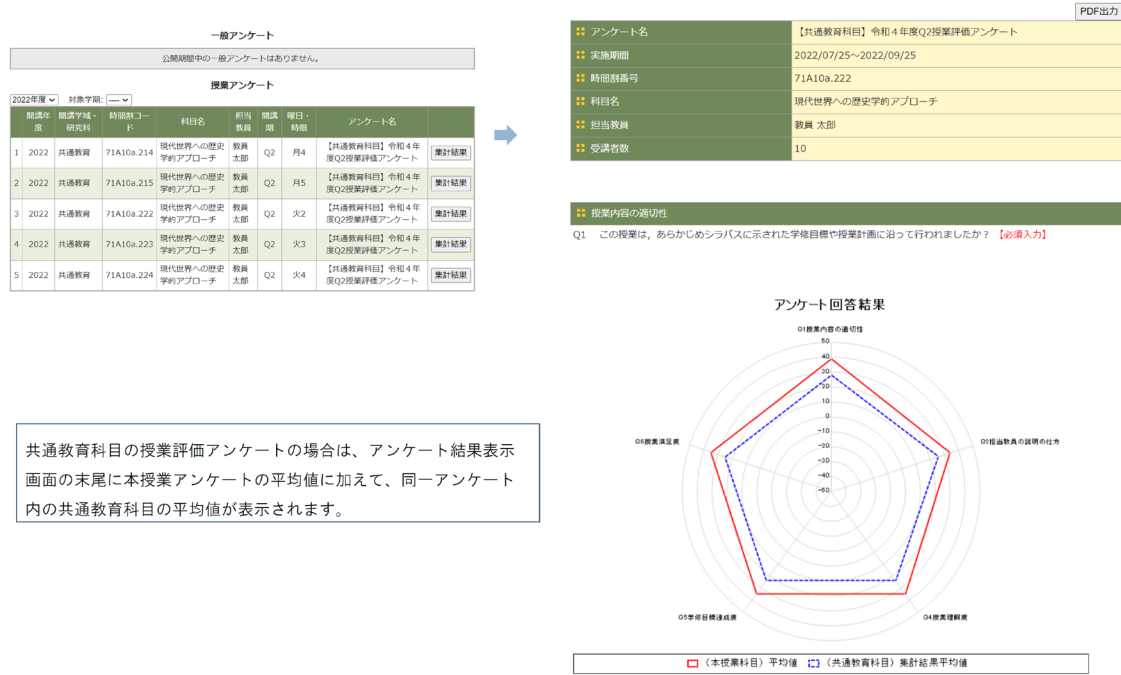
(7) 入学区分の違いによる入学後の学業状況、卒業研究着手要件及び進路に関連した学生の履修状況について確認を行った。

1-5-3-4 授業評価アンケート結果のレーダーチャート表示の充実

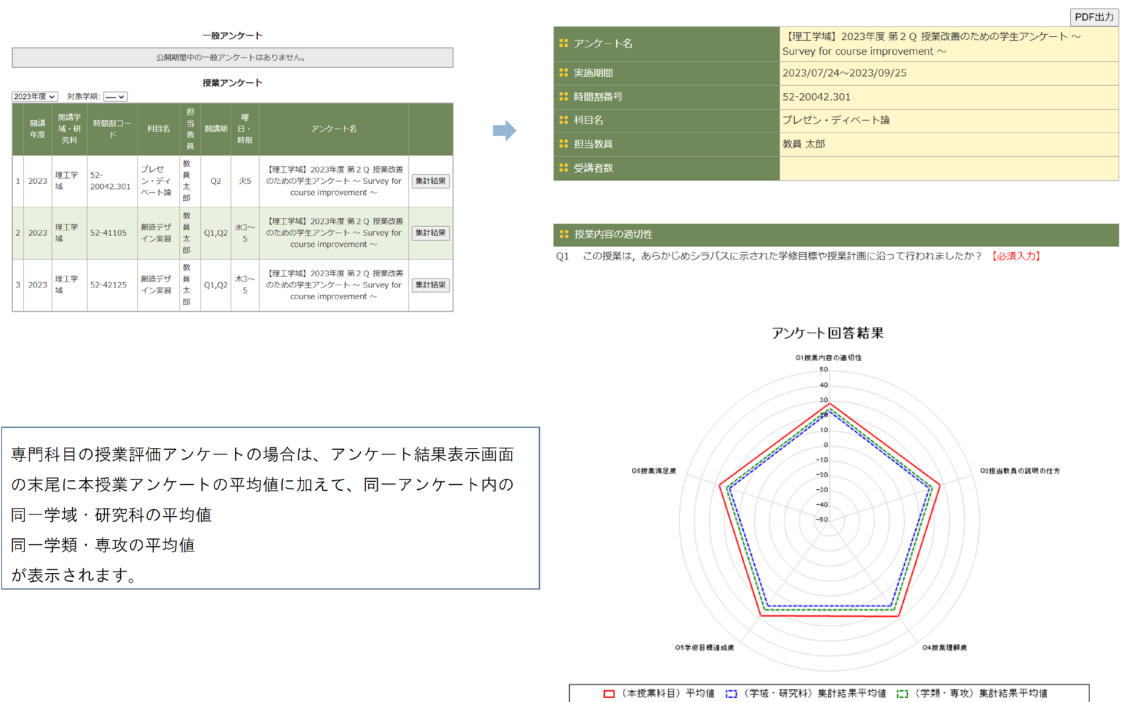
教学マネジメントセンターでは、FD委員会を通して、令和3年度までに授業評価アンケートの共通設問項目を整理したことを踏まえ、令和4年度より新しい授業評価アンケートシステムを運用し、共通設問項目の回答結果を各部局にフィードバックしている。令和5年度において、図表7、図表8のとおり、各授業科目担当教員が授業改善を検討する際の参考となるよう、授業評価アンケート結果における共通設問項目の平均値と各授業科目の値をレーダーチャートで比較できる機能を追加した。比較対象は次のとおりである。

- 共通教育科目の授業評価アンケートの場合：当該アンケート実施期間における共通教育全科目の平均値
- 学域・研究科開講科目の授業評価アンケートの場合：当該アンケート実施期間における授業開講学域・研究科及び学類・専攻の平均値（ただし、医薬保健学域・医薬保健学総合研究科の授業開講学域・研究科及び学類・専攻の平均値は同一）

1-5 教学マネジメントセンターの活動



図表7 共通教育科目における授業評価アンケート結果閲覧画面（担当教員用）



図表8 専門教育科目における授業評価アンケート結果閲覧画面（担当教員用）

1-5-3-5 大学院課程<グローバル>スタンダードの見直し検討

本学では、令和4年度から、博士前期・後期課程における大学院GS科目も強化し、大学院学生が将来のキャリアに備え、幅広い識見や異分野の知識・スキルを修得することで、主たる専攻分野での深い探究に役立つことを目指している。大学院教育の高度化と平行し、国による博士学生支援事業「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」及び「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の支援を受けて、令和3年度から、博士後期・博士課程学生への経済的支援をはじめ、学際性や国際性の涵養、トランスファラブルスキルの向上、キャリア形成等に資する各種プログラムの提供を充実させている。また、令和5年度には、令和6年度から事業開始の上記2事業の後継事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け、これらの取組みの加速に向けて準備を進めている。

令和4年度国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標のうち、「大学教育改革に向けた取組の実施状況」として、博士前期課程・修士課程、博士後期課程・博士課程、専門職学位課程におけるトランスファラブルスキル（社会で広く活用できる汎用的なスキル）のカリキュラム上の明確化、さらには、トランスファラブルスキルを含めた学修成果の可視化や就職活動等での活用が求められている。

上記のような状況を踏まえながら、金沢大学未来ビジョン『志』milestoneにおいて、大学院教育における大学院学生版トランスファラブルスキルを策定することを行動計画として掲げている。

《令和4年度国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標のうち、「大学教育改革に向けた取組の実施状況」に関する指標》

【博士前期課程・修士課程、博士後期課程・博士課程、専門職学位課程】

- ① 学生が、社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファラブルスキル）等を身に付けた上で修了できるよう、組織的かつ体系的な教育・研究指導を通じて修得すべきスキル・資質・能力と、それに対応するプログラムが整理された上で可視化・実施されている。
 - a) 実施している
 - b) 実施していない
- ② ①が満たされた上で、成績表以外で、在学中から卒業・修了に至るまでその修得状況が学生ごとに客観的・多角的に可視化し、当該学生が確認するとともに、就職活動等において活用できる状態となっている。
 - a) 実施している
 - b) 実施していない

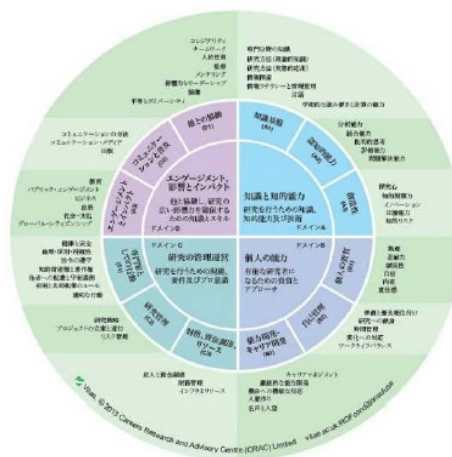
文科省の上記の指標に関する補足説明では、「社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファラブルスキル）」とは、例えば、欧州科学財団（European Science Foundation）の報告書“Research Careers in Europe Landscape and Horizons”（2009）では、「一つの文脈で学んだスキル、例えば、研究を行う上で学んだスキルの中で、他の状況、例えば、研究であれば、ビジネスであれば、今後の就職先において有効に活用できるようなスキルのことである。そしてまた、トランスファラブルスキルがあれば、学問領域及び研究関連のスキルを効果的に応用したり、開発したりすることができるようになる」と定義されており、

「そうした取組を想定しています。」と記載があり、具体的な事例として、英国の非営利組織 Vitae が 2010 年に開発した研究者人材に必要なトランスファラブルスキルのフレームワーク (RDF) を提示している。

なお、大学院教育におけるトランスファラブルスキル・トレーニングについては、2010 年代に注目され、大阪大学などにおいて当該トレーニングを行っている実績がある。

Researcher Development Framework;

英国においてプロフェッショナル・ディベロップメントの分野で中心的な役割を担っている非営利組織 Vitae により開発された、研究者にとって必要な能力やスキル等を体系化したフレームワーク。4 つのドメイン、12 のサブドメイン、63 のディスクリプタで構成されている。ディスクリプタごとに必要スキルの詳細が定義されており、それぞれ研究者の段階 (博士課程在籍者、ポスドク、卓越した研究者、シニア研究者/著名な研究者) に分けて細かく設定されている。



図表 9 Researcher Development Framework (Vitae)

【これまで検討してきた方向性】

(1) 大学院課程<グローバル>スタンダードの改訂と学生・教職員への明示

本学では、大学院課程<グローバル>スタンダードが策定・公表され、「1. 強固なグローバルマインドと明確な倫理的思考：今後、人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に責務を遂行する能力」「2. 創造性・交渉力・統率力・実践力：解決困難な課題にも、革新的なアイデアと粘り強い交渉力を発揮し、強い統率力と確かな実践力をもって局面を打開する能力」が掲げられているが、内容面において、上記の趣旨を踏まえつつ、改訂を行うことが必要である。具体的には、大学院 GS 科目の学修目標と関連付けつつ、大学院学生版トランスファラブルスキルとして再定義し、学士・大学院一貫教養教育 WG で学生・教職員に明示することを検討している。

(2) 大学院学生版トランスファラブルスキルの学修成果可視化と学生への明示

大学院<グローバル>スタンダードの改訂を踏まえながら、当該スタンダードで定めたトランスファラブルスキルの修得度合について、博士前期課程・修士課程、博士後期課程・博士課程及び専門職学位課程の学生を対象に、学務情報システム等を通して自己評価アンケートを定期的実施することが考えられる。そして、当該自己評価結果を学生個々人が同システム上において確認できるようにすることが考えられる。

併せて、大学院 GS 科目における授業評価アンケート等を集計・分析しながら、大学院学生版トランスファラブルスキルの修得度合を把握することを検討している。

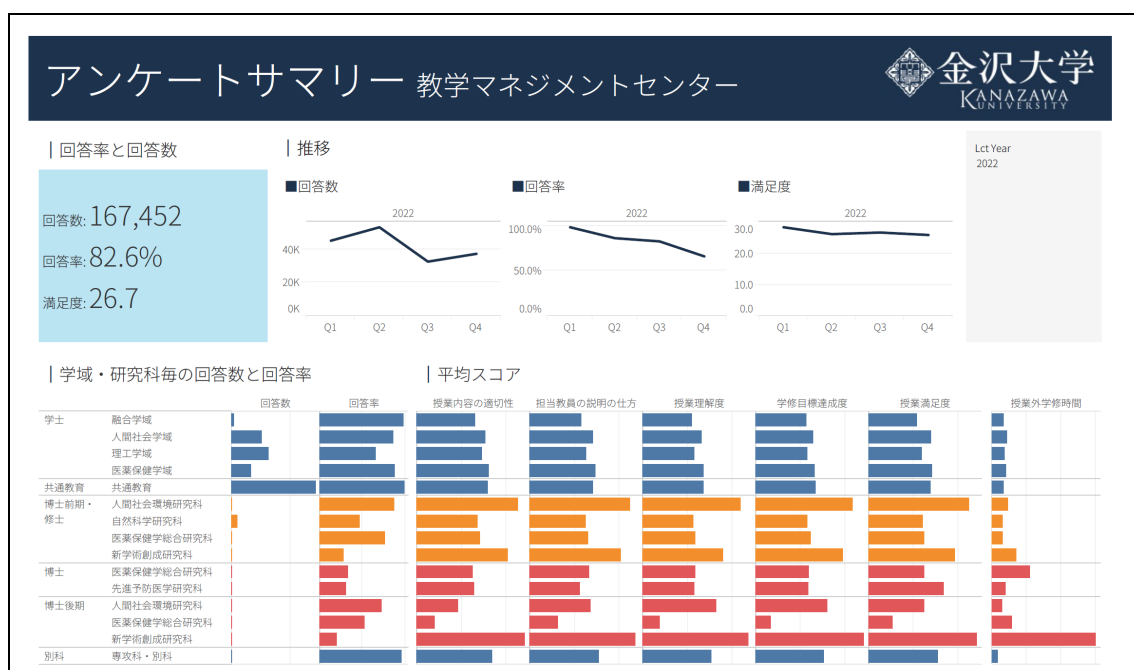
1-5 教学マネジメントセンターの活動

1-5-4 教学 IR 環境整備

令和 3 年度に、教学マネジメントセンターが中心となり、授業評価アンケートにおける共通設問化、卒業・修了者アンケートにおける学生生活満足度の設問の統一化を行うとともに、当該結果の集計を教学マネジメントセンターで行う環境を整備した。

令和 4 年度から令和 5 年度にかけて、FD 委員会を通して、当該集計結果を各部局にフィードバックする環境を整えらるとともに、FD 活動報告書における当該集計結果概要を掲載、さらには、教学マネジメント FACTBOOK の刊行にまで漕ぎつけた。

授業評価アンケートについては、BI ツールである Tableau を活用した基礎集計のダッシュボード化（下図参照）を整備し、教学マネジメントセンター及び学務部学務課の関係者にて閲覧できる環境を整備している。令和 5 年度において、授業評価アンケートと同様の定例調査である卒業・修了者アンケートに関する Tableau を活用した基礎集計のダッシュボード化の整備を進めている。



図表 10 授業評価アンケート結果ダッシュボード（一部）

【授業評価アンケート、卒業・修了者アンケート結果の閲覧環境整備】

令和 3 年度以前には、各部局において授業評価アンケート結果を集計し、下記サイトに掲載していたが、部局による作業負担軽減の観点から、教学マネジメントセンターにおいて、授業評価アンケートとともに、卒業・修了者アンケート結果の掲載・更新作業を行う。

なお、専門職大学院等において、独自のアンケート実施を行っている部局については、従前のおり、当該部局において当該アンケート結果の掲載・更新作業を行う。

1-5 教学マネジメントセンターの活動

令和4年度金沢大学FD活動報告書 [\[4.59MB\]](#)

- [目次](#)
- [1.令和4年度 全学FD活動概要 \(1頁~37頁\)](#)
- [2.各部署等のFD活動 \(38頁~101頁\)](#)
- [3.各部署等のBSD活動 \(102頁~121頁\)](#)
- [4.資料編 \(122頁~139頁\)](#)

過去3年間のFD活動報告書 (令和元年度~令和3年度)

- [令和3年度FD活動報告書](#) [\[2.65MB\]](#)
- [令和2年度FD活動報告書](#) [\[2.65MB\]](#)
- [令和元年度FD活動報告書](#) [\[4.11MB\]](#)

金沢大学におけるFD活動指針

[金沢大学におけるFD活動指針](#) [\[6.2MB\]](#)

授業評価アンケート

授業評価アンケートは、各部署で実施しており、実施方法等は異なります。また、アンケートの集計結果等は、各部署のWebサイトで公開しています（一部）。

[国際基幹教育院 \(共通教育科目\)](#)

融合学域 …… [先端学域](#) , [観光デザイン学域](#) , [スマート創成科学域](#)

人間社会学域 …… [人文学部](#) , [法学部](#) , [経済学部](#) , [学校教育学部](#) , [地域創造学部](#) , [国際学部](#)

理工学域

医薬保健学域 …… [医学部](#) , [薬学部 \(創薬科学域\)](#) , [医薬科学部](#) , [保健学部](#)

人間社会環境研究科

自然科学研究科

医薬保健学総合研究科 …… [医科学専攻](#) , [医学専攻](#) , [薬学専攻・創薬科学専攻](#) , [保健学専攻](#)

先進予防医学研究科

新学術創成研究科

教職実践研究科

法学研究科

国際機構

図表 11 授業評価アンケート結果に関する従前の掲載画面

2 各部署等のFD活動

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先導学類

参考資料：「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	<p>融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、融合学域全科目のルーブリック記載を必須とし、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。令和5年度以降開講のプロジェクト演習科目、鍛練科目、確立科目及び海外派遣プログラムの実施方針等について、教務・学生生活委員会及び海外留学・受入WGで継続的に審議し、教育研究会議に中間報告等を行い、融合研究域全教員から意見を集約し、検討を進めた。教育研究会議に引き続き、融合研究域教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員の相互理解を深めた。今後も学年進行とともに授業内容をふり返り、改善を続けていく必要がある。</p> <p>令和5年度に向けた改善計画</p>
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		<p>令和4年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。令和5年度から融合学域3学類体制となるため、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。</p>

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
第8回融合学域FD研修会	令和5年4月27日	学生の要望等について	融合学域長、先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか16名	融合学域で実施	
第9回融合学域FD研修会	令和5年6月22日	MATLABを活用した講義について	先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか14名	融合学域で実施	
第10回融合学域FD研修会	令和5年7月27日	DS. INSIGHT (ビックデータ分析ツール)の説明	融合学域長、先導学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか15名	融合学域で実施	
第11回融合学域FD研修会	令和5年8月24日	融合研究・融合演習・融合試験について	先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか21名	融合学域で実施	
第12回融合学域FD研修会	令和5年9月28日	教育方法改善	融合学域長、先導学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか17名	融合学域で実施	
第13回融合学域FD研修会	令和5年10月26日	教育DX化に向けたMATLABの活用	融合学域長、先導学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか8名	融合学域で実施	
第14回融合学域FD研修会	令和5年11月30日	海外WGからの海外留学実施報告など	先導学類長、観光デザイン学類長、教務・学生生活委員長 ほか20名	融合学域で実施	
第15回融合学域FD研修会	令和6年1月25日	カリキュラムについての自由討論	先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか14名	融合学域で実施	

第16回融合学域FD研修会	令和6年2月22日	基礎科目・データサイエンス	融合学域長, 先導学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか12名	融合学域で実施	
第17回融合学域FD研修会	令和6年3月28日	能登震災に対する教育研究などについての自由討論	先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか9名	融合学域で実施	
知識集約に係るFD研修会	令和5年5月11日	金沢大学知識集約型社会を支える人材育成事業 (KU-DP) における取組概要説明	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか33名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	令和5年9月14日	融合研究域教員の研究紹介	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか28名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	令和5年10月12日	融合研究域教員の研究紹介	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか26名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	令和5年11月9日	融合研究域教員の研究紹介	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか27名	融合学域で実施	
ハラスメント防止研修	令和5年7月13日	ハラスメント防止研修	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか27名	融合学域で実施	

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	<p>融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・融合学域FD研修会を10回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・教務・学生生活委員会及び融合学域FD研修会で、授業評価アンケートデータ及び授業公開について協議、意見交換し、授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧できることとした。また授業公開について、すべての教員の授業を公開することとした。 ・学年進行に合わせ、確立科目の実施方針等について、確立科目WGで継続的に審議した。 ・教育研究会議開催に合わせ融合研究域教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員の相互理解を深めた。 <p>今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。</p>

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和5年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。先導学類は、令和6年度が完成年度となることから、教育方法・教育課程の検証を行い、教育課程の改正等について検討する。先導学類一期生が卒業となることから、令和6年度末に卒業生アンケートを実施する。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 観光デザイン学類

参考資料：「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、融合学域全科目のルーブリック記載を必須とし、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 令和5年度以降開講のプロジェクト演習科目、鍛錬科目、確立科目及び海外派遣プログラムの実施方針等について、教務・学生生活委員会及び海外留学・受入WGで継続的に審議し、教育研究会議に中間報告等を行い、融合研究域全教員から意見を集約し、検討を進めた。 教育研究会議に引き続き、融合研究域教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員の相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容をふり返り、改善を続けていく必要がある。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 令和4年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 令和5年度から融合学域3学類体制となるため、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
第8回融合学域FD研修会	令和5年4月27日	学生の要望等について	融合学域長、先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか16名	融合学域で実施	
第9回融合学域FD研修会	令和5年6月22日	MATLABを活用した講義について	先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか14名	融合学域で実施	
第10回融合学域FD研修会	令和5年7月27日	DS.INSIGHT(ビックデータ分析ツール)の説明	融合学域長、先導学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか15名	融合学域で実施	
第11回融合学域FD研修会	令和5年8月24日	融合研究・融合演習・融合試験について	先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか21名	融合学域で実施	
第12回融合学域FD研修会	令和5年9月28日	教育方法改善	融合学域長、先導学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか17名	融合学域で実施	
第13回融合学域FD研修会	令和5年10月26日	教育DX化に向けたMATLABの活用	融合学域長、先導学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか8名	融合学域で実施	
第14回融合学域FD研修会	令和5年11月30日	海外WGからの海外留学実施報告など	先導学類長、観光デザイン学類長、教務・学生生活委員長 ほか20名	融合学域で実施	

第15回融合学域FD研修会	令和6年1月25日	カリキュラムについての自由討論	先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか14名	融合学域で実施	
第16回融合学域FD研修会	令和6年2月22日	基礎科目・データサイエンス	融合学域長, 先導学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか12名	融合学域で実施	
第17回融合学域FD研修会	令和6年3月28日	能登震災に対する教育研究などについての自由討論	先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか9名	融合学域で実施	
知識集約に係るFD研修会	令和5年5月11日	金沢大学知識集約型社会を支える人材育成事業(KU-DP)における取組概要説明	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか33名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	令和5年9月14日	融合研究域教員の研究紹介	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか28名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	令和5年10月12日	融合研究域教員の研究紹介	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか26名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	令和5年11月9日	融合研究域教員の研究紹介	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか27名	融合学域で実施	
ハラスメント防止研修	令和5年7月13日	ハラスメント防止研修	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか27名	融合学域で実施	
令和5年度第1回観光デザイン学類ワークショップ	令和5年7月28日	令和6年度開講科目, アドバイス教員等について	観光デザイン学類長 ほか18名		
令和5年度第2回観光デザイン学類ワークショップ	令和5年10月25日	令和6年度開講科目, 鍛練科目等について	観光デザイン学類長 ほか17名		
令和5年度第3回観光デザイン学類ワークショップ	令和6年2月16日	令和6年度開講科目, ボランティアに関する科目, 海外派遣公式プログラム等について	観光デザイン学類長 ほか16名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	<p>融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 融合学域FD研修会を10回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 教務・学生生活委員会及び融合学域FD研修会で、授業評価アンケートデータ及び授業公開について協議、意見交換し、授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧できることとした。また授業公開について、すべての教員の授業を公開することとした。 学年進行に合わせ、確立科目の実施方針等について、確立科目WGで継続的に審議した。 教育研究会議開催に合わせ融合研究域教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員の相互理解を深めた。今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和5年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 スマート創成科学類

参考資料：「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	—	—
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画
		—

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
第8回融合学域FD研修会	令和5年4月27日	学生の要望等について	融合学域長、先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか16名	融合学域で実施	
第9回融合学域FD研修会	令和5年6月22日	MATLABを活用した講義について	先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか14名	融合学域で実施	
第10回融合学域FD研修会	令和5年7月27日	DS.INSIGHT(ビックデータ分析ツール)の説明	融合学域長、先導学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか15名	融合学域で実施	
第11回融合学域FD研修会	令和5年8月24日	融合研究・融合演習・融合試験について	先導学類長、観光デザイン学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか21名	融合学域で実施	
第12回融合学域FD研修会	令和5年9月28日	教育方法改善	融合学域長、先導学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか17名	融合学域で実施	
第13回融合学域FD研修会	令和5年10月26日	教育DX化に向けたMATLABの活用	融合学域長、先導学類長、スマート創成科学類長、教務・学生生活委員長 ほか8名	融合学域で実施	
第14回融合学域FD研修会	令和5年11月30日	海外WGからの海外留学実施報告など	先導学類長、観光デザイン学類長、教務・学生生活委員長 ほか20名	融合学域で実施	

第15回融合学域FD研修会	令和6年1月25日	カリキュラムについての自由討論	先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか14名	融合学域で実施
第16回融合学域FD研修会	令和6年2月22日	基礎科目・データサイエンス	融合学域長, 先導学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか12名	融合学域で実施
第17回融合学域FD研修会	令和6年3月28日	能登震災に対する教育研究などについての自由討論	先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか9名	融合学域で実施
知識集約に係るFD研修会	令和5年5月11日	金沢大学知識集約型社会を支える人材育成事業(KU-DP)における取組概要説明	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか33名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和5年9月14日	融合研究域教員の研究紹介	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか28名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和5年10月12日	融合研究域教員の研究紹介	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか26名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和5年11月9日	融合研究域教員の研究紹介	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか27名	融合学域で実施
ハラスメント防止研修	令和5年7月13日	ハラスメント防止研修	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, スマート創成科学類長, 教務・学生生活委員長 ほか27名	融合学域で実施
スマート創成科学類ワークショップ	令和5年10月26日	令和6年度開講科目, アドバイス教員等について	スマート創成科学類長 ほか17名	
スマート創成科学類ワークショップ	令和6年1月25日	令和6年度開講科目, アドバイス教員等について	スマート創成科学類長 ほか17名	

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について, 自己評価及び総評を記載してください。また, 貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は, 詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	<p>融合学域3学類合同でFD活動に取り組み, 主な活動等は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 融合学域FD研修会を10回実施し, 教育方法改善等について意見交換を行った。 教務・学生生活委員会委員が, シラバス点検及び改善指導を行い, シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 教務・学生生活委員会及び融合学域FD研修会で, 授業評価アンケートデータ及び授業公開について協議, 意見交換し, 授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き, 融合学域教職員限定で閲覧できることとした。また授業公開について, すべての教員の授業を公開することとした。 学年進行に合わせ, 確立科目の実施方針等について, 確立科目WGで継続的に審議した。 教育研究会議開催に合わせ融合研究域教員3名が研究シーズ紹介を行い, 教員の相互理解を深めた。今後も学年進行とともに授業内容, 方法を振り返り, 改善を続けていく。

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ, 令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について, 具体的に記載してください。

令和5年度に引き続き, FD研修会, 教員の研究シーズ紹介等を実施し, 教育方法の改善, 融合研究の推進に努める。融合学域3学類学年進行に合わせ, 相互の連携を図り, 融合学域としての教育組織体制を整備していく。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人文学類

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	教員相互の授業参観, 授業評価アンケート結果の活用, 成績評価基準等の作成・検証, FD研修会については, 幾つかの不測の事態により, 当初計画よりもやや縮小した面もあったが, ほぼ着実に実施している。特に授業参観については, 対面型と遠隔型(双方向)との両方で実施した。また, FD研修会では, 英語レポート・ライティング指導法について一層の理解を深めることができた。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ, 令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について, 具体的に記載してください。		<p style="text-align: center;">令和5年度に向けた改善計画</p> 令和4年度の授業評価アンケート結果を見る限り, 本学類の教育は総じて学生から高く評価されていることが分かる。今年度は, 基本的にはこれまでの取り組みを踏襲しつつ, 学類のFD研修会や公開授業の実施などを通じて, 学類教員の教育能力向上を図ることにいっそう意を注ぐ予定である。これに加えて, 更に多くの学生が授業の満足度を高め, 達成感が得られるよう, 各方面からの意見や助言を得ながら委員会としても積極的に対応策を検討していきたいと考えている。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下, 令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について, 令和5年度の実施状況を選択してください。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を, 授業方法・カリキュラムの改善のために, どのように活用しましたか。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
人文学類FD研修会	5月10日	佐藤 文彦 教授 (GS教育系) 「異文化体験的COIL型授業の事例紹介」	高山学類長、 堀田系長、 上田専攻長、 FD委員ほか 約30名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会等については、ほぼ当初計画通りに着実に実施することができた。授業参観については、対面型で実施した。また、FD研修会では、異文化体験的COIL型授業について一層の理解を深めることができた。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和5年度の授業評価アンケート結果を見る限り、本学類の教育は総じて学生から高く評価されていることが分かる。今年度は、基本的にはこれまでの取り組みを踏襲し、学類のFD研修会や公開授業の実施などを通じて、学類教員の教育能力向上を図ることにいっそう意を注ぐ予定である。これに加えて、更に多くの学生が授業の満足度を高め、達成感が得られるよう、各方面からの意見や助言を得ながら委員会として積極的に対応策を検討していきたい。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学類

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	会議システムによるリモート授業のための注意点や可能性について、また、言語関係のカリキュラム改正をめぐる問題や、法務専攻との連携など多様なテーマについてのFD研修会を開催し、意見交換を行ったほか、リモート授業への自由な相互参観に関して申し合わせを行った。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 アンケートを見る限り、学生は概ね、現行のカリキュラムに満足していると思われるが、依然として学習時間が極端に少ない学生が見受けられるので、授業ごとに、具体的な課題を与えて、自宅での学習時間を増やすよう促すことにした。また、学生が現在、学んでいることが、社会における具体的な課題解決に繋がっていることを把握できるような実例を授業にできるだけ盛り込み、課題にも反映させるよう各教員に要請することにした。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
法学類FD研修会	4月11日	個人面談の実施方法や工夫について意見交換	法学類長ほか21名		
法学類FD研修会	3月12日	EFLSの授業を担当している教員による報告と課題の共有	法学類長ほか20名		○
初学者科目担当者FD研修会	3月12日	アカデミックスキルなどの一年次教育に関する意見交換	初学者科目担当教員9名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	各教員に対する各種の負担が増えるなか、学生に対するアドバイスをいかに効率的に行うか、数回にわたって学類会議で議論し、問題意識を共有してきた。連絡が取りにくい学生にどうアプローチするかについて、教員同士で機会あるごとに情報交換している。FD研修会では、法学・政治学を学ぶ学類生にとって有用な英語力の向上を目指して創設された、English for Legal Studiesで、実際担当している教員から学生の授業態度や、生の英会話、聴き取りにあまり慣れていない学生に、どのようにして興味を持ってもらうか議論し、問題意識を共有した。

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 経済学類

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	2回のFD研修会のほかに、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会 企画・運営 ・教員と学生懇談会 企画・運営 特に後者に関しては、学生のニーズなども聴取することでカリキュラム改訂への反映や、授業運営方法の見直しなどの議論に繋がっており、「4:大いに評価できる」とした。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 ここ数年、学域 GS 言語科目を中心とする教員ローテーション科目について、学生への効果や公平な負担感の点で授業運用や評価方法などの試行錯誤を行っている。この点で、学習方針や授業担当者ごとの運用の影響を FD 研修会などで洗い出し、改善に向けて検討していく。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(ローテーション科目での取り扱い内容について報告・共有した。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
イトーキ社長講演会	6月28日	イトーキ社長による今日の経営に求められる人材像、今後の大学教育のあり方の講演	学生120名 教員6名		
学域GS言語に関する研修会	8月3日	「学域GS言語」のシステム利用方法並びに実践報告	FD委員 ほか14名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
4	2回のFD研修会のほかに、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会 企画・運営 ・教員と学生懇談会 企画・運営 ゼミナール大会については、ゼミ運営のメルクマールとしての役割やプレゼンテーション能力の向上にも寄与して学生もその意義を認識していることから、「4:大いに評価できる」とした。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

学域GS言語科目を中心とする教員ローテーション科目について、学生への効果の観点で授業運用や評価方法などを毎年見直すなど試行錯誤している。この点で、有意義な運用などをFD研修会などで共有するとともに問題点を洗い出し、卒業要件であるTOEICスコア到達に向けて検討していく。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学校教育学類

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	<p>令和4年度は、コロナウイルス感染拡大の影響から完全に脱することはなかったものの、多くの活動を通常の状態に戻して実施することができた。今年度は金沢大学と富山大学が共同教員養成課程をスタートさせる年となった。新たな課程の担当に向けてスムーズな移行ができるよう、学類FD研修会はその目的に特化したもの3回を含む計4回を実施した。内1回は富山大学の同課程担当教員2名にも参加を呼びかけ、新規に導入された遠隔授業システムで両大学を結んで行う初の研修会となった。両大学間で活発な議論が行われたことは大きな成果であった。全学類学生を対象とするアンケートもFD委員会の担当となり、5月と10月に計2回実施した。多くの学生の声を集めることで教育全体の質の向上へと繋げてゆく。研究授業の実施については実施予定時期にコロナウイルス感染拡大が重なる事態が想定されたことなどもあり、当初の計画を変更し、次年度に2回実施することとなった。そのような反省点があるものの、可能な活動をほぼ実施できたことから、「4:大いに評価できる」と自己評価する。</p>
<p>授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。</p>		<p>令和5年度に向けた改善計画</p> <p>「令和4年度授業評価アンケート」に関して、所属教員には学類会議等で調査実施に係る協力、また結果の確認とその後の活用に係る依頼を行った。令和4年度から、富山大学との共同教員養成課程を設置しており、授業科目が完成年度に向かうに従い増加するこれからの3年間は、より多くの関心を向けてもらえるように、委員会が結果の活用に向けて通知する機会をこれまで以上に増やす必要があると考えている。今年度の調査については、共同教員養成課程に所属する学生の回答率が他学類に比べて低いことが認められる。この新課程には1年次のみのものであるが、当調査の制度や回答方式にまだ不慣れであったことなど、やむを得ない事情があったことが考えられるが、これについては通知をさらに徹底すること、そして今後の年次進行により改善が期待できると考えている。また令和5年度のアンケート実施について、調査対象授業科目を担当する教員には、メールによる実施協力依頼がすでになされているが、学類会議などにおいても関心を継続的に喚起するようにするなどして今後の回答率が向上するように働き掛ける。</p> <p>学校教育学類は所属学生全員に対して、教職につくことについての意識調査を一年に二回実施している。この調査を通じて学生たちの教職に対する意識を教員が理解し、授業や日々の学生指導の質の向上に活用することが目的に含まれている。同調査では授業や学生生活における意見なども自由に記述してもらおうが、それらは個人情報に十分な配慮を施した後に教員に共有され、学生からの率直な声を得る重要な資料となっている。調査結果は教員の意識向上、また研修会のテーマの参考とされるなど、これまでも積極的に活用されてきている。また調査に協力してくれる学生にも、これを定期的に自らの将来への意思を確認する機会としてもらい、学修やその他の活動をより充実したものとする契機となるように指導していく。</p> <p>3月に卒業者のみを対象に行われたアンケートについては、高い回答率でより信頼性のある結果が得られたと考える。学修の達成度を問うそれぞれの項目について「十分に達成している」の数値と「ある程度達成している」をあわせると80%の解答を得られた。また、学類での学生生活に対する満足度については53%であった「十分に満足」の回答を「やや満足」の数値と合わせると90%以上となり、大きな問題の無い数値が得られているようにも考えられるが、「十分に満足」の数値がより高くなるよう、結果を学類会議で共有し、FD研修活動の指針作成の重要な参考資料とするなどし、適切な方策を実施する。</p>

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(学類でFD研究授業を実施。参加者とともに授業討論会を行った。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
令和5年度第1回FD研修会	8月24日	「Society 5.0を豊かに生きる資質・能力の育成に向けた探究の学びの創造」	学類長を含み、学類からは約40名		
令和5年度第2回FD研修会 (金沢大学・富山大学共同教員養成課程 合同FD研修会)	9月28日	「遠隔システムやZoomを使った斉一授業実施の現状・課題・展望」	学類長・教学マネジメントセンターからの参加者を含む49名(富山大学と遠隔授業システムにより同時中継)		
令和5年度第3回FD研修会	2月8日	「教員養成課程の現在の動向—教員養成課程と学類 将来構想にかかる視察報告」	学類長・教学マネジメントセンターからの参加者も含めて約35名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
4	<p>令和5年度は、FD活動の多くを通常の状態に戻して実施することができた。今年度は金沢大学と富山大学が共同教員養成課程をスタートさせてから2年目となった。多くの専門的科目が開始され、それらのうち「斉一授業」で行われるものも多い。斉一授業の多くは両大学の教室を専用の回線で結び、いずれかの大学の担当教員が授業を同時に行う形になるが、年次進行によりその形式の授業が多くなった結果、いくつかの改善すべき課題も明らかになった。FD研修会や情報の共有を通してそれらの改善に向けての意識を強く持つよう働きかける試みが行われた。</p> <p>令和5年度の学校教育学類FD・カリキュラム委員会は、学類の教育力を向上させるためのFD研修会を計3回実施した。そのうち特筆すべきものは、令和5年9月28日金沢大学と富山大学を結んで実施した「第1回金沢大学・富山大学合同FD研修会(第2回金沢大学学校教育学類FD研修会)」の実施であった。これは、上述の「斉一授業」において同時開催授業を担当した両大学の教員がその経験を元に、授業にむけ準備すべきこと、進め方における注意点、実際に発生した困難やその解決に向けての工夫などを提起し、両大学からの質疑応答を行うものであった。昨年度は金沢大学開催の研修会を富山大学にも同時送信し、質疑応答には両大学の教員が参加し話し合いを行うことができたが、今年度は企画から実施のすべてを両大学の協力によって行うことができたことにおいて大変意義深い研修会となった。今回の研修会合同実施により、授業評価などの共通フォーマット化を進めるなど、この課程の授業を充実させるために両大学がこれからより一層緊密な関係を構築するための環境醸成が進んだ。</p> <p>また大学が行う「授業評価アンケート」に加えて、学校教育学類FD・カリキュラム委員会は学類全学生を対象として学類学生が将来教職に就く意志をどのように形成されていくかを継続的に調査する学類独自のアンケート(「教職に就く意志についての意識調査」)を5月と10月に計2回実施した。この調査は今後も継続し、できる限り多くの学生の声にきめ細やかに耳を傾け、学類教育全体の質の向上へと繋げてゆく。</p> <p>今年度2回実施する予定であった学類の研究授業だが、実施は一度となった。その研究授業は初めて富山大学共同教員養成課程との「斉一授業」を題材としたもので、この実施と授業討論会を通して授業の成果と課題を明らかにすることができた。予定されていたもうひとつの研究授業は能登半島地震の影響により次年度に延期せざるを得なかったが、すでに令和6年度の実施日程も決定され準備が進んでいる。</p> <p>以上、令和5年度のFD活動全体を通して考察すると、更なる取り組みが必要とされる点があるものの、富山大学との合同研修会や、斉一授業を題材とする研究授業の実施といった初めての取り組みを含み、可能な活動に積極的に取り組んだことから、「4:大いに評価できる」と自己評価する。</p>

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

<p>学校教育学類は所属学生全員に対して、「教職に就く意志についての意識調査」を令和5年度も二度実施した。この調査は学生たちの教職に対する現時点での意識や、変化を教員が理解し、通常の授業やその他の学生指導に活用することが目的として含まれる。同意識調査では授業や学生生活における意見などが寄せられるが、個人情報処理後に学類教員が共有する。これらは授業やその他の指導における改善点について、学生からの貴重な声を聞くための不可欠な資料となっている。学生たちがこの調査を将来への意思を確認する機会として利用していることから、学類の学生と教員がともに学修やその他の活動をより充実したものとしていくための重要な活動となっている。</p> <p>また、3月に実施された「卒業生アンケート」においては高い回答率が見られ、信頼性のある結果が得られたと考える。学修の達成度を問うそれぞれの項目について「十分に達成している」の数値と「ある程度達成している」をあわせるとほぼすべての項目で90%以上の達成度となった。学校教育学類での学びについて「満足・あるいはやや満足」と解答している学生が98%以上に達することは特筆すべきことと考える。</p> <p>「令和5年度授業評価アンケート」に関して、学類所属教員には学類会議等で調査実施への協力、また結果の確認とその後の活用に係る依頼と提言を行った。従来課程の学校教育学類、および新課程である共同教員養成課程の両方において回答率は最も高いものとなっている。授業内容の適切性、授業理解度、学修目標達成度、授業満足度のいずれについても高い数値を示しており、学類が提供する授業に対する学生からの高い評価はおおむね明らかだと思われる。授業時間外の学習時間について、従来の課程に所属する学生の勉強時間が多いものとなっている。このことは日々の課題に取り組むことを通じ、将来の目標に向い努力している様子が強く窺われる。だがその一方で、令和5年度においては1、2年次が所属する共同教員養成課程の学生については不十分な様子が見られる。各授業に個別に寄せられた学生の真摯な思いを受け止めて各教員が授業の一層の充実に向けて努力するのはもとより、学類教員間でこの全体の状況を共有し、より熟慮を重ねて学生指導にあたる必要がある。令和6年度にも実施される同アンケートについて、調査対象授業科目を担当する教員には学類会議等を通し実施協力依頼がすでになされているが、アンケート結果の一層の活用についても学類会議などにおいてFD・カリキュラム委員会が継続的に関心を喚起し、さまざまな提言を行う。</p>

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地域創造学類

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	教務・学生生活委員会と合同実施のシラバス点検、全教員参加の授業参観・授業評価、卒業生アンケート・授業評価アンケートの公表、成績評価分布の共有など、FD活動の主幹となる部分について滞りなく実施した。また、9月以降毎月1名の教員によるFD研修会(教育・研究実践報告)を実施し、教育研究の質の向上を図るとともに、研修会の動画を学生にも公開し学生の学びに役立っている。卒業生アンケートの回収率が低い点が課題であるが、大いに評価できるFD活動であったといえる。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		<p style="text-align: center;">令和5年度に向けた改善計画</p> 令和4年度の授業評価アンケートからは、予習・復習時間が少ないことが課題として挙げられた。令和5年度からはシラバスに予習・復習のための教材や学修時間の記載を義務付けたので、この点について検証を行うとともに、アンケート結果を踏まえた教育方法の改善について検討を行う。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(学生からの評価は高く、従前どおり丁寧な教育を行うことを確認した。)

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(参観した教員から授業担当者へコメントを送付、授業担当者はそのコメントに対しさらにコメントを返すことで、授業改善につなげた。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
地域創造学類FD研修会	毎月第3木曜日 12:10~12:50	学類教員の教育・研究実践報告	当日参加者は地域創造学類長、FD委員長ほか、平均7名(専任教員の37%)	録画し、動画を学類教員および学生に公開	

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	<p>全教員の授業公開および授業参観、卒業生アンケート・授業評価アンケートの公表、成績評価分布の共有などのFD活動について滞りなく実施した。シラバス点検については、昨年度、教務・学生生活委員会とFD委員会の合同で全教員分を対象に実施したため、今年度はFD委員長による抽出点検を行い、必要項目の記載はほぼ徹底されていることを確認した。昨年度来、毎月1名の教員によるFD研修会(教育・研究実践報告)を実施しており、教育研究内容の相互理解や教育研究の質の向上を図っている。この研修会の動画は学生にも公開し、専門分野への興味・関心の醸成に役立っている。一方、昨年度は卒業生アンケートの回収率が低いことが課題であったが、今年度はアンケート開始時期の前倒しや複数回の呼びかけにより回収率が格段に向上した(約30%→約60%)。授業評価アンケートの活用に工夫の余地があるが、概ね評価できるFD活動であったと言える。</p>

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

<p>今年度の卒業生アンケート(回収率約6割)の結果を分析したところ、学類のDPIに関する能力はほとんどの項目で「高められた」「まあ高められた」、また学類教育の満足度もほとんどの項目で「満足している」「やや満足している」との高い評価を得ていた。このことから、当学類の学生教育は概ね適切であると言える。今後も同様に丁寧に取り組んでいくことが望まれる。その一方で、授業評価アンケートについては活用しきれていない。令和5年度からシラバスに予習・復習のための教材や学修時間を記載したことを踏まえ、予習・復習時間の変化に伴う授業の理解度についての検証等を行う必要があると思われる。さらにその検証結果を踏まえ、教育方法の改善についても検討を行いたい。</p>

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際学類

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	本学なかんずくその国際化を先導すべき役割を期待される国際学類のFD活動において、一ポスト・コロナ期における授業改善の一環として、Zoomやskype等を利用した遠隔技術の活用なかんずく、COIL型授業の設計導入が強く提唱されるところであるが、本学類では先駆的に中野涼子教員を中心にシンガポール国立大学とのCOIL型授業が実践され、良い成果を上げている。こうした成果をさらに敷衍させるため、COIL型授業の導入事例を主題に、人間社会学域との合同企画による第2回FD研修会が企画・実施され、来年度以降のCOIL型授業の更なる拡大の地盤固めができたと判断される。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画
		こうした課題についても来年度のFD研修会等において随時話題に取り上げ、検討を加えていきたい。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
2023年度国際学類第1回FD研修会	11月2日	FD活動の一環としての教員間授業参観について	古畑学類長石黒委員ほか14名	講師:地域創造学類FD委員長 寺沢なお子先生	
2023年度国際学類第2回FD研修会	3月27日	アカデミック・スキル及びプレゼン・ディベート論の授業方法について	古畑学類長ほか13名	授業担当者による実践報告	○

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	本学類のFD活動に基づく授業の質向上は、卒業者の授業アンケートの結果(授業に対する満足度に関し文系学類においてトップ)等からみても、概して満足すべき水準にあると思われる。中野涼子教授の指導によるシンガポール国立大とのコイル授業の展開など、国際学類ならではの特色ある思考も次第に成熟しつつある。今後の課題としては学生への聞き取り調査等に基づく、従来認知されてこなかったような改善点の洗い出しがあげられるが、年度末に生じた担当者(石黒)の不慮の事故による療養のため、この課題に十分に取り組みなかったことが残念である。本年度の取り組み事項としたい。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 数物科学類・数物科学専攻

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	ほぼコロナ対応はなくなり対面授業の率が増えたとはいえ、Q4はオンライン授業を行わざるを得ない状況が頻発した。FDを通して、遠隔と対面に共用で利用できる教材および、自習用教材の開発が行われ、講義の質の改善が見られた。ALAの申請はなかったが制度の活用を進めていきたい。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 R3年度は卒業・修了者に対するアンケートの回答者数が揃わなかったが、R4年度はアンケート実施数を改善する予定であり、それに基づいて、結果の周知を行い、カリキュラムの改善につなげていきたい。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
実施なし					

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	今年度もQ4を中心にオンライン授業を行わざるを得ない状況が頻発した。また、予習・復習の教材を準備することが要請され、遠隔教材を指定されることも多くなった。遠隔と対面および自習用に共用できる教材開発が行われ、教材の改善にFDが貢献したと考えられる。研修会は実施できなかったが、R6に談話会を行う予定。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

R4年度はアンケート実施数を改善できたが、回答内容の質に問題がある。回答時間の確保や学生への協力依頼等を行うことで、より良いデータを用いてカリキュラムの改善につなげていく。
--

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 物質化学類・物質化学専攻

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	今年度はこれまで実現できなかった教員相互による必修授業の参観を開催した。参観後に意見交換を行い、優れた点、問題点を共有するなど、状況に応じた教育方法改善に向けて議論した。また、月例会議において授業評価方法や改善策に関する話し合いを継続し、FD活動への意識の共有化や改善に取り組んだ。FD研修会を一部実施し、卒業者のアンケートと指導教員のアンケート結果から、授業の改善・教育効果の向上を図った。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 卒業論文をまとめる際のまとめの積極的努力や独自問題解決において、卒業者の意識が向上していたが、実践活動の有益性において高い水準でありつつも、若干の低下が見られたことから、研究計画の重要性及び、課題に対する理解度向上を上げること狙い、教員間でのディスカッションの場を研修会の中で設ける。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(教務委員と連携し評価基準の明確化、および適正な評価の付与を周知している。)

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
応用化学コース 第22回 FD研修会	10月10日	応用化学コースの教育活動における重要事項を認識し意見交換を通してコース内の教育改善に対する意識を深める。	20名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	物質化学類ではFD研修会において、教員による自身の授業への取組みの紹介を継続的に行っている。講義形態に対し意見交換の機会を積極的に作ることで、状況に応じた教育方法改善に向けて十分な努力を行うことができた。月例会議でも授業評価方法や改善策に関する話し合いを継続し、FD活動への意識の共有化や改善に取り組んだ。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

昨年度よりも教員と学生間の自己評価が向上した。一方、「課題・背景の説明」や「課題遂行への助言」で減少していた。学生回答と見比べると、実験活動の指導に注力した結果と考えられる。実験指導中の課題の1つになると予想される。発表指導などは過去最高であり、効果的な指導につながった。これらの結果を踏まえ、ディスカッション時間の定期的な確保を通じたさらに効果的な指導方法を組むこととした。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 機械工学類・機械科学専攻

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	昨年度の授業評価アンケートの集計結果及びその分析結果を教員間で共有した。また、新方式の授業評価アンケートの問題点について、学類会議で意見を募り、FD委員会へ報告した。さらに、留学生の受け入れに伴う諸問題の事例とその対策に関して理工3学類合同FD研修会を開催し、教員の問題対処能力の向上を図った。この研修会に先立って、留学生受け入れに伴う諸問題に関するアンケートを理工3学類の教員に対して実施した。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 授業評価アンケートのマイナスの評価内容について、機械工学類の教員間で共有し、今後のアンケートでマイナスの評価がつかないように各教員へ授業の改善を働きかける。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(1名の教員が夢ナビの講義を公開した)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
理工3学類合同FD研修会	3月21日	MATLAB及び教育活動のためのソフトウェアツールの紹介	機械工学類長、FD委員ほか48名	フロンティア工学類、電子情報通信学類と合同開催	

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	昨年度の授業アンケートや卒業生・修了者に対するアンケートの集計結果が公開され、教員間で共有されたが、今後のアンケートでマイナスの評価がつかないように各教員へ改善の働きかけは行えなかった。シラバスの基本項目や英語化、成績評価基準の点検、FD研修会の実施等、FD活動の主幹となる項目が概ね実施された。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業アンケートのマイナスの評価内容について、機械工学類の教員間で共有し、今後のアンケートでマイナスの評価がつかないように各教員へ授業の改善を働きかける。
--

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 フロンティア工学類・フロンティア工学専攻

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	今年度、フロンティア工学類の第一期生が卒業し、学類のカリキュラムが一巡した。準備期間が非常に短く、内容を十分に詰められないままの新学期のスタートであった上に、コロナ禍に見舞われたにも関わらず、現場の教員の奮闘により、なんとか卒業を送り出すことができた。これまでに明らかとなった問題点を踏まえて、カリキュラムの修正への検討も開始しており、新専攻の立ち上げと合わせて、よりよい学類を目指したFD活動が継続的に行われている。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 今年度カリキュラムが一巡して、いくつかの課題が見られており、カリキュラムの修正を含めて検討が始まっている。そのための参考資料として今後本格的に活用する予定である。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
3学類合同FD研修会	3月21日	教育に活用できるソフトウェアの紹介を行った。Mathworks社にmatlabについて紹介いただき、オープンソースによるツールを紹介した。	関啓明学類長、ほか47名	フロンティア工学類 機械工学類 電子情報通信学類	

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
4	安定した教育環境を整えられるように、シラバスやアンケートの確認を行っている。これまでに明らかとなった問題点を踏まえて、カリキュラムの修正への検討も開始しており、よりよい学類を目指したFD活動を継続的に行なっている。教育に活用できるソフトウェアに関するFD研修会を行い、プログラミングやグラフィックツールの教育での活用や、人工知能を利用したソフトウェアの利用法と注意点について紹介した。また、コロキウムと呼ばれる学生向けの講演会を行い学類選択やコア選択のための教育内容について紹介している。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

アンケートの結果を踏まえて、カリキュラムの見直しを行っていく。社会を先導する人材を育成するために異分野の融合を進め、各科目について見直しを進めている。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 電子情報通信学類・電子情報通信学専攻

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	シラバスの基本的項目について点検し、問題ないことを確認し、学類で共有した。授業科目の英語化について点検した。教員相互の授業参観としてモデル授業について実施した。成績評価基準の記載を点検し、成績分布を調査し、問題ないことを確認し、学類で共有した。理工3学類合同のFD研修会を実施した。教育方法の改善に組織的に取り組み、推進できた。よって本年度のFD活動は概ね評価できる。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画
		前年度に構築したLMS上のシステムを今年度も活用し、各教員が授業評価アンケートの結果を評価し、次の目標を設定し、授業改善を行った。この授業改善に関する組織的な取り組みを来年度も継続する。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
理工3学類FD研修会	3月21日	教育活動のためのソフトウェアツールの活用	3学類の学類長、FD委員、ほか、合計48名	機械工学類、フロンティア工学類と合同開催	

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	シラバスの基本的項目について点検し、問題ないことを確認し、学類で共有した。授業科目の英語化について点検した。教員相互の授業参観としてモデル授業について実施した。成績評価基準の記載を点検し、成績分布を調査し、問題ないことを確認し、学類で共有した。理工3学類合同のFD研修会を実施した。教育方法の改善に組織的に取り組み、推進できた。よって本年度のFD活動は概ね評価できる。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

独自に作成したFD活動のためのLMSコースを活用し、各教員が授業評価アンケートの結果を評価し、次の目標を設定し、授業改善を行った。この取り組みを来年度も継続する。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地球社会基盤学類・地球社会基盤学専攻

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	<p>コロナ禍におけるオンライン授業が増えるなかで授業の質を落とすことなく、DX技術などの新技術を活用した新しい授業方法について検討するため、学類FDシンポジウムを開催し、DX技術を活用した授業を行っている教員による話題提供から授業改善に役立つFD活動授業方法の共有を行った。また、本学類内では、これまで卒業生によるアンケートから優秀教員の選出を行っており、その優秀教員の授業方法について話題提供および意見交換することでそれぞれの教員の授業改善につながる活動を行った。</p> <p>以上の活動から、「概ね評価できる」FD活動であったと評価した。</p>
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		<p>令和5年度に向けた改善計画</p> <p>授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートの結果をみると、回答率が悪く、全体の意見を網羅したものではないが、環境都市コース以外の地球惑星科学コース、土木防災コースは、「あまり達成していない」、「全く達成していない」と回答した学生はいない。学類内において、独自のアンケートを行っており、そちらの結果と比較しながら、授業改善に活かしたい。また、学類内アンケートにより選出された優秀教員に授業方法を講演頂き、そのテクニックを情報共有しており、それらの活動を通して今後も教育能力の底上げをしていきたい。</p>

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
地球社会基盤学類 FDシンポジウム	10月27日	(講演)JABEE審査の経験を通して 学類内の優秀教員による講演 JABEE関連の情報共有	学類長、専攻長、 FD委員ほか15名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	次年度のJABEE審査に備えて、各教員における受審への意識を高めるために、JABEE審査員の経験がある民間のOBを招いて、「JABEE審査の経験を通して」と題した講演をして頂いた。また、本学類で独自に行っている卒業生によるアンケートから選出された優秀教員による授業方法について話題提供および意見交換を行い、それぞれの教員の授業改善につながる活動を行った。 以上の活動から、「概ね評価できる」FD活動であったと評価した。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

DPIに対する達成度アンケートから、土木防災、環境都市コースでは、すべての項目に対して、「十分に達成している」「ある程度達成している」と回答した学生が8割を超えていたことから、十分な教育が行われていたと考えられる。また、学類内独自に行った卒業生アンケートでは、卒業生の研究室配属の方法について、不満が見られ、今後の改善方法を検討しなければならないと感じた。さらに、それぞれの科目ごとに行われた授業評価アンケートに対しては、各教員でリフレクションペーパーを記載することで次年度の授業改善に活かすように周知した。R6年度はJABEE受審があるため、すべての科目について過去2年分のリフレクションペーパーを準備することになっている。本学類では学類FDシンポジウムを毎年開催して各教員の教育能力の底上げを行う活動をしているため、今後も継続していきたい。
--

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 生命理工学類・生命理工学専攻

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	各教員にシラバスの内容を確認の上、特に授業評価アンケートの回答率と評価の点検を求めた。回答率が昨年より低い傾向であったため学生に周知する必要があると考えられ、改善案についても意見を求めた。さらに成績評価においては、評価基準や成績分布について問題がないか確認を求めた。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 授業評価アンケートについては、各教員にアンケート結果の確認を周知、それに基づいた授業内容の改善を求めた。卒業・修了者アンケートについては、学類会議にて大まかな結果報告を行い、意見聴取を行った。また授業評価アンケートと同様に回答率が低い傾向にあったため、通知の方法を改善することとした。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
実施なし					

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	授業評価アンケートの回答率がやはり低い傾向にあったので学生への周知を徹底する必要があると考えられた。各教員にはシラバスの内容の確認、授業評価アンケートについて回答率と評価の点検を求めた。改善案についても意見を求めた。さらに成績評価についても評価基準や成績分布の確認を求めた。またレポートの作成法や学生実習の実施方法について独自の取り組みを行った。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートについては、各教員に各アンケート結果の確認を周知、それに基づいた授業内容の改善を求めた。卒業・修了者アンケートについては学類会議にて大まかな結果報告を行い、意見徴収も行った。また授業アンケートと同様に回答率低い傾向にあったので通知の方法に改善が必要あると考えられた。
--

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医学類

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年10月1日に医学教育分野評価基準に適合しているとの認証を受けた。日本医学教育評価機構(JACME)から評価された評価報告書を踏まえて、今後の改善に向けて取り組んでいる。 ・医学類FD委員会委員に学生支援委員会委員、基礎系教員、臨床系WG委員が新たに参画し、内容の一層の充実に繋がった。新型コロナウイルス感染症の拡大下においても、医学系FD研修会を月1回程度オンラインで開催し、年間の参加者数は過去最多となった。医学系FD研修会のオンデマンド配信は継続し、より多くの教員がFDの内容をいつでも閲覧できる仕組みを構築している。また、年2回未満の参加者に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を課した。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。 ・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多数の担当教員への説明が効果的に行われた。 ・カリキュラム評価委員会を定期的に開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。昨年度より学生が委員会に参画している。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		<p style="text-align: center;">令和5年度に向けた改善計画</p> カリキュラム委員会及び教育委員会を中心に、教育カリキュラムの改善に取り組む。医療人材教育研究センターの設立に伴い、医薬保健学域でのFD研修会の実施を予定している。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()
-----------------------	--

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(サブスペシャリティ・ローテーション実習の英語の医療面接の授業において、CLAでご協力いただいている研究分野の教員に授業参観していただく機会を設けた。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
第1回医学系FD研修会	4月10日	医療人材教育研究センターの設置について	FD委員 含む72名		
第2回医学系FD研修会	5月15日	金沢大学医学類の使命	FD委員 含む56名		
第3回医学系FD研修会 (医療人材教育研究センター共催)	6月23日	多職種連携教育(IPE)へ取り組むには? 医療人材教育に求められるIPEへの展望と課題①	FD委員 含む25名		
第4回医学系FD研修会 (医療人材教育研究センター共催)	7月10日	多職種連携教育の必要性と実践	FD委員 含む43名		
第5回医学系FD研修会 (医療人材教育研究センター共催)	9月15日	多職種連携教育(IPE)へ取り組むには? 医療人材教育に求められるIPEへの展望と課題②	FD委員 含む17名		
第6回医学系FD研修会 (医療人材教育研究センター共催)	10月27日	第1回海外臨床研修セミナー	FD委員 含む9名		
第7回医学系FD研修会 (医療人材教育研究センター共催)	11月24日	多職種連携教育(IPE)へ取り組むには? 医療人材教育に求められるIPEへの展望と課題③	FD委員 含む9名		
第8回医学系FD研修会 (医療人材教育研究センター共催)	12月18日	発達障害等の支援ニーズがある学生に対する合理的配慮	FD委員 含む50名		
第9回医学系FD研修会	2月5日 ~2月29日	シラバス	FD委員 含む44名	LMSでのオンデマンド視聴および確認テストで欠確認を行った。	
第10回医学系FD研修会	3月11日	コアカリ(令和4年度改訂版)から新カリキュラムを考える	FD委員 含む40名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
4	<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育分野評価基準の1年毎の自己点検の作業を行い、日本医学教育評価機構(JACME)にその結果を報告し、本学医学類HP上でも2023年度年次報告書を公開している。 ・2023年度には医学系FD研修会を計10回実施した。今年度より医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと連携することで、FD研修会の内容の充実に繋がった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、オンラインだけでなく、対面でもFD研修会を開催した。医学系FD研修会の対象の教員(医学系および附属病院所属の教員)がFD研修会の内容をいつでも閲覧できるように、FD研修会の資料や録画した動画をLMS「医学FD」上で共有している。また、年2回未満の教員に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を例年通り課した。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。 ・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多人数の担当教員への説明が効果的に行われた。 ・カリキュラム評価委員会を定期的に開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。医学類1～6年の各学年の代表者が同委員会に参画した。

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」を踏まえたカリキュラム改革を年度内に進める。医学類FD委員会と医療人材教育研究センターが連携して、FD研修会のさらなる充実を図っていく。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 薬学類(創薬科学類)・創薬科学専攻・薬学専攻

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	金沢大学の方針に従ったFD活動を今年度も実施した。薬学系では毎年、全教員を対象とする薬学系FD研修会を開催するとともに、新任教員を対象とした研修会を独自に開催することで、教育研究の質の向上と教務内容全般の確認作業を行っている。本年度も12月にFD研修会を開催し、公務欠席者を除けば、100%の出席率であった。本年度のFD研修会においては、「予習復習用動画教材の作成とLMSへの掲載方法」、「ハラスメントの防止 - 行為者にならないために -」をテーマに講演いただき、教員の能力及び資質向上となった。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。アンケートの結果から、学修等の良好な達成度、「金沢大学で学んだことに満足している」の設問の回答が100%という結果も得られた。現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。令和5年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
令和5年度薬学系新任教員 教務関連研修会	4月27日	教務全般の説明(カリキュラム、履修、成績判定、アカンサスポータルへの運用、授業アンケート、アドバイザー制度)	薬学学類長、 FD委員長、 他5名	国際基幹教育院の協力を得た。	○
令和5年度 薬学系(学類・大学院研究教育) FD 研修会	12月10日	研修テーマ「薬学類のキャリア教育を考える」 ①「キャリア形成科目群」導入の背景と趣旨 ②各キャリア形成科目の内容紹介 ③「キャリア形成科目群」受講生の反応と今後の改善	薬学教員 46名	全教員に参加義務を課している。	○

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	金沢大学の方針に従ったFD活動を今年度も実施した。毎年、薬学系独自のFD研修会と、新任教員を対象とした研修会を開催している。今回も公務欠席者を除けば100%の出席率であった。薬学系FD研修会では「薬学類のキャリア教育を考える」をテーマに、薬学高度専門人材の養成に向けて「キャリア形成科目群」導入の背景と趣旨、科目の内容紹介、受講生の反応等について、説明を行った。教員間の情報共有、薬学教育の在り方等を考える機会となった。これらの活動を通して教育の改善・充実、教員の能力及び資質向上に繋がっている。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。アンケートの結果から、学修等の良好な達成度、「金沢大学で学んだことに満足している」の設問の回答が100%という結果も得られた。現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。令和6年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬科学類

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	教育に関するFD(授業評価アンケートの結果を学類会議で共有する, シラバスの確認)については概ね実施できていた。一方, 組織だったFD活動(FD研修会など)については今後検討する。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ, 令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について, 具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 授業評価アンケート内容のうち, 講義に関する提案(自由記載含む)が含まれている場合, その内容について学類会議で共有し, 必要に応じて担当教員に照会し, もっともな提案については改善を促すなど, 講義のあり方に実際に反映されるように取り組む。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下, 令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について, 令和5年度の実施状況を選択してください。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を, 授業方法・カリキュラムの改善のために, どのように活用しましたか。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(複数の教員が担当する科目において、オンライン講義を相互に視聴できるようにした。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
令和5年度第1回医薬科学類FD研修会	10月26日	医薬科学類学生の現状について	医薬科学類長、 ほか12名	全教員が参加した。	○

各教員が所属する系で開催されたFD研修会に参加した。
学類長ほか5名は薬学系の研修会(1回)へ、副学類長ほか5名は医学系の研修会(13回のうち2回以上)へ参加した。

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	教育に関するFD(授業評価アンケートの結果を学類会議で共有する、シラバスの確認)については概ね実施できていた。また、10月にFD研修会を開催し、「医薬科学類学生の現状について」と題してさまざまな統計資料に基づいて意見交換を行った。今後、さらに組織だったFD活動について開催を検討する。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

前年度に引き続き、講義に関する提案(自由記載含む)が授業評価アンケート内容に含まれている場合、その内容について学類会議で共有し、必要に応じてその内容を担当教員に照会し、説得力のある提案については改善を検討するなど、今後、講義のあり方に実際に反映されるよう取り組みを行う。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 保健学類・保健学専攻

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	今年度は保健学系独自でFD研修会を3回開催し、「学習意欲向上に導く支援」「こころの健康とゲートキーパー」「ハラスメント防止」に関わる内容を取り上げた。多くの教職員が参加し、事後に実施したアンケートの結果も良好であった。医学系FD研修会についても毎回案内を行い、参加を促すことによって、医学教育に関するさまざまなトピックを学ぶ機会を提供した。また、授業評価アンケートについては、実施期間等を学生にアナウンスするだけでなく、クラス担任や指導教員からも学生に周知を行うなど、回答率向上のための工夫を講じるとともに、アンケート結果の授業担当教員へのフィードバックを行った。さらに、授業の改善や教育の充実を目的に、学類2、3年次を対象とした投票結果に基づき、優秀教育教員の選出を行った。全体を通して、予定していた活動を全て実施することができたため、大いに評価できると判断した。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 アンケート結果の授業担当教員へのフィードバックを引き続き行うとともに、集計結果から判明した改善すべき点については、改善に向けた働きかけや取り組みを進めていきたい。また、各教員がそれぞれの担当する授業で行っている優れた取り組みのノウハウを共有する機会を設けることや、オンライン講義を積極的に取り入れたブレンド型講義に関する研修会等を実施して、今後の授業の改善に努めていきたい。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
令和5年度第1回保健学系FD研修会	3月31日	こころの健康づくりについて	保健学類長、FD委員長、ほか24名		
令和5年度第2回保健学系FD研修会	4月5日	論文の評価	FD委員長、ほか70名	保健学類長が講師	
令和5年度第3回保健学系FD研修会	7月5日	SciValを使ってみましょう!	保健学類長、FD委員長、ほか68名		
令和5年度第4回保健学系FD研修会	12月6日	ハラスメントのないキャンパスをつくるためにアサーションの観点から考えるー	保健学類長、FD委員長、ほか42名		
令和5年度第5回保健学系FD研修会	3月6日	未来は自分で守る:HPVワクチンはなぜ必要か?	保健学類長、FD委員長、ほか40名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
4	<p>今年度は保健学系独自に企画したFD研修会を計5回開催し、「こころの健康づくり」「論文の評価」「研究力分析ツールの活用」「ハラスメント防止」「HPVワクチン」に関わる内容を取り上げた。多くの教職員が参加し、事後に実施したアンケートの結果も良好であった。ハラスメント防止に関する内容は毎年取り上げているが、今年度はアサーションに着目した研修会を開催し、コミュニケーションがうまくいかないときや人間関係が難しいときの具体的な対処法について学ぶ機会を設けた。医学系FD研修会および医療人材教育研究センターFD研修会についても毎回案内を行い、参加を促すことによって、医療人材教育に関するさまざまなトピックを学ぶ機会を提供した。また、教育活動および研究活動の更なる充実を目的に、学類生の投票結果に基づく優秀教育教員の選出、および優れた業績を残した教員や大型的研究費を獲得した教員を対象とした優秀研究教員の選出を行うとともに、これらの選出基準や選出方法についても見直しを行った。これらの活動を含め、当初予定していた活動を全て実施することができたため、大いに評価できると判断した。</p>

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

<p>授業評価アンケートや卒業・修了者に対するアンケートの結果は、令和6年度も引き続き授業担当教員へのフィードバックを行い、必要に応じて改善に向けた働きかけや取り組みを進めていきたい。また、優秀教育教員に選出された教員が行っている優れた取り組みの共有、アクティブラーニングの導入推進、DXの推進などを通して、教員の教育能力の向上のための取り組みを進めていきたい。</p>

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人間社会環境研究所

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和5年度は、企業・各種団体へのアンケートおよび学類生への進路意識調査を実施し、時間をかけて分析を加えたものをFD研修会に提示して、大学院修了後の進路に関する学生指導に有益な情報を共有するとともに、さらに集団的分析を加えた。とくに、従来は理系大学院修了者への期待と需要が高いと目されてきた分野でも人文社会科学系院生への潜在的需要が高いことが示され、それを現実化させるための方途について意見交換されたことは有意義であった。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画
		新たに設けられた大学院GS科目について、院生の声を把握して内容のさらなる充実をはかるとともに、従来からの科目についても、各種アンケートを実施するなどして不断の改善をすすめていく。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(新型コロナの感染拡大が完全に収束したとはいえない状況に鑑み実施していない。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(大学院授科目は5名以下の科目が多く、分布の偏りについて検証できるだけのデータを得られていないことから現状では成績評価分布について調査を計画していない。)

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
令和5年度第1回人間社会環境研究科FD研修会	1月23日	文科省担当者を招いて、さまざまなデータを基に分析した人文科学・社会科学系大学院の現状および問題点や、改革の方向性について意見を伺い、意見交換した。	研究科長はじめ 全学から51名		
令和5年度第2回人間社会環境研究科FD研修会	3月7日	文系大学院と企業・団体との連携に関するアンケート調査結果の分析と意見交換	研究科長はじめ30名		
令和5年度第3回人間社会環境研究科FD研修会	3月21日	第2回FD研修会で分析したデータを基に、研究科長が文系大学院への進学ニーズについて分析・報告し、意見交換した。	研究科長はじめ 20名程度		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
4	令和5年度は、文系大学院の進路をテーマにFD研修会を実施した。「文系大学院と企業・団体との連携」というこれまで十分に検討されてこなかったテーマで、独自に工夫されたアンケートを実施し、集团的に分析を加えた。とくに、理系大学院学生に対する期待が高く需要も大きいと考えられてきた分野においても、人文社会系院生への期待が高く、潜在的需要も大きいことが確認されたことは、貴重な成果であった。研修会での議論により、アンケートをさらに充実させる方向性が共有されたので、今後も定期的にこの分野でのアンケートを実施するとともに、潜在的需要をどのようにして実際の進路選択・就職につなげていくかの集团的検討が必要であることが確認されたことも成果である。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

各種アンケートを実施しその結果について情報共有して、改善方策について検討するとともに、これらを参考にして授業の内容や実施方法の検討を行う。また、院生研究室の形態などを順次変更していく途上にあるが、その際に卒業・修了者に対するアンケートや意見交換会などで示される学生からの意見も参考としていく。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬保健学総合研究科(修士課程・医学博士課程)

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	国際基幹教育院との共催により、アクティブ・ラーニングを主としたFD講習会を定期的を実施することができた(医学類との合同開催)。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会は遠隔会議システムを用いた開催とした。授業評価アンケートについては、Webによる効率的なアンケートを主体実施とすることを目指す。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに概ね学修等に満足している結果が得られた。 医学博士課程においては、課題が2つ明らかとなった。①複数指導体制について、学生に注意喚起などを行ったものの、十分に認識していない学生が約半数存在した。指導教員からの啓発、学生達への通知の強化を今後検討する。②履修スケジュールを新たに手引きに記載することしたが、単位の修得方法、時期を理解しにくいという学生意見が残存した。さらに、履修案内を密に行う方法を検討する。修士課程においては、在学期間中すべてコロナ禍の影響を受けた学生が修了した。既に対面授業がメインとなりつつあるが、ポストコロナに向けて、対面授業や交流を促進する。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
医学系FD研修会	毎月1回第2月曜日(8月、1月を除く)	アクティブ・ラーニング(特に授業のオンライン化に伴う手法)、カリキュラムとポリシー、シラバス、学生支援(メンタルヘルス、多職種連携教育、留学生対応)等	20名～50名		○

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、FD研修会(医学系)を対面で開催することができた。今年度より医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと連携することで、医学系だけでなく、薬学系や保健学系の教員も参加可能なFD研修会の実現を目指した。授業評価アンケートについては、Webによる効率的な実施とすることができた。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

<p>修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに概ね学修等に満足している結果が得られた。医学博士課程における2点の継続課題について、①複数指導体制について、令和5年度においても、3分の2の学生が十分に認識していない結果であった。今後は本人に周知するなど、指導体制を充実させることを検討する。②単位の修得方法、時期を分かりやすく手引きに明示することにより、分かりにくいという学生の意見に減少傾向が見られるが、継続して実施する。</p> <p>修士課程においては、新型コロナウイルス感染症の5類への移行により、対面授業、交流を促進することが可能となったため、令和6年度も継続する。</p>

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先進予防医学研究所

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	シラバス点検により、主に英語化率に関する記載内容の改善を図った。千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻合同FD講演会において、医療情報の収集と利活用に関する情報等を共有し、教育方法の改善へつなげることができた。また、令和3年度に実施した自己点検・評価ならびに外部評価を参考にしつつ、3大学共同専攻の教育活動等の改善を図ることができた。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 3大学先進予防医学共同専攻として実施した自己点検・評価ならびに外部評価結果に基づき、授業評価アンケートおよび修了者に対するアンケートを教育活動改善に活用するための、3大学共同のシステム作りに引き続き取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義ならびに実習)を増やし、有効に活用するため、今後も3大学合同FD講習会を継続して実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(複数教員が担当する科目において、オンライン講義を相互視聴できるようにした。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
金沢大学・千葉大学・長崎大学 合同先進予防医学共同専攻 FD講演会	2月29日	共同専攻合同のFD講演会を千葉大学主催で実施した。「大学院教育にコーチングを活用する一個々の強みを伸ばし、成長を促すアプローチ」のテーマで、Webにより開催した。	3大学の担当教員、学生45名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	シラバスの点検を行い、記載内容の確認を行った。千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻合同FD講演会において、大学院教育におけるコーチング活用に関する情報を共有し、教育方法の改善へつなげることができた。授業評価アンケート結果は、授業担当者間で共有するとともに、今年度より公開した。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートおよび修了者に対するアンケートに講義・実習授業に対する提案が含まれている場合は、その内容について研究科内で共有し、検討を行うなどにより教育活動の改善に取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義ならびに実習)を増やし、有効に活用するために、3大学合同FD講習会を継続して実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 新学術創成研究科

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	FD研修会により、教育内容及び実施方法について、教員間で積極的に検討を行う機会を設けることができた。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画
		各専攻事の教務・学生生活委員会等で、アンケート結果より課題を抽出し、次回FD研修会での実施内容を整理し、研修会を開催する予定。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(融合科学共同専攻において、「異分野『超』体験セッションⅠ(博士前期課程)・Ⅱ(博士後期課程)」の授業を、専任教員に遠隔配信(webEX)にて公開した。

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
融合科学共同専攻FD研修会	3月1日	本学とJAIST間で相互の研究内容についての理解や異分野融合を促進させる指導法等について議論	専攻長 他9名	全体13名 ※他、オンラインでJAIST 教員	
ナノ生命科学専攻FD研修会	3月6日	留学生受入れに関する注意点について、具体的な事例を使ったワークショップ	専攻長 他12名	全体16名	

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	各専攻における課題について、教員間で積極的に検討を行う機会を設けることができた。特に留学生の受入れに関しては、複数の具体的な事例を題材に、ワークショップ形式で考えることにより、理解を深めることができた。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

今年度も引き続き、教員間で研究内容についての相互理解を深めるとともに各専攻における課題に着目した研修会を計画し実施する。また、アンケート結果も踏まえ、異分野融合を促進させる指導方法等について検討する。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学研究科(修士課程・専門職学位課程)

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学に関する意識調査を学類学生と専攻所属の学生に対して実施し、その結果についてFD研修会において報告し議論した。大学院進学を希望する学生や専攻の在学者の今後の指導に活かせる情報が共有された(法学・政治学専攻)。 ・組織的・継続的に、可能な限りの取組がなされ、毎年改善されている(法務専攻)。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		<p style="text-align: center;">令和5年度に向けた改善計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートの結果と議論で共有された教員の所見や問題提起を参考として在学者の指導を行い、大学院説明会の内容に反映させることを検討する。(法学・政治学専攻) ・アンケート結果、及び、各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて教員間で共有し、FD研修会において継続的に検討する。また、意見交換会の際に、弁護士からの意見も聴取する(法務専攻)。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。(法学・政治学専攻) <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。(法学・政治学専攻) <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した(法学・政治学専攻)。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした(法学・政治学専攻)。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした(法学・政治学専攻)。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。(法務専攻) <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> その他(弁護士による授業参観も実施し、意見交換会において、実際に参観した弁護士からの意見を聴取している(法務専攻))

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。(法務専攻) <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。(法務専攻) <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
第1回FD研修会	6月13日	法学研究科への進学に関する意識調査の結果報告	専攻担当 教員21名		○
【法務専攻】第1回意見交換会	7月20日	授業参観、加算プログラムについて	教員11名 (専攻長含む)、 弁護士6名		
【法務専攻】第1回FD研修会	9月5日	アドバイス教員制度の再検討について	教員13名 (専攻長含む)		
【法務専攻】第2回意見交換会	1月17日	弁護士からの授業または授業参観をしての感想等について	教員11名 (専攻長含む)、 弁護士4名		
【法務専攻】第2回FD研修会	3月12日	共通到達度確認試験の結果、中間・期末アンケートのありかた、2年生の早期履修の学習効果について	教員11名 (専攻長含む)		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
4	・法学研究科への進学に関する意識調査の結果分析をFD研修会にて議論した結果を、大学院説明会の改善(在学学生による大学院生活の紹介と質疑応答を追加)に活かすとともに、大学院進学を希望する学生や専攻の在学学生の今後の指導に活かせる情報を教員間で共有した(法学・政治学専攻)。 ・組織的・継続的に、可能な限りの取組がなされ、毎年改善されている(法務専攻)。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

・各種アンケートに加えて在学学生と直接意見交換する場を設けて学生のニーズを把握し、学修環境と組織体制の改善に努める(法学・政治学専攻)。 ・アンケート結果、及び、各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて教員間で共有し、FD研修会において継続的に検討する。また、意見交換会の際に、弁護士からの意見も聴取する(法務専攻)。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 教職実践研究科

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和5年度から「探究教育」と「共生教育」の2領域の高度化科目での学びがスタートすることを踏まえ、①教員・大学院学生への、「探究」に係る公開授業を実施し、活発な意見交換も展開した。②附属学校園との連携を深めるために夏の研究フォーラムに積極的に参加した。③金沢大学附属コラボレーション推進室長福田晃氏の講演から「金沢モデル」アクションプランについて学んだ。また、将来構想委員会において、探究学習や共生教育を多面的・多角的に展開することができ、さらに特別支援教育の専修免許取得が可能なカリキュラム開発に取り組んだ。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 教職実践研究科におけるFD活動を、公開授業を含む年3回計画している。令和5年度新設「探究教育」と「共生教育」の2領域の高度化科目に係る内容等についてFD会議を定期的に開催し、研究・検証する。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
第1回FD研修会	7月1日	開かれた教職大学院の学びの場として第1回「オープン・ラボ」を開催し子どもの居場所の映画上映及びスウェーデンの自然環境教育者の異氏を招聘し、公開研修会を開催した。	研究科長・学類長・FD委員を含む60名	環境教育分野の国際連携(公開)	○
第2回FD研修会	8月23日	学校教育学類・教職実践研究科・附属学校園研究推進委員会主催「夏の研究フォーラム」へ参加	研究科長・FD委員を含む20名	学校教育学類、附属学校園と共催	
第3回FD研修会	8月26日	NPO法人「金沢ユースセンター」副所長を招き放課後の高校生の居場づくりの取り組みに関する研修会を行った。	研究科長・FD委員を含む35名	NPO法人との連携(公開)	
第4回FD研修会	9月1日	新科目「子ども社会と探究フィールドワーク」の活動報告会を、校外施設当事者も招き実施した。	研究科長・FD委員を含む35名	フリースクール、子ども保育園、放課後学童施設との連携	
第5回FD研修会	9月5日 9月7日	ウプサラ大学のケスキ・マエンパ氏を招聘し、教育におけるアクションリサーチ並びにフィンランドの教員養成に関する研修会を開催した。	研究科長・FD委員を含む30名	部局間協定に基づく国際連携(公開)	○
第6回FD研修会	11月23日	「実践カンファレンス」において富山大学教職大学院院生を招き合同研修会を実施した。	FD委員を含む20名	富山大学教職大学院との連携	
第7回FD研修会	12月13日	新科目「学校組織と共生教育のデザイン」で、国際機関教育院飯田玲子氏を招き、教育におけるLGBTQ+についてのFD研修会を行った。	研究科長・FD委員を含む25名	国際基幹教育院との連携	

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
4	学生の学習成果を把握するため、教務・FD委員会の下、全ての授業に対して「授業改善のための学生アンケート」を、年間4回実施し、アンケート結果から各授業の学習成果等の分布を客観的に把握している。令和5年度から「探究教育」と「共生教育」の2領域の高度化科目での学びがスタートすることを踏まえ7つの活動に取り組んだ: ①開かれた教職大学院の学びの場とし「オープン・ラボ」の開催、②NPO法人との連携、③附属学校園との連携、③「共生」に係る授業を中核とした公開研修会の実施、④部局間協定校との国際セミナーの開催、⑤特別支援学校教諭専修免許の課程認定を受けての新しいカリキュラム開発、⑤富山大学教職大学院と連携し、院生主体の授業の相互参観を実施し、昨年度よりも多面的・多角的なFD活動を実施できた。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

教職実践研究科におけるFD活動を、各クォーターで公開授業を含む年4回計画している。特に、R6年能登半島地震に関する授業を「探究教育」と「共生教育」の2領域でFD授業を実施する。また、R6年度から新たに開始する特別支援学校教諭専修免許の課程認定科目を中心として、その内容等を教務・FD委員会を定期的開催しながら、研究・検証していく。さらに、R5年度に試行した富山大学教職大学院との共同のFD活動を定例化する予定である。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際基幹教育院(GS教育部門)

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症問題によって授業実施方法が不安的な状況であった中、FD研修会を年度内に3回実施した。各科目で自主的なFDを複数回実施しており、効果的なアクティブ・ラーニングを実現する、あるいは英語授業の効果を向上させるなど、授業改善にむけた効果的なFDが実施できていたと考えている。GS教育系は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域にまたがる内容であり、学類と比較すると科目の個別性・特殊性がより強いと言えるが、全科目で共有できるテーマを見出し、これからもFDを実施していきたい。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 —

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
令和5年度第1回GS教育系FD研修会	5月18日	総合教育部担任経験のある教員が中心となり、「総合教育部担任マニュアル」を作製した。担任業務内容とマニュアルの注意点について紹介がなされた。	教育院長, 外国語系長, GS系長, FD委員含む27名	外国語教育系との 共同開催	
令和5年度第2回GS教育系FD研修会	7月20日	GS教育系アクティブ・ラーニング検討WGにより「分子モデル描画ソフトによる分子の立体構造の効果的学習法」、「体育実技における映像フィードバックの活用」、「物理シミュレーションを用いたアクティブ・ラーニング」、「学生の授業外学修時間が学修目標達成度に及ぼす影響」について報告された。	教育院長, 外国語系長, GS系長, FD委員含む23名	外国語教育系との 共同開催	
令和5年度第3回GS教育系FD研修会	9月26日	女性や性的マイノリティ学生に対してどのような配慮をおこなうことが教員に求められているのか、セーフスペースをどのように構築することができるのか、学生からの声を紹介しながら意見交換が行われた。	教育院長, 外国語系長, GS系長, FD委員含む13名	外国語教育系との 共同開催	
令和5年度第4回GS教育系FD研修会	11月16日	医学教育分野別評価、医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂、医師法の改正等、近年の日本の医学教育を取り巻く環境は刻々と変化している。医学類のアクティブ・ラーニング型授業や学生も参画する授業カリキュラムの作成・改良委員会等、先進的な取り組みが紹介された。	教育院長, 外国語系長, GS系長, FD委員含む17名	外国語教育系との 共同開催	
令和5年度第5回GS教育系FD研修会	12月14日	大人数の講義では、受講生のレポートを統一した評価基準で採点すること、受講生同士の双方向性やアクティブ・ラーニングを実現することが困難である。受講者同士の相互採点および受講者同士の採点者評価を導入したレポート採点法により、高い双方向性の教育が成り立つことが報告された。	教育院長, 外国語系長, GS系長, FD委員含む34名	外国語教育系との 共同開催 全学周知	
令和5年度第6回GS教育系FD研修会	1月18日	LINE対応AI ChatBotは、ChatGPT 3.5を基にGS教育科目健康科学のテキスト・スライドや厚生労働省の国民向け健康情報サイトe-ヘルスネットを学習し、学生の質問に対し迅速かつ正確に回答した。モニター学生の反応、ChatGPT 4.0を使用したベータ版開発の進捗状況についても報告がなされた。	教育院長, 外国語系長, GS系長, FD委員含む25名	外国語教育系との 共同開催	
令和5年度第7回GS教育系FD研修会	2月8日	未来から現在すべきことを考え、施策立案や人材育成に活かす手法として「フューチャー・デザイン」が注目されている。フューチャー・デザイン導入による学生のマインドセットの変化について報告がなされた。	教育院長, 外国語系長, GS系長, FD委員含む18名	外国語教育系との 共同開催	

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	<p>本年度はGS教育系主催で7回のFD研修会を実施した。「総合教育部の運営マニュアル」、「アクティブ・ラーニングの技能改善」、「LGBTQ+の理解と問題点」、「受講生相互採点による成績評価法と双方向性の高い教育の実現」、「生成AIを利用した教育支援」、「フューチャー・デザインの導入」に関する内容を取り上げ、各研修会では積極的な意見交換が行われた。また、GS教育系の各科目では、担当教員間での自主的なFD活動が複数回実施されており、アクティブ・ラーニングや英語授業の効果の向上等、授業改善に向けた効果的なFD活動が実施できていたと考えられた。外国語教育系主催のFD研修会への積極的な参加を促すことにより、共通教育における相互理解と問題点の共有に取り組むことができた。GS教育系は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域にまたがる内容であり、他の学類と比較すると科目の個別性・特殊性がより強いと言えるが、アクティブ・ラーニングの手法、成績評価方法や生成AIによる教育支援等の全科目で共有できるテーマを見出し、これからも効果的なFD活動を実施していく予定である。</p>

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際基幹教育院(外国語教育部門)

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	4	<p>令和4年度は外国語教育部門のすべての教育企画部(EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部)において、新規の取り組みを含む充実したFD活動を実施した。EAP教育企画部では例年実施しているEAPワークショップ(コロナ禍のためオンライン開催)に加え、新たなFD活動として「EAP Chat I 及び II」を実施した。更にはEAP教育企画部では「金沢大学EMI科目の現状と今後の展望」と題した第3回全学FD研修会を対面及びオンラインでハイブリッド開催し、多くの方に参加いただいた。また、報告内容の一部を冊子体およびPDF版として発行し、学内教員に配布できるようにした。</p> <p>学生に語彙力向上を促す目的で「金沢大学ポキャブラリーコンテスト2022」をはじめ開催するにあたり外国語教育系でWGを立ち上げ、企画運営にあたり、英語担当教員全員参加から語彙問題を募った。これに関連し次に挙げる2つのFD活動を実施した。国際試験教育企画部では、語彙力をつけさせる有効な教授方法の研究分野における第一人者の一人を他大学から外部講師として招き、対面形式でワークショップ形式の研修会を実施した。これに加えて、TOEIC関連で多数の著書がある外部講師を招き、「英語語彙問題作成セミナー —TOEIC Part 5 で学ぶ問題作成の視点と考え方—」と題したワークショップ型研修会をハイブリッド形式(外部講師はオンライン)で開催した。</p> <p>融合学域、教学マネジメントセンター、保健管理センターと共催で国際基幹教育院として、スタンフォード大学教授による「スタンフォードと睡眠医学—最高の睡眠で最幸の人生を—」と題したFD講演研修会を実現した。また、人文学類/人間社会研究域言語研究グループとの共催で講師2名を招き、第4回金沢言語学フォーラム/初習言語(中国語)FD研修「中国語の時空間—くいま、ここから見えるもの」を実施した。更には未来創成環、附属図書館との共催で他大学所属の第一人者を招き、「学術リテラシー教育としてのライティング授業とライティングセンターの連携」と題したFD/SD講演会を開催し、講演会後には講師から科目開発研究への助言を得るとともに関係教員との意見交換会を実施した。</p> <p>初習言語・EAP・TOEIC準備科目の6科目で相互授業見学を実施し、延べ40名が参加した充実したものとなった。</p> <p>具体的授業実践の相互見学、新たな教育支援に関連した多様なFD活動の取り組みに加え、他部局・学類との連携した講演・研修会が複数実施されるなど活発なFD活動が展開された。</p>
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(教育企画部コーディネーターで結果を分析し、新カリキュラム策定委に活かした。)
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
第1回外国語教育系FD研修会 ER in the Second Language Classroom	6月7日	第二言語習得における多読についての講演(Gregory Hadley 新潟大学教授)	系長ほか 12名		○
第2回外国語教育系FD研修会 TOEICスコアの社会での活用についての紹介	6月26日	TOEICテストをめぐる最新動向および本学学生のTOEIC スコアの推移についての説明(IIBC (国際ビジネスコミュニケーション協会)担当者より)	系長ほか 12名		○
第3回外国語教育系FD研修会 (国際試験教育企画部企画) 「英語語彙問題作成セミナー TOEIC Part 5で学ぶ問題作成の視点と考え1」	9月12日	TOEIC Part 5 を題材として語彙問題作成セミナー:問題作成のポイント解説 (前田広之氏)	系長ほか 12名		○
第4回外国語教育系FD研修会 (国際試験教育企画部企画) 「英語語彙問題作成セミナー TOEIC Part 5で学ぶ問題作成の視点と考え2」	9月19日	TOEIC Part 5 を題材として語彙問題作成セミナー:参加者が作問した問題の講評を中心として解説 (前田広之氏)	系長ほか 12名		○

国際基幹教育院FD研修会 新外国語カリキュラム教員 研修会— ポストSGUプログラムの外国語教育	9月26日	2023 年度で終わりを迎えるSGUプログラムにおける外国語教育の総括を行った上で、新英語・初習言語カリキュラムの改革点についての説明、及び報告学術リテラシー関連の報告	教育担当理事、全学教務委員長、院長、系長名(内オンライン70名)	全学FD研修会 対面とリモートのハイブリッド開催	○
第5回外国語教育系FD研修会 (EAP/国際試験 教育企画部企画) 生成 AI の登場に伴う技術英語スキルの育成	10月4日	機械翻訳およびChatGPTの利点と欠点を知った使いこなし術、SNS、YouTubeなど身近なツールを用いた英語学習について(中山裕木子氏(株)ユー・イングリッシュ)	系長ほか 14名	オンライン開催	○
第6回外国語教育系FD研修会 (国際試験教育企画部企画) Skills For Academic English and TOEIC Success: Listening and Speaking	10月24日	「Practical English」(「TOEIC準備」後継科目)で採用する統一テキストの活用についての解説及びQ&A(OUP出版Robert Peacock氏およびCharles Ullmann氏)	系長ほか 12名		○
第7回外国語教育系FD研修会 (初習言語教育企画部企画) 初習言語カリキュラム説明会	2月9日	2024年度からの初習言語カリキュラムに関する授業担当者向け説明会	20名		○
第8回外国語教育系FD研修会 (EAP教育企画部企画) EAP new curriculum from 2024	2月16日	2024年度からの新EAPカリキュラムに関する授業担当者向け説明会	系長ほか 15名		○
LiLa対象チュータリング研修	3月6日	Library Learning Advisor (LiLa)を対象としてチュータリング研修(片山晶子氏)	9名 (オンライン)		
未来創成教育環 FD シンポジウム 「教育現場の AI 使用」	3月13日	トム・ガリー東京大学グローバル教育センター特任教授の基調講演および学内3教員(中澤富准教授、野村彰浩准教授、八柳祐一教授)による事例紹介	教育担当理事、全学教務委員長、学長補佐、院長、系長 118 名(内オンライン70名)	未来創成教育環主催 全学FD研修会 対面とリモートのハイブリッド開催	○

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5—1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
4	<p>令和5年度はすべての教育企画部(EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部・未来教育創成環教育企画部)において充実したFD活動が実施された。</p> <p>2022年度設置した英語将来構想WGが英語科目の抱える課題の洗い出しを行い、2024年度開講予定の新カリキュラムの方向性を提示した。(1)「英語で教授する」、(2)「共通シラバス・共通教材(共通教科書)・共通試験・評価」、(3)外部客観試験スコアを用いた学生の英語力の悉皆経年把握、(4)教育企画部による統一コース管理という特徴を継承しつつも、より確かな英語読解力、事象を批判的に捉える力(クリティカル・シンキング)、英語による発信力、汎用的知的コミュニケーション能力、本質的課題を見出しそれらの解決を思考する姿勢を育成・涵養するプログラムの開発が各教育企画部に指示された。これらの方針に基づき、国際試験教育企画部とEAP教育企画部は改革案をまとめ、科目開発およびシラバス・教材・教員マニュアルの全面的改訂を行った。</p> <p>国際試験教育企画部は、従来「TOEIC準備コース」で扱っていたTOEICテスト対策の要素は残しつつ、より汎用的な実践英語を扱う「Practical English」という新コースを開発し、教科書もTOEIC対策に特化したものからより汎用的でクリティカル・シンキングの要素を入れた新しいものへと変更した。なお、客観試験の最終成績に占める比率を70%にするなど成績評価基準も変更した。</p> <p>EAP教育企画部は、生成AIや機械翻訳への対応を考慮し、従来のEAPコースの内容に加えて、自分以外が書いたテキストへの評価や語彙、クリティカル・シンキングの自習教材・小テストを新たに導入し、主観的評価要素を排した客観的評価の要素が成績全体の30%を占めるような成績評価制度を構築した。なお、1年次学術リテラシー教育の基礎的科目と位置づけられる「アカデミックスキル」「プレゼンディベート論」とEAPコースの連携を強めるために、各クォーターの授業で扱う内容や順序を適正化した。</p> <p>学術リテラシー教育企画部は、全学的な学術リテラシー教育の推進のため2年次以上を対象とする英語学術リテラシー科目5コース20科目を開発し、令和6年度については共通教育自由履修科目としてパイロット開講することにした。</p> <p>初習言語教育企画部では、学類との連携を強めより統一的に初習言語科目を運営するために、初習言語科目カリキュラム連絡会を設置した。また、初習言語科目カリキュラム改革WGを設置し、新カリキュラム作成検討準備会議を2023年度において30回以上開催した。これまでの初習言語科目の開講形態を抜本的に見直し、教育企画部による統一コース管理(統一教育目標、統一開講時間帯)を導入した新たなカリキュラムを立案・構築し、新カリキュラムのポイントをまとめた冊子『共通教育初習言語カリキュラム要覧』を作成し、関係教員に配布した。</p> <p>生成AIの台頭を踏まえたFD研修会ほか他部局・学類との連携した講演・研修会が複数件実施されるなど活発なFD活動が展開された。これらの多様なFD活動を活かしてポストSGUの外国語教育改革に取り組み、新カリキュラムをまとめ上げた。</p>

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5—2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学術メディア創成センター

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分については、メール等を用いて授業改善に役立てることができたことや、slack等を用いてお互いの授業を報告し情報共有と即時の授業改善に役立てられたこと、および令和5年度に向けてセンター教員全員で講習ができたので、概ね評価できる。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和5年度に向けた改善計画 —

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
データサイエンス基礎の授業の実施説明会	3月21日	次年度(令和6年度)のデータサイエンス基礎の実施に向けた研修会	9名		

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分について、令和6年度に向けて本センター教員全員で講習ができたこと、またメールやslack等を用いてお互い担当の授業を報告・情報共有しリアルタイムで授業改善に役立てられたことから、概ね評価できる。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--

令和5年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際機構

参考資料:「令和4年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和5年度に向けた改善計画		
自己評価	令和4年度の自己評価	総評
令和4年度FD活動の自己評価及び総評	3	国際機構には、留学生に充実した学修・生活指導を提供することに加え、既存の派遣・受け入れショートプログラムの運営と改善、並びに新規プログラムの開発が強く求められている。そのため令和4年度も、各担当分野の担当者同士が意見交換を重ね、創意工夫しながら活動を行った。具体的には、SNSの活用により、非常勤講師との情報共有を活性化したこと、また、今年度は、対面による授業相互見学を再開したことにより、FD活動を促進した。
授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。	3	令和5年度に向けた改善計画

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和5年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他()
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他()

2-2 下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(総合日本語プログラムの授業はすべて、担当者が互いに教材や授業の進め方などについての報告及び問題点の指摘などを行えるよう、定期的なミーティングを行っている。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和5年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他()
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和5年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
国際機構FD強化週間	令和5年12月18日～22日	国際機構教員(非常勤講師含む)がお互いの授業を見学	20名	総合日本語プログラム非常勤講師11名を含む	
学生指導にかかるFD研修会	令和6年2月15日	「最新の国際情勢を背景に、大学は何をすべきか。」 「生成AIツールの、教育・研究・その他の大学業務への活用について」・ディスカッション	教務委員長、FD委員ほか5名	講師:金沢大学名誉教授 楠根重和	○

○照会事項5 令和5年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和5年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和5年度の自己評価	総評
3	国際機構は、留学生や国内学生のための質の高い教育や生活・学習サポートを提供するだけでなく、派遣・受け入れショートプログラムの運営、新しいプログラムの開発が求められている。特に令和5年度には、令和6年度から始まる新体制での教育、研究その他の業務内容について、各担当分野の教員が経験を基に活発な意見交換を重ね、FD活動を強化した。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--

3 各部局等の BSD 活動

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学務課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 14 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和5年度第1回FD研修会	新任教員説明会<教育・学生編>	4月4日	3名	主催, 全体88名
令和5年度第2回FD研修会	分野を超えた専門知の組み合わせとは ~Society 5.0における人材育成の姿~	8月8日	7名	主催, 全体118名
令和5年度第3回FD研修会	KU-DPアドバイザリーボード「実践インターンシップを通じた学びの成果発表と意見交換」	9月27日	6名	主催, 全体62名
令和5年度第4回FD研修会	FD活動報告書成果発表会	10月27日	6名	主催, 全体51名
学術マネジメントセミナー2023	文理横断・文理融合教育を通じた学修成果の可視化と学生の成長	11月28日	4名	主催, 全体166名
大学院改革セミナー	なぜ今、人文社会系大学院の改革・拡充なのか?	1月23日	3名	
「知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)」成果発信シンポジウム	STEAM教育を通じた高大院接続による人材育成エコシステムの構築を目指して	2月27日	8名	主催, 全体145名
未来創成教育環シンポジウム	教育現場のAI使用	3月13日	2名	全体121名
数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 北信越ブロックシンポジウム	数理・データサイエンス・AI教育の進展 ~応用基礎レベル モデルシラバス(理工系)の普及に向けて~	6月8日	学務課 6名	主催, 全体100名
数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 北信越ブロックシンポジウム	「デジタル人材育成における高等教育機関への期待及び産業界での実践」	10月31日	学務課 8名	主催, 全体135名
数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 第2回北信越ブロック会議	サイバーセキュリティ推進校の取り組みを紹介	2月14日	学務課 6名	主催, 全体58名
大学コンソーシアム石川 令和5年度FD・SD研修会(第1回)	生成AIのあれこれ	9月15日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和5年度FD・SD研修会(第2回)	合理的配慮について	11月6日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和5年度FD・SD研修会(第3回)	金沢大学における教育DX推進について	3月12日	1名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	外部機関が主催する研修会に参加したほか、主催にて学務系職員対象に数理・データサイエンス・AI教育SD研修会を開催し、数理・データサイエンス・AI教育の意義や本学の文部科学省指定コンソーシアムの北信越ブロック代表校としての役割について理解を深めることができた。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学生支援課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	3	教職員のニーズを反映した講師・内容で、自死防止に関する研修会を継続して開催する。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
学生の自死防止のための研修会	大学生の命を守る —大学としてできること—	12月6日	7名	学生自死防止専門委員会主催、全学FD委員会、KUGSサポートネットワーク本部会議・学生生活委員会共催、全体75名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

・保健管理センターや障がい学生支援室、就職相談窓口の有機的な連携に事務職員も貢献し、対応状況を共有することでBSDにつなげている。

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	教職員のニーズを反映したテーマでの講師による研修会を行い、懸念のある学生をはじめとする学生への対応に係る教職員の理解が更に深まり、学生支援体制の強化につながった。また、平素から複数窓口の連携が必要な問題のある学生に関し、事務職員も積極的に関与することがOJTに結びついている。	教職員のニーズを反映した講師・内容で、自死防止に関する研修会を継続して開催する。

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学務課新学術創成研究科係

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 2 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
融合科学共同専攻FD研修会	本学とJAIST間で相互の研究内容についての理解の促進・社会人学生受入れのカリキュラムについて	3月1日	3名	主催, 全体13名 他JAIST教員
ナノ生命科学専攻FD研修会	留学生受入れに関する注意点についてのレクチャー及び具体的な事例についてのワークショップ	3月7日	3名	主催, 全体16名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	融合科学共同専攻FD研修会, ナノ生命科学専攻FD研修会に出席し, 教員の研究内容, 各専攻における課題の共有やそれに対する今後の取り組みや留学生への対応について, 共有することができた。	今年度も引き続き, 教員と課題について共有を図り, FD研修会の企画・実施を進める。

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部入試課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和6年度入学者選抜試験(一般選抜)合格者判定資料等に関する説明会	主体性評価方法及び合格者判定資料等についての説明をオンデマンドで実施	1月19日 ～29日	6名	主催, 全体110名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

令和6年度入学者選抜試験(一般選抜)事務担当者打ち合わせ会及び案内業務説明会を、昨年度に引き続きオンデマンド形式で実施し、繁忙期においても担当者がいつでも繰り返し内容を確認可能とした。
--

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	昨年度と同様の取り組みを実施し、令和6年度入学者選抜試験を無事に実施することができた。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部基幹教育支援課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	3	次年度も引き続き対象者に向けて実施する予定である。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和5年度前期 学生相談担当者研修会	なんでも相談室の基本方針, ハラスメント相談への対応, 相談をうけるとき基本的な態度, 共通教育のカリキュラムや履修登録の方法等の説明をオンデマンドで実施した。	オンデマンド	4名程度	主催(全体参加者数19名程度)

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

国際基幹教育院主催FD研修会に毎回1~5名程度が参加している。

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	「学生相談担当者研修会」は、毎年度相談員となるメンバーが変わるため、継続した開催が必要と思われる。	次年度も引き続き実施・参加する。

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 融合系事務部学生課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	3	引き続き、融合学域FD研修会、融合学域教員研究シーズ紹介等に参加する。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 19 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数 (概数)	備考
第8回融合学域FD研修会	学生の要望等について	4月27日	4名	全体21名
第9回融合学域FD研修会	MATLABを活用した講義について	6月22日	3名	全体18名
第10回融合学域FD研修会	DS.INSIGHT(ビックデータ分析ツール)の説明	7月27日	4名	全体19名
第11回融合学域FD研修会	融合研究・融合演習・融合試験について	8月24日	5名	全体25名
第12回融合学域FD研修会	教育方法改善	9月28日	5名	全体21名
第13回融合学域FD研修会	教育DX化に向けたMATLABの活用	10月26日	2名	全体12名
第14回融合学域FD研修会	海外WGからの海外留学実施報告など	11月30日	5名	全体23名
第15回融合学域FD研修会	カリキュラムについての自由討議	1月25日	4名	全体18名
第16回融合学域FD研修会	基礎科目・データサイエンス	2月22日	3名	全体16名
第17回融合学域FD研修会	能登震災に対する教育研究などについての自由討議	3月28日	5名	全体13名
知識集約に係るFD研修会	金沢大学知識集約型社会を支える人材育成事業(KU-DP)における取組概要説明	5月11日	5名	全体33名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	9月14日	4名	全体33名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	10月12日	4名	全体31名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	11月9日	4名	全体32名
ハラスメント防止研修	ハラスメント防止研修	7月13日	4名	全体32名
令和5年度第1回観光デザイン学類ワークショップ	令和6年度開講科目、アドバイス教員等について	7月28日	5名	全体22名
令和5年度第2回観光デザイン学類ワークショップ	令和6年度開講科目、鍛練科目等について	10月25日	5名	全体21名
令和5年度第3回観光デザイン学類ワークショップ	令和6年度開講科目、ボランティアに関する科目、海外派遣公式プログラム等について	2月16日	5名	全体20名
スマート創成科学類ワークショップ	令和6年度開講科目、アドバイス教員等について	10月26日	5名	全体21名
スマート創成科学類ワークショップ	令和6年度開講科目、アドバイス教員等について	1月25日	5名	全体21名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	融合学域FD研修会，融合学域教員研究シーズ紹介，及び学類ワークショップに参加し，教員との情報共有を行った。	引き続き，融合学域FD研修会，融合学域教員研究シーズ紹介，各学類ワークショップ等に参加する。

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 人間社会系事務部学生課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	4	

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 3回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
人間社会学域FD研修会(第1回)	人と自然の共生－恵みと災いの両面から－	6月15日	1名	
人間社会学域FD研修会(第2回)	COIL型教育を推進するために	9月28日	1名	
人間社会学域FD研修会(第3回)	ハラスメントのない大学を目指して	10月27日	8名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	課独自に研修を行うことは負担が大きいことから難しいものの、学生支援に関わるテーマのFD研修会を活用して、BSD活動を行うことが出来た。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 理工系事務部学生課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	2	来年度の活動予定において、時期の移動や回数増などの変更は予定していない。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 2回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
理工学域及び自然科学研究科のFD講演会	博士人材のキャリアパスと理工系人材の育成	7月26日	20名	主催, 全体80名
理工学域・自然科学研究科 第15回FDシンポジウム	授業形態と学習効果2	3月25日	2名	主催, 全体88名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
2	教員向けの講演だったため、事務職員として知識を得る内容ではなかった。	来年度の活動予定において、時期の移動や回数増などの変更は予定していない。

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部学生課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	4	

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 8回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
第1回医学系FD研修会	医療人材教育研究センターについて	4月10日	3名	
第2回医学系FD研修会	金沢大学医学類の使命	5月15日	2名	
第3回医学系FD研修会	多職種連携教育(IPE)へ取り組むには? 医療人材教育に求められるIPEへの展望と課題	6月23日	2名	
カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの体系的整理に係るオンライン説明会	学士課程(専門教育科目)におけるカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの見直し	6月27日	2名	
医学系FD特別講演	授業をやめ、医療現場を経験すれば、学生は自ら勉強する	7月27日	3名	
第7回医学系FD研修会	多職種連携教育(IPE)へ取り組むには? 医療人材教育に求められるIPEへの展望と課題	11月24日	3名	
学生の自死防止のための研修会(金沢大学学生自死防止専門委員会)	大学生の命を守る-大学としてできること-	12月6日	6名	
第8回医学系FD研修会	発達障害等の支援ニーズがある学生に対する合理的配慮	12月18日	2名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催者を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
4	令和5年度より設置の医療人材教育研究センターによるFD研修会と合同で医学系FD研修会を実施しており、事務職員が参加しやすい環境が整っている。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部薬学・がん研支援課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
薬学4年制課程卒業生の薬剤師国家試験受験資格認定に関する勉強会	薬学4年制課程の卒業生が薬剤師国家試験受験資格を取得できる制度について, 制度の概要や手続きに必要な知識の勉強会を行った。	9月25日	2名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	「研修」という形式にまでは至らないものの、日常業務のOJTによる教務システムや教員が利用するWebClassの使い方などの知識向上やスキルアップに努めている。また、専門部署や関係教員等にアドバイスを求め、その内容等の情報共有を課内で密に行っている。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部保健学支援課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 3回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和5年度第1回保健学系FD研修会	こころの健康づくりについて	3月31日	2名	主催, 全体24名
令和5年度第4回保健学系FD研修会	ハラスメントのないキャンパスをつくるために —アサーションの観点から考える—	12月6日	5名	主催, 全体42名
令和5年度第5回保健学系FD研修会	未来は自分で守る:HPVワクチンはなぜ必要か?	3月6日	5名	主催, 全体40名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	現在の学生の特徴や、こころの健康のサポート, ハラスメント防止をテーマとした教員向けのFD研修会への参加を通じて、学生への支援のあり方について理解を深めることができた。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

令和5年度BSD活動報告(様式)

課名 国際部留学企画課

参考資料: 令和4年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和4年度の自己評価	令和5年度の改善に向けての取組み予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載
照会事項3 自己評価及び総評 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和5年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和5年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 2 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
大学国際教育交流・派遣留学管理者向け危機管理オンラインセミナー	『With & Postコロナ時代の海外派遣留学に備える大学の危機管理』 ～2大学からの体験談発表～	6月12日	1名	日本アイラック主催, 全体178名
2023年度金沢大学学生の海外渡航危機管理シミュレーション	海外公式プログラムに参加中の学生の交通事故を想定した危機管理対応シミュレーション	7月28日	6名	主催, 全体44名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和5年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和5年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 ※自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	昨年度から継続して「海外渡航危機管理シミュレーション」を実施し、学内危機管理対応マニュアルに沿った危機管理対策本部および各部署の役割・対応を確認し、現実の有事におけるスムーズな対応に効果があった。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

(参考)

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
事務局	令和5年度金沢大学初任者研修	事務・技術系の初任職員に対して、本学の基本的事項について講義、見学体験等の多様なプログラムを提供し、「金沢大学職員」としての基礎的な能力を身につけさせることにより、今後の大学事務執行の円滑化を図る。	16名	金沢大学
	令和5年度北陸地区国立大学法人等初任者研修	新たに採用された事務系・技術系職員に対し、国立大学法人等事務に関する基礎的知識を修得させ、事務能率の増進を図ることを目的とする。	16名	金沢大学
	令和5年度人事評価研修 (評価者研修)	人事評価制度を有効に活用することにより、本学職員の能力開発、意欲向上に寄与するため、対象者に本制度の意義や適切な目標設定等について理解させるとともに、評価者に共通の尺度や評価眼を養成し、公正・公平な評価を行うためのスキルとフィードバックのためのスキルを習得させることを目的とする。	10名 (+オンライン参加副課長 16名) 計 26名	金沢大学
	第17回中部地区メンター養成研修	職場におけるメンター、メンタリングに関する基本的な知識とコミュニケーション・スキルを習得させる。	3名	人事院中部事務局
	令和5年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修	国立大学法人を取り巻く環境が大きく変化する中、大学の事務組織には、変化に即応し、課題を解決する能力が求められる。そのためには、管理職が組織の力を最大限に活用することが必要であることから、それらを実現するための、マネジメント能力の向上を図ることを目的とする。	7名	金沢大学
	令和5年度金沢大学職員ビジネス英語研修	2014年度に採択された「スーパーグローバル大学創成支援事業」の一環として、本学における教育研究の国際化・グローバル化に対応するための事務職員等の英語力強化 (英検2級 (TOEIC600点) 以上) を目指し、さらに、本学が海外展開していくために求められる国際対応力を備えた事務職員等の養成を図る。	e-learning 17名 TOEIC-IP テスト 受験者 17名	金沢大学
	令和5年度公文書管理研修Ⅱ (第1回)	国立大学法人を取り巻く環境が大きく変化する中、大学の事務組織には、変化に即応し、課題を解決する能力が求められる。そのためには、管理職が組織の力を最大限に活用することが必要であることから、それらを実現するための、マネジメント能力の向上を図ることを目的とする。	1名	独立行政法人 国立公文書館
	令和5年度国立大学法人等部課長級研修	国立大学法人等の部長級、課長級職員を対象に、大学運営の基本的知識の修得と幹部職員としての能力の向上を図る。	1名	国立大学協会

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数（概数）	備考
事務局	石川県「コーチングスキル研修」	部下や後輩の育成にあたり、主体的に行動することができる職員を育成するためのコミュニケーション方法をはじめとしたコーチングのスキルについて習得する。	4名	石川県自治研修センター
	石川県研修「行政クレーム対応研修」	行政クレームへの対処方法を学ぶとともに、円滑な県民対応に資するコミュニケーション能力の向上を図る。	2名	石川県自治研修センター
	石川県「ネゴシエーションスキル(交渉力)向上研修」	窓口などの渉外業務を遂行する上で必要となる実践的な交渉力の向上を図る。	9名	石川県自治研修センター
	石川県「ワンペーパー資料作成研修」	様々な情報を図解等を用いて整理し、ワンペーパーにまとめるスキルを習得する。	計13名	石川県自治研修センター
	令和5年度国立大学病院係長級研修	国公立大学病院において現場を管理・運営する立場にある係長級の者に対し、与えられた各係の役割遂行に向けて、係内のメンバーを育成する等、生産性の高い係の構築により、成果を上げることが求められている。 本研修では、そのためのスキルや、次期課長補佐級としての資質向上を目指し、組織内外の関係者と調整するコミュニケーションスキル、問題解決の手法等を習得することを目的とする。	1名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
	石川県研修「ファシリテーションスキル向上研修」	会議などの集団活動を円滑に進める方法を学び、個々の力を最大限に引き出しながら、組織として効率よく質の高い成果をあげるために必要なスキルについて学ぶ。	4名	石川県自治研修センター
	石川県「説明力向上研修」	県民や上司などに対して、正確で分かりやすく説明するために必要なスキルやコツなどを実践的な演習を通して習得する。	7名	石川県自治研修センター
	令和5年度トップマネジメント経験研修	事務系の初任職員に対して、大学の運営に係る重要事項が実際にどのように決定されていくのか、また、大学のトップが、日々どのように思考し、どのような活動を行っているのか、身近に経験させる。 さらに、18歳人口が減り続ける状況下で、大学存続に対する危機感や、大学職員としての主体性を持って、事務をつかさどることができるよう、研修直後から年度末にかけて体系的にフォローすることにより、大学経営への関心を深め、将来大学経営に参画できる人材を育成する。	計13名	金沢大学

3-1 照会事項1 BSD研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数(概数)	備考
事務局	令和5年度東海・北陸地区国立大学法人等人事担当者(係長級以下)研修	この研修は、東海・北陸地区の国立大学法人、大学共同利用機関法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関(以下「国立大学法人等機関」という。)の人事担当者(係長級以下)に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、法人職員の資質の向上と職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	6名	国立大学法人豊橋技術科学大学
	石川県「文書作成力向上研修(基礎編)」	文書とは情報伝達のための重要な手段であることから、その作成についての基本原則やルールを学び、読み手にとって分かりやすく、かつ、適切な文書を作成する能力の向上を図る。	計11名	石川県自治研修センター
	石川県「アンガーマネジメント研修」	怒りの感情と上手く付き合い、ストレスの軽減や円滑なコミュニケーションを図る。	1名	石川県自治研修センター
	令和5年度東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会	東海・北陸地区国立大学法人等の事務職員に対して、国立大学法人会計基準等に関する知識を習得させ、かつ、国立大学法人等職員として必要となる見識を研修することにより、各職員の資質の向上を図ることを目的とする。	8名	岐阜大学
	令和5年度国立大学法人等施設担当職員研修会(初任クラス)	国立大学法人等の施設担当職員として自己の能力を十分に発揮できるよう、国立大学法人等の現況や動向などの概論について理解させるとともに、国立大学法人等の施設整備に係る多様な業務について、初任職員として必要な基礎的知識を習得させる。また、グループごとに課題テーマに対して全員で討議を行い、メンバーの相互コミュニケーションを通じてテーマに対する理解を深め、今後、業務に生かすことのできる人的ネットワークの構築を図る。	1名	国立大学協会
	令和5年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修	北陸地区国立大学法人等の中堅職員に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	20名	福井大学
	石川県「文書作成力向上研修(応用編)」	事例演習を通して、文書に説得力を持たせる構成方法を学ぶとともに多彩な表現方法に触れ、自らの文書表現力をさらに高める。	1名	石川県自治研修センター

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数（概数）	備考
事務局	令和5年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修	北陸地区国立大学法人等の係長・専門職員としての心構え及び職務遂行に必要な基本的、一般的知識を修得させるとともに、係長・専門職員としての能力及び識見を確立させ、国立大学法人等の管理運営の重要な担い手としての資質向上を図ることを目的とする。	10名	富山大学
	第18回中部地区メンター養成研修	職場におけるメンター、メンタリングに関する基本的な知識とコミュニケーション・スキルを習得させる。	4名	人事院中部事務局
	第12回国立六大学事務職員研修会	本研修会は、千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学の国立六大学の事務職員が、国立六大学連携コンソーシアムの趣旨を踏まえ、その具体的な連携・協力の推進や、大学間の垣根を越えた職員同士のネットワークの構築などを目的として実施するものである。	5名	熊本大学
	石川県「セルフケア能力向上研修」	心の調節力を高め、職務遂行上の適度なストレスと上手に付き合うための知恵を学び、生き生きと活動するためのセルフケア能力の向上を図る。	6名	石川県自治研修センター
	石川県「データの見方・活かし方研修」	ビッグデータをはじめとする統計データ等を理解・分析する力を養い、その活用方法を習得する。	3名	石川県自治研修センター
	令和5年度北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修	北陸地区の国立大学法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関（以下「国立大学法人等機関」という。）の管理職員に対し、立場と役割を認識し、能力及び識見を確立させ、職員としての資質向上を図ることを目的とする。	6名	北陸先端科学技術大学院大学
	2023年度国立大学法人等若手職員勉強会	国立大学等の継続的な発展に貢献する若手職員の力量向上 ①所属機関全体や職員としての役割・課題を自覚し、当事者意識を持って考える ②国立大学法人等とそれを取り巻く実状について主体的に学ぶ ③職員として必要な資質やマインドに気づき、自らが目指すべき職員像を意識する ④他機関の職員とのコミュニケーションを通してネットワークを構築する ⑤成果を所属機関へフィードバックし、各機関の発展に貢献する	2名	国立大学協会

3-1 照会事項1 BSD研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数（概数）	備考
事務局	甲種防火管理新規講習	防火管理の意義及び制度，火気管理，施設・設備の維持管理，防火管理に係る訓練及び教育，防火管理に係る消防計画などを学び甲種防火管理者として選任されることが出来る資格を取得する。	1名	日本防火・防災協会
	防災管理新規講習	防災管理の意義及び制度，施設・設備の維持管理，防災管理に係る訓練及び教育，防災管理に係る消防計画などを学び，防災管理に係る講習修了資格を追加して取得する。	1名	日本防火・防災協会

4 資料編

4-1 令和5年度授業評価アンケート

4-1 令和5年度授業評価アンケート

4-1-1 令和5年度授業評価アンケート回答率

令和5年度授業評価アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。令和4年度より新システムによる授業評価アンケートを実施しており、全体的に回答率が大幅に改善されている。特に、令和5年度においては、大学院課程での回答率に改善が見られる。

令和5年度授業評価アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考) 令和4年度回答率
【学士課程】		
共通教育	99.1%	99.1%
融合学域	98.0%	98.4%
人間社会学域	97.1%	85.9%
理工学域	73.0%	65.5%
医薬保健学域	88.4%	88.6%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	76.4%	87.7%
自然科学研究科	53.6%	47.0%
医薬保健学総合研究科	85.2%	77.1%
新学術創成研究科	93.0%	27.3%
法学研究科	—	—
【博士後期課程・博士課程】		
人間社会環境研究科	60.6%	72.7%
医薬保健学総合研究科	52.9%	35.3%
先進予防医学研究科	32.1%	30.8%
新学術創成研究科	71.4%	20.0%
【専門職学位課程】		
法学研究科	47.5%	63.5%
教職実践研究科	100.0%	100.0%

4-1 令和5年度授業評価アンケート

4-1-2 共通教育GS科目1~6群の回答結果比較

令和3年度から共通教育GS科目に新たに6群が加わり、1群から6群における共通設問「①授業内容の適切性」「②担当教員の説明の仕方」「③授業外学修時間」「④授業理解度」「⑤学修目標達成度」「⑥授業満足度」の6項目について比較を行った。「①授業内容の適切性」「②担当教員の説明の仕方」「⑤学修目標達成度」「⑥授業満足度」について、2群の科目が他群に比べ、平均スコアが高い。また、「③授業外学修時間」「④授業理解度」について、5群の科目が他群に比べ、平均スコアが高い。

2023年度		回答数	回答率	①授業内容の適切性 (-50~50の101段階 のスコア平均)	②担当教員の説明の仕方 (-50~50の101段階 のスコア平均)	③授業外学修時間 (授業1回あたり の時間数平均)	④授業理解度 (-50~50の101段階 のスコア平均)	⑤学修目標達成度 (-50~50の101段階 のスコア平均)	⑥授業満足度 (-50~50の101段階 のスコア平均)
共通教育 GS科目	1群	4,575	98.2%	30.1	26.3	3.4	24.3	24.7	25.5
	2群	6,657	97.9%	33.3	31.1	3.4	29.2	28.7	30.9
	3群	4,545	98.6%	31.7	30.3	2.8	28.4	27.7	29.7
	4群	5,053	97.8%	30.1	28.2	3.6	26.7	26.1	27.1
	5群	5,296	98.3%	32.9	31.0	3.7	29.4	28.4	29.5
	6群	6,220	98.6%	30.0	26.0	3.0	24.5	24.8	25.7

4-2 令和5年度卒業・修了者アンケート

4-2 令和5年度卒業・修了者アンケート

4-2-1 令和5年度卒業・修了者アンケート回答率

令和5年度卒業・修了者アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。学士課程・大学院課程ともに、回答率の改善が見られる。今後も、この傾向を続け、回答率の更なる向上に努める必要がある。

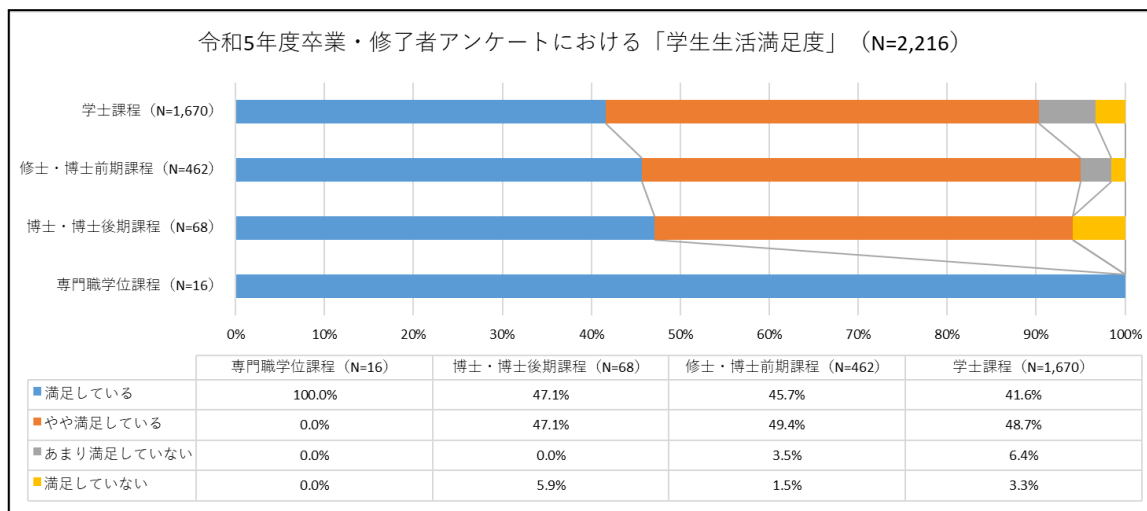
令和5年度卒業・修了者アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考)令和4年度回答率
【学士課程】		
人間社会学域	73.9%	53.9%
理工学域	65.7%	48.2%
医薬保健学域	68.4%	78.3%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	67.4%	50.0%
自然科学研究科	58.4%	38.4%
医薬保健学総合研究科	71.6%	81.4%
新学術創成研究科	42.9%	88.9%
法学研究科	100.0%	100.0%
【博士後期課程・博士課程】		
人間社会環境研究科	100.0%	55.6%
自然科学研究科	20.0%	3.7%
医薬保健学総合研究科	81.6%	71.2%
先進予防医学研究科	50.0%	—
新学術創成研究科	40.0%	66.7%
【専門職学位課程】		
法学研究科	66.7%	—
教職実践研究科	100.0%	100.0%

4-2 令和5年度卒業・修了者アンケート

4-2-2 令和5年度卒業・修了者アンケート結果による「学生生活満足度」

令和3年度から全学共通で4件法で設問している「学生生活満足度」の回答結果について、前年度同様、どの教育課程においても、概ね満足度が高い結果となっている。



4-3 令和5年度卒業・修了後アンケート

4-3 令和5年度卒業・修了後アンケート

4-3-1 令和5年度卒業・修了後アンケート回答者内訳

令和5年度卒業・修了後アンケートについて、前年度同様に、金沢大学IDを活用して実施した。今回からは、新たに制定した「金沢大学における教育の内部質保証に関する指針」（令和6年2月9日、令和5年度第12回教育企画会議決定）に基づき、卒業・修了後3年の者を対象に毎年度実施することとした。このため、今回は、令和2年度に卒業・修了した2,589名を対象に当該アンケートを実施した。令和6年3月26日～5月13日の回答期間において132件の回答があり、そのうち、有効回答数は113件（対象者2,589名、回答率4.4%）であった。

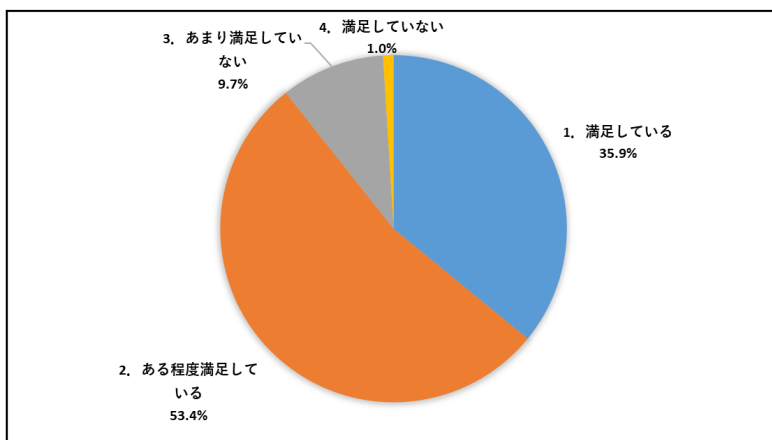
卒業・修了部局	回答者数
人間社会学域	33
理工学域	28
医薬保健学域	12
学士課程 小計	73
人間社会環境研究科	
博士前期課程	1
自然科学研究科	
博士前期課程	21
博士後期課程	3
医薬保健学総合研究科	
博士前期課程	8
博士課程	4
新学術創成研究科	
博士前期課程	2
教職実践研究科	1
大学院課程 小計	40
総計	113

4-3-2 現在の職種（N=105）

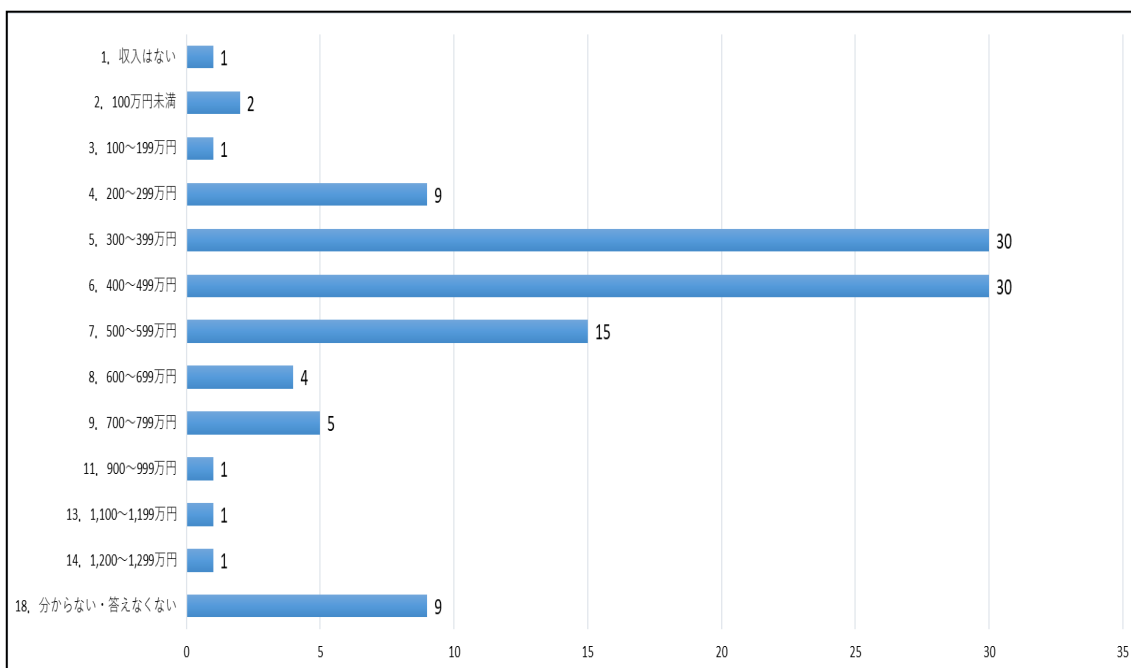
	1. 事務職	2. 経営・管理職	3. 技術職	4. 技能職	5. 教育職	6. 研究職	7. 販売・サービス	8. 専門職・自由業	11. アルバイト・派遣社員	その他	総計
人間社会学域	18	3	3		4		1		1	1	31
理工学域	2		17		1	3	1				24
医薬保健学域			3		1	3	1	2		2	12
人間社会環境研究科											
博士前期課程						1					1
自然科学研究科											
博士前期課程			2			1					3
博士後期課程			13			7					20
医薬保健学総合研究科											
博士前期課程			1	1	1	4		1			8
博士課程			1	1				2			4
新学術創成研究科											
博士前期課程			1								1
教職実践研究科					1						1
総計	20	3	41	2	8	19	3	5	1	3	105

4-3 令和5年度卒業・修了後アンケート

4-3-3 現在の職業満足度 (N=103)



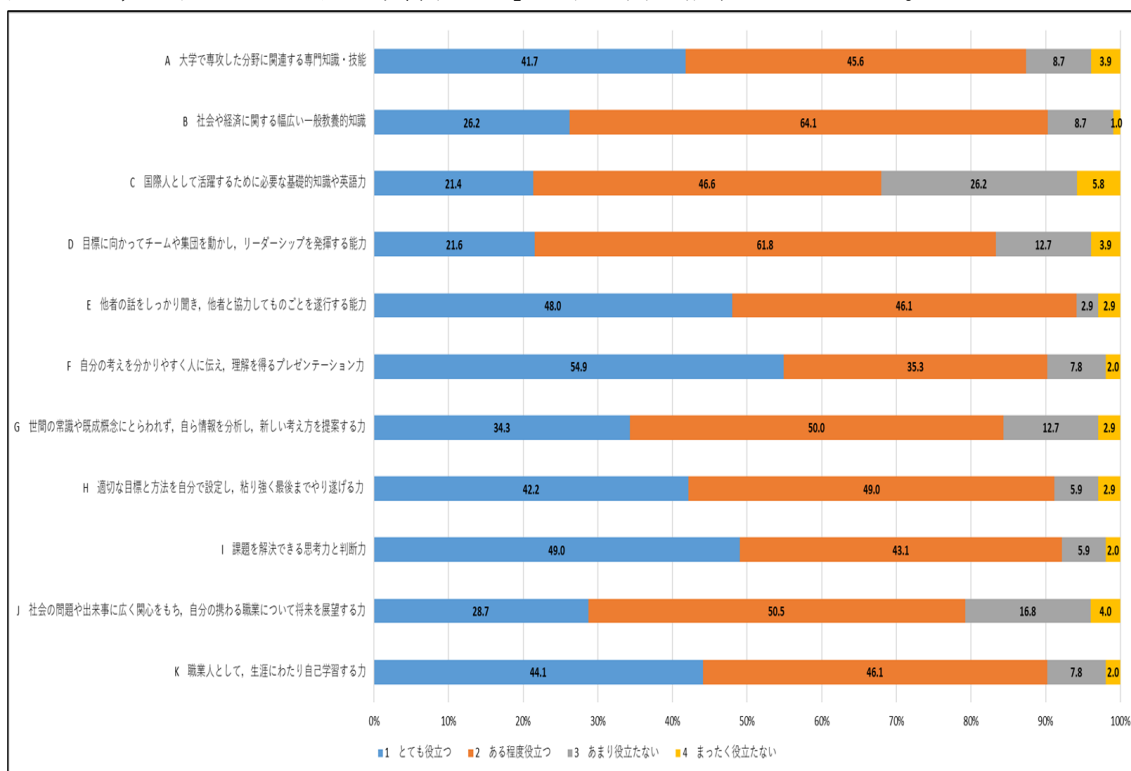
4-3-4 現在の個人年収 (N=109)



4-3 令和5年度卒業・修了後アンケート

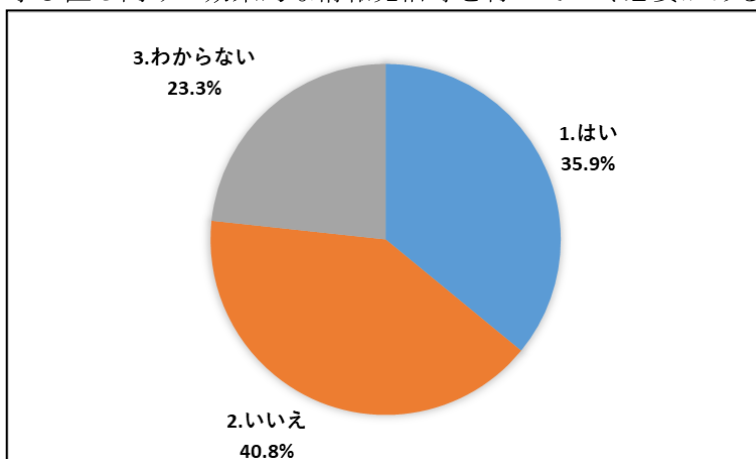
4-3-5 大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合い (N=103)

大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合いでは、「他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力」「適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力」「課題を解決できる思考力と判断力」「職業人として、生涯にわたり自己学習する力」が特に高い結果となっている。



4-3-6 大学・大学院における学び直しの希望の有無 (N=103)

問8の大学・大学院における学び直しについて、35.9%の割合で希望ありと答えており、学び直し向けの効果的な情報発信等を行っていく必要がある。



4 - 4 金沢大学 FD 委員会規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1031 号)

(設置)

第 1 条 金沢大学教育企画会議に、国立大学法人金沢大学基幹会議規程第 22 条第 1 項の規定に基づき、金沢大学 FD 委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、本学及び本学の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動を推進する事項について審議することを目的とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育方法等の調査・検討に関すること。
- (2) 研修会等の実施に関すること。
- (3) 各部局が実施する活動への支援に関すること。
- (4) その他全学的な連絡・調整に関すること。

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育担当理事が指名する学長補佐 1 人
- (2) 融合学域を担当する教員から選出された者 1 人
- (3) 人間社会学域、理工学域及び医薬保健学域を担当する教員から選出された者 各 2 人
- (4) 各研究科を担当する教員から選出された者 各 1 人
- (5) 国際基幹教育院に所属する教員から選出された者 1 人
- (6) 教学マネジメントセンターに所属する教員から選出された者 1 人
- (7) 学務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者 若干人

(任期)

第 5 条 前条第 1 号から第 6 号及び第 8 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 6 条 委員会に委員長を置き、第 4 条第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第 7 条 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(ワーキンググループ等)

第9条 委員会に、専門的事項を審議するため、ワーキンググループ等必要な下部組織を置くことができる。

(事務)

第10条 委員会の事務は、学務部学務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (抄)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

4-5 金沢大学におけるFD活動指針

平成21年3月9日	FD委員会承認
平成21年4月10日	教育企画会議承認
平成26年9月12日	教育企画会議改正
平成28年7月26日	FD委員会改正
平成29年3月10日	教育企画会議改正
令和3年6月4日	FD委員会改正
令和3年6月11日	教育企画会議改正
令和5年1月18日	FD委員会改正
令和5年3月10日	教育企画会議改正

本学は、社会の信頼に応える学士課程並びに大学院課程教育を実現するために、社会的要請に的確に対応し、本学が掲げる教育研究上の目的に根ざした人材を育成することができるように、質の高い教育を実施する責務を負っている。

金沢大学学則第3条において、本学は、教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、自ら授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行うことを定めている。もとより、授業の内容及び方法の改善は、各教員や部局等において地道に積み重ねられてきたものであるが、今後は、それらの改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げていかなければならない。

本指針に基づき、本学のFD及びSD活動がますます活発となり、一層本学の教育の質の向上及び学生支援の推進に繋がることを期待する。

(目的)

第1 この指針は、金沢大学におけるFD及びSD活動についての基本的事項を定め、授業の内容及び方法の改善、教職員による様々な学生支援及びそのための研究・教育に関する研修についての取組みを明らかにすることにより、本学の教職員及び部局等のFD及びSD活動を推進し、もって教育の質の向上を図り、学生支援の円滑な遂行を図ることを目的とする。

(定義)

第2 この指針において、「FD」(ファカルティ・ディベロップメント)とは、授業の内容及び方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取組みをいう。

2 この指針において、「SD」(スタッフ・ディベロップメント)とは、教育研究活動等の適切かつ効率的な運営を図るために必要な知識及び技能の習得並びに能力及び資質の向上を図るための教職員の研修等の自発的取組みをいう。

- 3 この指針において、「BSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。
- 4 この指針において、「教職員」とは、本学の常勤及び非常勤の教職員をいう。
- 5 この指針において、「指導補助者（教員を除く。）」とは、ティーチング・アシスタント、高度ティーチング・アシスタント、クラス・ラーニング・アドバイザーをいう。
- 6 この指針において、「部局等」とは、教職員個人を除き、学域・学類・研究科・センター等、FD活動に関して、組織的取組みを実施する主体をいう。

（教職員及び部局等の責務）

- 第3 本学の教員は、金沢大学学則第3条（自己点検評価及び研修等）及び金沢大学大学院学則第21条（授業の方法等）に基づき、個人として、積極的にFD活動に取り組むとともに、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 2 本学の職員は、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 3 部局等は、教員のFD活動を促進するために、組織的に授業の内容・方法の改善及び学生支援のための取組みや研修の計画を策定するとともに、その実施内容等を点検し、報告書を毎年度作成する。

（FD委員会の業務）

- 第4 FD委員会は、金沢大学FD委員会規程第3条に基づき、本学におけるFD及びBSD活動並びに本指針に関する事項を審議する。
- 2 FD委員会は、全学におけるFD活動に関する状況等を把握するとともに、それらの情報が全学的に共有されるよう努める。
- 3 FD委員会は、部局等の作成した報告書に基づき、当該年度の全学におけるFD活動に関する報告書（以下、「年度報告書」という。）を作成し、それを教育企画会議に報告する。

（FD委員会委員長による改善の措置等）

- 第5 FD委員会委員長は、部局等のFD活動の改善に必要と認めた場合、FD委員会の議に基づいて、改善のための適切な措置等を講ずるとともに、それを教育企画会議に報告する。

（年度報告書の公開）

- 第6 FD委員会委員長は、年度報告書を公表する。

（部局等の改善に向けての取組み）

- 第7 部局等は、自らFD活動の実施に努めるとともに、その活動内容等について、継続的に改善に努める。
- 2 部局等は、優れたFD活動を行っている教員への表彰や、研修会参加についての証明書発行等の、FD活動推進のための取組みを行うことができる。

(FD活動等への支援)

第8 教学マネジメントセンターは、FD、SD、BSD活動及び指導補助者（教員を除く。）への研修に対して、必要な支援を行う。

4-6 金沢大学における教育の内部質保証に関する指針

(令和6年2月9日 令和5年度第12回教育企画会議決定)

1. 趣旨

本指針は、大学設置基準第1条第3項の規定に基づき、金沢大学が教育の状況を点検及び評価し、自ら改善及び改革を行う内部質保証を有効に機能させるために定める。

2. 目的

大学設置基準第2条の2及び第19条第1項並びに学校教育法施行規則第165条の2の規定に基づき、「入学者の受入れに関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「卒業又は修了の認定に関する方針」(以下、「三つの方針」という。)に沿った教育の内部質保証体制を整え、教育課程の編成等や自己点検・評価、認証評価の結果を踏まえた不断の見直しを行うとともに、教育の実質化等による質向上を図る。

3. 方法

教育の内部質保証については、「教学マネジメント指針」(中央教育審議会大学分科会(令和2年1月22日))に沿って、「大学全体レベル」「学位プログラムレベル」「授業科目レベル」の3つのレベルに分けて捉える。

大学全体レベルについては、教育企画会議及びその下に設置された専門委員会が、教学マネジメントセンターの支援を受け、日常的な点検(モニタリング)及び総合的な点検・評価(レビュー)を行う。

学位プログラムレベルについては、三つの方針に則しつつ、あらかじめ定めた方法により、日常的な点検(モニタリング)を行うとともに、定期的に、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといった点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行うなど総合的な点検・評価(レビュー)を行うこととし、具体的な方法は次のとおりとする。なお、授業科目レベルについては、学位プログラムレベルに含め、日常的な点検(モニタリング)及び総合的な点検・評価(レビュー)を行う。

- (1) 学位プログラムの日常的な点検(モニタリング)として、各学位プログラムの責任者は、毎年度、当該学位プログラムの教育成果・学修成果に関する指標に基づき、日常的な点検を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。なお、本学においては、FD活動報告書を以て充てる。
- (2) 学位プログラムの総合的な点検・評価(レビュー)として、各学位プログラムの責任者は、原則として7年に1回、毎年度点検(モニタリング)する教育成果・学修成果等について、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといっ

4-6 金沢大学における教育の内部質保証に関する指針

た点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。

- (3) 毎年度1回の日常的な点検（モニタリング）及び7年に1回の総合的な点検・評価（レビュー）の結果について、教育の内部質保証の推進責任者である教育担当理事・副学長は、教育企画会議の議を経て、内部質保証の統括責任者（学長）に報告する。報告を受けた内部質保証の統括責任者は、必要に応じて推進責任者に改善を指示し、推進責任者は教育企画会議に改善方針等を示し、改善活動を行う。

4. 教育成果・学修成果に関する各種調査データ

日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）において参照すべき各種調査データは、次のとおりとする。

- (1) 日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）を行う際には、表に掲げる各種調査データを参照しながら、点検・評価を行わなければならない。
- (2) 表に掲げる各種調査データのほか、必要に応じ、在学者、卒業・修了者、企業等から大学全体及び学位プログラム等に関する意見聴取を行い、点検・評価に資することが推奨される。
- (3) (1)及び(2)に関する各種調査データの提供及び分析等について、各学位プログラムの責任者からの依頼の下、教学マネジメントセンターが支援する。

5. 雑則

本指針に定めるもののほか、教育の内部質保証に関し必要な事項は、別に定める。

表 教育成果・学修成果に関する各種調査データ一覧

調査名	指標	頻度	教学マネジメントレベル
新入生アンケート	志望理由，大学における学修に対する期待，入学者選抜に対する意見，希望進路，アドミッション・ポリシー，入試広報活動，入学後の学修・学生生活	毎年度（入学時）	大学全体レベル 学位プログラムレベル
授業評価アンケート	授業内容の適切性，担当教員の説明の仕方，授業外学修時間，授業理解度，学修目標達成度，授業満足度	毎年度（毎クォーターまたはセメスター）	授業科目レベル 学位プログラムレベル

4-6 金沢大学における教育の内部質保証に関する指針

学生生活実態調査	金沢大学<グローバル>スタンダードの修得度, 住居・通学手段, 経済状況, 学修時間, 学修環境・学生支援満足度, 課外活動・福利厚生施設への要望, その他要望事項	2年に1回	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了者アンケート	ディプロマ・ポリシー達成度, 学修及び学生生活の満足度, その他必要な事項	毎年度	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了後アンケート	在学中に身につけるべき能力の就職後の活用度, 職業満足度, 年収, その他必要な事項	毎年度 (原則として, 卒業・修了後3年の者を対象)	大学全体レベル 学位プログラムレベル
就業先アンケート	在学中に身に付けるべき能力の実装度及び期待度, 就職活動に対する対応度, その他必要な事項	2年に1回	大学全体レベル 学位プログラムレベル

4-7 金沢大学履修規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1079 号)

改正

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則第 49 条第 3 項の規定に基づき、授業科目の履修について必要な事項を定めるものとする。

(授業科目と履修方法)

第 2 条 授業科目は、共通教育科目(「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目をいう。)及び専門教育科目(学域に係る専門の学芸を教授することを目的とする授業科目をいう。)に区分する。

2 履修方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

第 3 条 共通教育科目は、「導入科目」、「GS 科目」、「GS 言語科目」、「基礎科目」、「初習言語科目」及び「自由履修科目」に区分する。

2 専門教育科目は、「学域GS 科目」、「学域GS 言語科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」に区分する。

(基幹教育特設プログラム)

第 4 条 特定分野の学修を目的として、共通教育科目及び各学類が提供する専門教育科目から編成する教育プログラム(以下「基幹教育特設プログラム」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 基幹教育特設プログラムにおいて、所定の単位を修得した者には、共通教育委員会の議を経て、国際基幹教育院長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、国際基幹教育院において別に定める。

(副専攻)

第 5 条 学生が所属する学域、学類並びにコース及び専攻に係る分野以外の分野又は課題に関する教育課程(以下「副専攻」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 副専攻において、所定の単位を修得した者には、当該学生が所属する学域の教育研究会議の議を経て、学域長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、各学域において別に定める。

(先導 STEAM 人材育成プログラム)

第 5 条の 2 幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的として、「先導 STEAM 人材育成プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 先導 STEAM 人材育成プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 先導 STEAM 人材育成プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(データサイエンス特別プログラム)

第5条の3 数理・データサイエンス・AI 活用のための基礎的知識を有する人材を育成するため「データサイエンス特別プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 データサイエンス特別プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 データサイエンス特別プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(教育職員免許状の取得に関する授業科目)

第6条 教育職員免許状を取得しようとする者は、別に定める「教科に関する専門的事項」, 「教育の基礎的理解に関する科目」, 「道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目」, 「教育実践に関する科目」, 「各教科の指導法」, 「大学が独自に設定する科目」及び「特別支援教育に関する科目」の単位を修得しなければならない。

(受講者の抽選・選抜)

第7条 一部の授業科目については、選抜試験又は抽選等で受講者を選定することがある。

2 前項の授業科目及び受講者の適正人数は、国際基幹教育院及び各学域において指示するものとする。

(履修手続)

第8条 学生は、履修を希望する授業科目について、別に定める履修登録期間に履修登録手続により学域長又は国際基幹教育院長に願い出、許可を受けなければならない。

2 学生は、履修登録期間後に履修を希望する授業科目の確認を行い、変更する場合は確認・変更期間内に手続を行わなければならない。

3 履修登録手続をしていない授業科目については、履修することができない。履修登録手続に不備又は誤りがあった場合も同様とする。

4 やむを得ない理由により、所定の期間内に履修登録手続を行うことができない場合は、その理由を付して学域長又は国際基幹教育院長に届け出なければならない。

(履修登録の制限)

第9条 各学期又は各クォーターに履修登録できる単位数の上限は、各学域及び国際基幹教育院で別に定める。

(履修許可の取消し)

第10条 履修を許可された後においても、本規程に違反して履修登録したことが判明した場合には履修の許可を取り消すことがある。

(単位認定対象資格)

第11条 次に掲げる各号のいずれかに該当する学生は、単位認定を受ける資格がないものとする。

- (1) 当該授業科目の履修登録をしていない者
- (2) 授業出席回数が国際基幹教育院及び各学域で定める出席すべき授業回数に満たない者
- (3) 休学期間が当該授業科目の開講期間と重なる者
(不正行為)

第12条 試験等における不正行為については、金沢大学学生懲戒規程の定めるところによる。

(単位確定時期)

第13条 各学期及び各クォーターにおける開講授業科目の単位確定時期は別に定める。ただし、卒業者については学位授与の日をもって単位確定の時期とする。

(成績の評価)

第14条 授業科目の成績は、次の各号に掲げる基準によるものとする。

評語 英訳(証明書) 評語 判定 学修達成度

- | | | | |
|--------|--------------|-----|-------------|
| (1) S | AA | 合格 | 90%以上 |
| (2) A | A | 合格 | 80%以上 90%未満 |
| (3) B | B | 合格 | 70%以上 80%未満 |
| (4) C | C | 合格 | 60%以上 70%未満 |
| (5) 合 | P : Pass | 合格 | 60%以上 |
| (6) 認定 | CF : Certify | 合格 | 60%以上 |
| (7) 不可 | | 不合格 | 60%未満 |
| (8) 否 | | 不合格 | 60%未満 |
| (9) 放棄 | | 不合格 | |

2 「合」及び「否」の評語は、一定水準の成績達成を目的とした授業科目において使用するものとする。

3 「認定」の評語は、本学の開講科目以外の授業科目及び外部試験等の結果により、評価する授業科目において使用するものとする。ただし、単位互換協定書その他により定めがある場合は、この限りでない。

4 単位認定を保留とする場合の基準及び保留後の成績評価方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

5 成績通知には、第1項の評語を用いる。

6 成績証明書には、判定が合格となった授業科目のみ記載し、第1項の評語を用いる。ただし、認定は「認」と表示する。

(総合成績評価)

第15条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語GP

- (1) S 4点
 - (2) A 3点
 - (3) B 2点
 - (4) C 1点
 - (5) 合 対象外
 - (6) 認定対象外
 - (7) 不可0点
 - (8) 否 対象外
 - (9) 放棄0点 (第14条第2項に規定する評語を用いる科目については対象外)
- 2 単位認定が保留となった授業科目のGPは、0点とする。
 - 3 GPAを算出する基準は、次のとおりとする。

$$GPA = (\text{授業科目で得たGP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$$
 - 4 成績証明書には、GPAは明記しない。
 - 5 GPAにおける保留授業科目は、履修登録した授業科目の単位数の総和に含める。
 - 6 再履修の取扱いについては、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。
 - 7 GPA対象外授業科目は、次のとおりとする。
 - (1) 共通教育科目
 「導入科目」、 「いしかわシティカレッジの他大学提供科目」、 「放送大学の授業科目」、 「入学前の既修得単位を認定した授業科目」及び「外部試験によって「認定」の評語で単位認定した授業科目」
 - (2) 前号以外の共通教育科目については、各学域において別に定める。
 - (3) 専門教育科目については、各学域において別に定める。
 (成績評価の疑義申し立て)
- 第16条 成績の評価に対する疑義申し立てについては、「成績評価への疑義申し出に対する対応についての申し合わせ」による。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行し、平成20年度入学者から適用する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行し、平成21年度入学者から適用する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行し、平成28年度入学生から適用する。
- 2 平成28年3月31日に在学する者については、なお従前の例による。ただし、第4条第2項に定める共通教育特設プログラムの修了認定は、国際基幹教育院長が行うものとする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

4-8

金沢大学シラバス様式

○○学域 ○○学類

科目名[英文名] / Course Title	
担当教員名[ローマ字表記] / Instructor	
科目ナンバー / Numbering	
時間割番号 / Course Number	科目区分 / Subject distinguished
講義形態 / Lecture Form	開講学域等 / Faculty
適正人数 / Number of Proper	開講学期 / Semester
曜日・時限 / Day・Period	単位数 / Number of Credits
授業形態 / Class Format	60単位上限 Class to a maximum of 60 credits
対象学生 / Target students	
キーワード / KeyWord	
講義室情報 / Lecture room information	
開放科目 / Open account	
備考 / Note	
授業の主題 / Topic	
学修目標 (到達目標) / Objective	
授業概要 / Outline	
講義スケジュール / Lecture Schedule	
評価方法と割合 / Grading Method 【評価方法 / Grading Method】 ※成績評価: 次項の項目及び割合で総合評価し、次のとおり判定する。 「S (達成度90%~100%)」, 「A (同80%~90%未満)」, 「B (同70%~80%未満)」, 「C (同60%~70%未満)」を合格とし, 「不可 (同60%未満)」を不合格とする。(標準評価方法)	
【評価の割合 / Grading Rate】 【ルーブリック / Rubric】 【ルーブリック備考 / Rubric note】	
授業時間外の学修に関する指示 / Learning outside of class hours 【予習に関する指示 / Preparation】 【予習に関する教材 / Materials on preparatory studies】 【復習に関する指示 / Homework】 【復習に関する教材 / Materials on homework】	
教科書・参考書 / Books 【教科書 / Text Books】 【参考書 / Reference Books】 【教科書・参考書補足 / Teaching Materials Note】	
オフィスアワー等 (学生からの質問への対応方法等) / Consultation Time	
履修条件 / Prerequisites 【適正人数 / Class Size】 【受講者調整方法 / Method for adjusting class size】 【その他履修上の注意事項や学修上の助言 / Others】	
特記事項 / Special Note 【カリキュラムの中の位置づけ / Position of Curriculum】 【特記事項 / Special note】	

4-9

令和5年度 FD委員会

事務担当：学務部学務課教育推進係

任期2023. 4. 1～2024. 3. 31

部 局 等	職 名	氏 名
〔委員長〕	学長補佐	片岡 邦重
融合学域	准教授	河内 幾帆
人間社会学域	准教授	阪口 博政
人間社会学域	教授	寺沢 なお子
理工学域	教授	下川 智嗣
理工学域	教授	長尾 秀実
医薬保健学域	教授	吉田 栄人
医薬保健学域	教授	松原 孝祐
人間社会環境研究科	教授	碓山 洋
法学研究科	教授	宮本 誠子
自然科学研究科	教授	深田 宰史
医薬保健学総合研究科	教授	藤永 由佳子
先進予防医学研究科	教授	所 正治
新学術創成研究科	教授	坂本 二郎
教職実践研究科	教授	大谷 実
国際基幹教育院	教授	滝野 隆久
教学マネジメントセンター	教授	林 透
事務局学務部	学務部長	松本 佳子



令和5年度
金沢大学FD活動報告書
令和6年8月発行

編集・発行 金沢大学FD委員会

〒920-1192 金沢市角間町

E-mail : kyomu@adm.kanazawa-uac.jp (学務部学務課)